

仁淀川町

(金抜)

高知県 吾川郡仁淀川町 岩丸

令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事 実施設計書

作業区分 請負

完成期限 令和 8年 3月31日

繰越手続予定。繰越承認されたときの標準工事日数250日

金抜設計書

設計変更により請負金額を変更する必要がある場合は、「請負更正金額等の算出方法について（通知）」により、変更の協議を行うものとする。

令和 8年 1月 1日 積算単価適用

特 記 仕 様 書

第1条 土木工事共通仕様書の適用

- 1 本工事の施工にあたっては、「高知県建設工事共通仕様書」に基づき実施しなければならない。

但し、共通仕様書の各章における「適用すべき諸基準」で示された示方書、指針、便覧等は改訂された最新のものとする。なお、工事途中で改訂された場合は、この限りではない。

第2条 環境物品等の調達の推進（グリーン購入法）

- 1 本工事において「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）及び「環境物品等の調達に関する基本方針及び調達方針」に基づき重点調達品目について積極的な利用をすること。なお、重点調達品目の中で木材・木製品等においては、その原料とされる原木が生産された国における森林に関する法令に照らして合法なものを使用することとする。

第3条 県内産資材の優先使用

- 1 本工事に使用する資材は、機能、品質、価格等が同等であれば、県内産資材を優先して使用するものとする。

なお、県外産資材を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打合せ事項に記載し、監督員の確認を受けること。また、検査時に県外産資材を使用した理由を検査職員に説明すること。

注1：県内産資材とは、高知県内で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工した資材、又は高知県外で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工された資材をいう。

ただし、①木材は、高知県内の森林から生産されたもの、②生コンクリートの細骨材に配合する海砂は、高知県内で産出されたもの、③木製型枠は、高知県内の森林から生産された木材で製造されたものとする。

注2：県外産資材とは、県内産資材以外の資材をいう。

第4条 木製型枠の使用

- 1 木製型枠とは、杉、檜の間伐材等を板材に加工したものと桟木を組み合わせて作成した型枠（以下「木製型枠」という。）をいう。また、一般型枠とは、鋼材または、合板で作成した型枠（以下「一般型枠」という。）をいう。
- 2 設計図書等に「木製型枠」と明示している構造物は、木製型枠を標準的に使用すること。ただし、止め型枠・パチ部への一般型枠の使用は可能とする。
- 3 高知県内産材を用いて木製型枠を製造する事業所は、高知県ホームページ（<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/housin-keikaku/>）林業振興・環境部木材産

業振興課のページに掲載しているので参考にすること。

なお、県外産材で製作した木製型枠を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打ち合わせ事項に記載し監督職員の確認を受けること。

- 4 木製型枠は、型枠の現場搬入時から型枠組立、型枠脱型までの施工期間中に現場で木製型枠であることの確認を受けなければならない。確認の方法については、県産材で製作した型枠及び県産材材料には製造者が証明（スタンプ等）を行っているため、その箇所を工事監督職員に提示することで確認とする。
- 5 木製型枠を使用できない事由があり、一般型枠を使用する場合も、その使用理由を施工計画書の打ち合わせ事項に記載すること。ただし、その場合は一般型枠への設計変更を行う。
- 6 受注者は、発注者が行う木製型枠に関する調査に協力しなければならない。

第5条 木材等を使用した公共土木施設の実績調査

- 1 本工事の受注者は、木材の利用の有無を問わず、木材等を使用した公共土木施設の実績を【高知県電子申請サービス】から申請すること。なお、【高知県電子申請サービス】による申請は以下のとおりとする。

2 申請について

- (1) 受注者が高知県ホームページの高知県電子申請サービスのページから電子申請を行う。

(https://s-kantan.jp/pref-kochi-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=2052)

手続き名：高知県土木部 公共土木工事木材利用実績調査

- (2) 申請前に電子申請システムから出力した「高知県土木部 公共土木工事木材利用実績調査」を工事監督職員へ提出し確認を受けること。
- (3) 申請内容に関する問合わせは工事監督職員または高知県土木部技術管理課、システム操作に関する問合わせは「お問合せコールセンター」（申請画面下に掲載）とする。

第6条 工事現場における県内産木材の木製品使用

- 1 受注者は、工事請負金額（消費税含む）が250万円以上の場合、「高知県産材利用推進方針」の行動計画に基づき、仮設備や保安施設等の工事中仮設に関する資材は以下の通り、木製品を使用しなければならない。
ただし、これらに関する経費は諸経費に含むものとする。
- (1) ア～オの資材のうち、いずれかに必ず木製品を使用すること。
ア 掲示板（現場組織表、緊急連絡先など公衆に知らせるため設置するもの）

特 記 仕 様 書

- イ 工事看板（１ヶ所以上）
- ウ バリケード（１品以上）
- エ 木製クッションドラム（１品以上）
- オ 交通安全管理等の標示板

ただし、供用中の道路に係る工事の施工に用いる交通安全管理用標示板の様式仕様等（形態、寸法、色彩ほか）は、「道路工事の安全施設設置要領（案）」（平成８年３月）に準拠すること。

- （２）上記１の資材を必要としない工事、委託業務については、その旨を施工計画書に記載し監督職員の確認を得ること。

その場合は、上記１以外の仮設備、保安施設等の工事に用仮設資材で木製品をできるだけ１品以上使用すること

例：現場事務所の棚、机、靴箱、ベンチ等

注１：木製品とは、県内産木材で作成した製品または県内産木材の板材を受注者が加工したものとする。

注２：別工事で購入（加工）した木製品の使用も可とする。

注３：使用する木製品については、施工計画打ち合わせ時に監督職員に報告すること。

注４：県内産木材使用（納入）証明書は必要としないが、木製品の写真を工事写真に納めること。

第 7 条 個人情報の保護

- １ 受注者は、この契約による工事を施工するための個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法律を遵守すること。

第 8 条 ダンプトラック等による過積載の防止

- １ 積載重量制限を越えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- ２ さし枠装着車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- ３ 過積載車両、さし枠装着車等から土砂等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。
- ４ 取引関係のあるダンプトラック事業者が過積載を行い、またさし枠装着車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- ５ 建設発生土の処理及び資材の購入等にあって、下請け業者及び資材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- ６ 以上のことにつき受注者は、下請け業者を十分に指導すること。

第 9 条 軽油単価の適正な運用

- １ 本工事において、受注者もしくは受注者の下請業者等が使用する建設機械の動力

源に使用する軽油において、軽油引取税の課税対象の免許証の交付及び承認がある場合は、すみやかに発注者に報告しなければならない。また、その場合、該当する建設機械に使用する軽油単価は免税後の単価に変更するものとする。

第 10 条 不正軽油の使用禁止

- １ 受注者は、工事の施工に当たり、使用する車両及び建設機械等の燃料として、不正軽油を使用してはならない。

注：不正軽油とは、地方税法第 144 条の 32 の規定による県知事の承認を受けないで製造又は譲渡された次のものをいう。

- ① 軽油と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和したもの
- ② 軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和して製造されたもの
- ③ 自動車の燃料として譲渡・消費される燃料炭化水素（重油、灯油等）

- ２ 受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。

第 11 条 週休 2 日制工事の実施について

本工事は、週休 2 日制工事実施要領における「週休 2 日制工事」（月単位）の対象工事である。詳細については、下記ホームページに掲載する同要領を参照すること。

高知県土木部土木政策課ホームページ

(<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/170000/170201/>)

なお、発注時において労務費等を補正済みであり、月単位の現場閉所率（週休 2 日交替制工事の場合は、休日確保）が 28.5% に満たない場合又は週休 2 日制工事が週休 2 日交替制工事に変更となった場合は、該当補正分を減額して契約変更を行うものとする。

第 12 条 工事実績データ作成、登録

- １ 高知県建設工事共通仕様書共通編 1-1-1-7 に基づき、受注者は工事請負金額 500 万円以上（単価契約の場合は登録不要）の全ての工事について、工事実績情報サービス（コリンズ）に受注・変更（工期、請負代金額、技術者）・完成・訂正時の工事実績データを登録しなければならない。

第 13 条 公共事業労務費調査に対する協力

- １ 本工事が高知県の実施する公共事業労務費調査の対象工事になった場合は、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し高知県に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- ２ 調査票等を提出した事業所を高知県が事後に訪問して行う調査・指導の対象に受

特 記 仕 様 書

注者がなった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。

3 公共事業労務費調査の対象工事になった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は、労働基準法等に従って就労規則を作成するとともに賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。

4 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請人を含む）が前3項と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

第14条 施工形態動向調査等に対する協力

1 本工事が高知県の実施する施工形態動向調査等の対象工事となった場合は、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し高知県に提出する等、必要な協力を行わなければならない。なお、調査費用は設計変更により計上することとする。

第15条 再生資源利用（促進）計画書及び実施書の提出並びに建設発生土の搬出に係る事前確認及び受領書について

1 受注者は、建設資材の利用量の大小に関わらず工事請負代金額が100万円以上の場合、又は、土砂の搬入量又は搬出量が500m³以上の場合、再生資源利用計画書及び実施書（建設リサイクルガイドライン様式1）を建設副産物情報交換システム（以下「コブリス・プラス」という。）により作成し、提出しなければならない。

2 受注者は、建設副産物の搬入量・搬出量の大小に関わらず工事請負代金額が100万円以上の場合、又は、土砂の搬入量又は搬出量が500m³以上の場合、再生資源利用促進計画書及び実施書（建設リサイクルガイドライン様式2）をコブリス・プラスにより作成し、提出しなければならない。

3 受注者は、500m³以上の建設発生土を搬出する建設工事において再生資源利用促進計画を作成しようとするときは、あらかじめ工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更についての土壤汚染対策法等の手続きの確認並びに搬出先が宅地造成及び特定盛土等規制法及び土砂条例の許可地等であるかなどの確認を行い、その確認結果を記載した書面を作成し再生資源利用促進計画の添付資料とする。

4 受注者は、再生資源利用（促進）計画書の内容を発注者に説明しなければならない。また、再生資源利用（促進）計画書（現場掲示用様式）を公衆が見やすい場所に掲げること。

5 受注者は、500m³以上の建設発生土を搬出する建設工事において建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに、当該搬出先の管理

者に対し、受領書の交付を求め、記載された搬出先の名称及び所在地が計画と一致することを確認する。なお、発注者から請求があった場合は速やかに受領書を提示すること。

6 受注者は、建設発生土を再生資源利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、搬入元の管理者に対し受領書を交付する。

7 受注者は、再生資源利用（促進）計画書、実施書及び受領書を工事完了日から5年を経過する日まで保存すること。

（参考）コブリス・プラスについては、建設副産物情報センターのホームページ（<https://fkplus.jacic.or.jp/>）より、利用申請等を行うことができる。

第16条 産業廃棄物管理票等の提出

1 受注者は、本工事に伴い発生する産業廃棄物（以下「産業廃棄物」という。）について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃掃法」という。）を遵守し工期内に最終処分（埋立処分、海洋投入処分、又は再生）を終了しなければならない。また、受注者は産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに発注者にそのE票の確認を受けなければならない。

ただし、廃掃法を遵守したうえで、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、発注者が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとするが、最終処分終了後すみやかに発注者にその旨を報告しなければならない。この場合、受注者は産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに発注者にそのB2票の確認を受けなければならない。また、最終処分終了後すみやかにE票の確認を受けなければならない。なお、廃掃法に定める電子情報処理組織を使用する場合は、監督職員と別途協議するものとする。

第17条 建設副産物対策（建設副産物処理の数量確認）

本工事において、現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から建設副産物を搬出する場合、受注者は、搬出時等に以下のいずれかの作業を行い撮影したデジタル写真（電子データ）等を設計数量の確認資料として、監督職員に提出等をするものとする。

（作業内容）

（1）建設副産物の処理数量を重さ（「t」）の単位とする場合

①受注者は、建設副産物を現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から搬出する時、工事黒板に運搬車のナンバー、出発時刻を記載し（運搬を他者に委託する場合は、マニフェスト交付番号も記載する。）、工事黒板と荷姿、

特 記 仕 様 書

運搬車のナンバーが写るよう運搬車後面のデジタル写真撮影をする。（各積載重量別車両毎に1工程以上（以下「代表写真」という。））

②受注者は、①の全車両について処理施設に設置されているトラックスケールにて、重さを測定し、レシート等の記録を保管する。

③受注者は、監督職員に①の電子データを提出し、②の記録を提示する。

（2）建設副産物の処理数量を体積（「m³」）の単位とする場合次の1）から3）のうち、いずれかの方法により確定する。

1）コンクリート殻、アスファルト殻及び土砂など地山の状態または、建設発生木材（伐採木を含む）を山積みした状態等で体積確認ができるものは、地山測定による設計数量の確定をする。

受注者は、建設副産物を現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から搬出する時、工事黒板に運搬車のナンバー、出発時刻を記載し（運搬を他者に委託する場合は、マニフェスト交付番号も記載する。）、工事黒板と荷姿、運搬車のナンバーが写るよう運搬車後面のデジタル写真撮影をする。（代表写真）

2）前記「（1）建設副産物の処理数量を重さ（「t」）により確認する場合」により重さを測定し、換算係数を用いて体積を算出して設計数量を確定する。

- ・コンクリート塊（鉄筋）2.5（t/m³） ・コンクリート塊（無筋）2.35（t/m³）
- ・アスファルト塊2.35（t/m³） ・掘削土（土砂）1.8（t/m³）
- ・掘削土（軟岩）2.2（t/m³） ・掘削土（硬岩）2.5（t/m³）

3）地山状態または、建設発生木材（伐採木を含む）を山積みした状態等で体積確認ができずに、掘削や取壊しなどを行った場合は、現場外への搬出の際に以下により確認する。

①受注者は、建設副産物を現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から搬出する時、工事黒板に運搬車のナンバー、出発時刻を記載する（運搬を他者に委託する場合は、マニフェスト交付番号も記載する。）。

（全車写真）

②受注者は、①の工事黒板と併せ、積荷の体積が確認できるようリボンテープ等のスケールをあてデジタル写真撮影をする。（全車写真）

③また、②の状態のまま運搬車のナンバーが写るよう運搬車後面のデジタル写真撮影をする。（全車写真）

④受注者は、監督職員に②③の電子データを提出する。

（3）受注者と処理施設との間の処理数量を「台数」による契約とする場合

①受注者は、建設副産物を現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から搬出する時、工事黒板に運搬車のナンバー、出発時刻を記載する（運搬を他者に委託する場合は、マニフェスト交付番号も記載する。）。

（全車写真）

②受注者は、①の工事黒板と併せ、積荷の体積が確認できるようリボンテープ等のスケールをあてデジタル写真撮影をする。（全車写真）

③また、②の状態のまま運搬車のナンバーが写るよう運搬車後面のデジタル写真撮影をする。（全車写真）

（4）建設副産物（建設発生木材（伐採木を含む））を木材市場等に搬出する場合

①受注者は、木材を現場内（現場外に仮置きした場合は積替保管場所）から搬出する時に、工事黒板に運搬車のナンバー、出発時刻を記載する。

（木材市場等まで運搬を他者に委託する場合は、マニフェスト交付番号も記載する。ただし、伐採木の売却を目的とした伐採木の枝打ち、玉切り等の加工、選別をしたものは、マニフェスト交付番号の記載は必要ない。）

②受注者は、①の工事黒板と併せ、積荷の体積が確認できるよう運搬車のナンバーが写るよう運搬車後面のデジタル写真撮影をする。（代表写真）

③受注者は、監督職員に②の電子データを提出し、木材市場等の受入伝票等を提示する。

第18条 監督職員による検査（確認を含む）及び立会等

1 監督職員の立会を要する工種については、施工計画書提出時に、立会時期・頻度等を定めるものとする。

第19条 施工管理

1 品質管理は「高知県工事技術管理要綱 品質管理基準」により実施し、その他の試験区分についても必要に応じて試験を行うものとする。

第20条 排出ガス対策型建設機械

1 本工事において、以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領」（平成3年10月8日付建設省経機発第249号 最終改正平成22年3月18日付国総施第291号）」、排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程（国土交通省告示第348号、平成18年3月17日）」もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領（平成18年3月17日付け国総施第215号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成17年法律第51号）」に基づき、技術基準に適合するものとして

特 記 仕 様 書

届出された特定特殊自動車を、本工事において使用する場合はこの限りではない。

排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明等により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。

ただし、これにより難い場合は監督職員と協議するものとする。また、請負金額（税込）が5千万円以下の工事については、未対策型建設機械を所有しており、新たな出費を強いられる等の理由がある場合は、施工計画打ち合わせ時に監督職員と協議し、止むを得ないと判断された場合は、未対策型建設機械を使用することができるものとする。

排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、受注者は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、電子納品の際に施工状況写真に格納すること。

機 種

- ・バックホウ
- ・トラクタショベル（車輪式）
- ・ブルドーザ
- ・発動発電機（可搬式）
- ・空気圧縮機（可搬式）
- ・油圧ユニット（次に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの 油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引拔機、油圧式杭圧入引拔機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機）
- ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ
- ・ホイールクレーン（ラフテレーンクレーンを含む）

※対象はディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。

第21条 交通誘導警備員の配置

- 1 交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法（昭和47年法律第117号）第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させてはならない。

ただし、一時的な作業等で、安全確保に対処できると監督職員が認めたものについては、この限りでない。

- 2 交通誘導警備員Aが必要な交通誘導警備業務については、交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員を交通誘導警備業務を行う場所ごとに、1人以上配置することとする。

なお、配置する警備員の検定合格証の写しを事前に監督職員に提出し、警備員に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同資料を提出することとする。

- 3 交通誘導警備員Aが必要でない交通誘導警備業務については、警備業者の警備員であれば、交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員である必要はない。

また、警備業者の警備員の配置が困難な場合は、別に定める手続きにより、警備業者の警備員によらず建設作業員等の他職種の者を交通誘導員として従事させることができることとする。なおその際、受注者は、交通誘導に関する安全教育を建設作業員等に行なったうえ、交通誘導員として専任させること。

- 4 交通誘導警備員の人手不足により、施工箇所周辺の警備業者からの配置が困難であり、やむなく現場までの通勤が長時間となる場合において、その費用の設計計上を希望する場合は、建設工事請負契約書第18条（契約変更）に基づき、「移動距離及び移動時間が確認できる資料」及び契約予定の警備業者より施工箇所に近い、全ての警備業者（営業所等含む）の「交通誘導警備員の配置に関する確認書」を付して確認請求を行うこと。

ただし、対象となる警備業者の「交通誘導警備員の配置に関する確認書」が提出できない場合は、設計変更の対象としないものとする。

- 5 交通誘導警備員の高齢化、就業者不足等により、交通誘導警備員の確保が困難な場合において、交通誘導警備員の代替えとして映像解析AI等による交通誘導システム（以下、交通誘導システム等）の使用を可能とする。

交通誘導システムの使用を希望する場合は、建設工事請負契約書第18条（契約変更）に基づき、複数社から徴収した「交通誘導警備員の配置に関する確認書」及び交通誘導システム等の見積書を付して協議を行うこと。

第22条 設計図書の変更

- 1 設計変更等については、建設工事請負契約書第18条から第20条及び第22条から第25条並びに高知県建設工事共通仕様書共通編1-1-1-15から1-1-1-17に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「建設工事請負契約における設計変更ガイドライン（令和2年4月

特記仕様書

（高知県土木部））」によることとする。

第23条 法定外の労災保険の付保

- 1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

第24条 監理技術者等

- 1 本工事において、建設業法第26条第3項第2号に規定する監理技術者（以下、「専任特例2号による監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（1）～（12）の要件を全て満たさなければならない。

- （1）兼務する工事が社会機能の維持に不可欠な工事（維持委託業務等を含む。）でないこと。（例：24時間体制で応急処置作業や巡回パトロール等が必要な工事等）
 - （2）低入札価格調査制度の調査対象工事でないこと。
 - （3）同一の専任特例2号による監理技術者が配置できる工事の数は、同時に2件までであること。
 - （4）専任特例2号による監理技術者が兼務できる工事は、専任特例2号による監理技術者として職務を適正に遂行できる範囲内にあること。具体的には、工事現場の相互の距離が10km程度以内の近接した場所であること。
 - （5）専任特例2号による監理技術者が兼務できる工事は、高知県発注工事以外（公共工事に限る。）でも可能とする。
 - （6）専任特例2号による監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行できること。
 - （7）専任特例2号による監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
 - （8）建設業法第26条第3項第2号に規定する監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
 - （9）監理技術者補佐は、主任技術者の要件を満たしている者のうち、1級施工管理技士補を有する者又は1級施工管理技士等により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例2号による監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
 - （10）監理技術者補佐は、受注者と直接的かつ恒常的（3ヶ月以上）な雇用関係にあること。
 - （11）監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
 - （12）兼務する工事の発注者に本工事との兼務について承諾を得ること。
- 2 本工事の監理技術者が専任特例2号による監理技術者として兼務することとなる場合、「建設業法第26条第3項第2号に規定する監理技術者及び監理技術者補佐の取扱

いについて」（令和5年3月14日付け4高土政第1343号土木部長通知 最終改正：令和7年1月23日付け6高土政第1196号）に規定する別記様式1、別記様式2及び1の（1）～（12）の事項について確認できる書類を「現場代理人・技術者届」に添付し、提出すること。

- 3 本工事において、専任特例2号による監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にコリンズ（CORINS）への登録を行うこと。

第25条 工期

工期には、実働日数、雨天日、準備期間、後片付け期間及びその他作業不能日が含まれる。

また、工期に猛暑日を含むと想定される工事には、猛暑日日数9日が工期に含まれている。なお、実際の猛暑日日数が9日から大きく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合は、受注者は発注者へ工期の延長変更を請求することができる。

（港湾工事及び港湾海岸工事を除く）

※猛暑日とは、8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数（休日を除く）とする。WBGT値は、環境省熱中症予防情報サイトに掲載されている観測データによる。

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

【工程関係】

1. 他の工事による施工時期及び全体工期等への影響・・・・・・・・無

2. 施工時期、施工時間及び施工方法の制限・・・・・・・・無

3. 当該工事の関係機関との協議の未成立事項・・・・・・・・無

4. 他官庁等の特定条件による影響・・・・・・・・無

5. その他・・・・・・・・無

【用地関係】

1. 工事用地等の未処理部分・・・・・・・・無

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

2. 仮設ヤード等に官有地及び発注者借り上げ地の使用・・・・・・・・無

【安全対策関係】

1. 交通安全施設等の指定・・・・・・・・無

2. 近接する公共施設・・・・・・・・鉄道・ガス・電気・電話・水道

（1）添架物 水道管有り

3. 防護施設の必要・・・・・・・・落石・土砂崩落・・・・・・・・無

4. 発破作業等の保安設備及び保安要員の配置の指定・・・・・・・・無

5. 発破作業等の制限・・・・・・・・無

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

【工事用道路関係】

1. 一般道路を搬入路として使用する場合

(1) 経路、期限の制限・・・・・・・・無

(2) 使用中及び使用後の処置・・・・・・・・無

2. 仮設路を設置する場合

(1) 安全施設等の設置の必要・・・・・・・・無

(2) 工事終了後の措置・・・・・・・・撤去

(3) 維持及び補修の必要・・・・・・・・無

3. 一般道路の占用の必要・・・・・・・・無

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

【仮設備関係】

1. 仮土留、仮橋、足場等の仮設物を次年度に使用又は転用、兼用の予定・・・・・・・・無

2. 仮設備の構造、施工方法の指定・・・・・・・・無

3. 仮設備の設計条件・・・・・・・・無

【建設副産物関係】

1. 建設発生土の搬出・・・・・・・・無

2. 建設副産物の現場内での再利用及び減量化が必要・・・・・・・・無

3. 産業廃棄物の処理条件（*処理を委託する場合は、委託契約条件締結のうえマニフェストを使用のこと）

（1）無筋Con

処理場所

高岡郡日高村本村焼坂663-2他

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

処理方法（指定） 再資源化

処理場の受入条件

※上記については、「処理方法」は指定とするが、「処理場所」は、積算上の
条件明示であり指定事項ではない。

【公害対策関係】

1. 公害防止（騒音・振動・粉じん等）のため、施工方法、機械施設・作動時間等の制限・・・・・・・・無

2. 第三者に被害を及ぼすことの懸念・・・・・・・・無

【工事支障物件関係】

1. 地上、地下等の支障物件・・・・・・・・無

2. 地上、地下等の占用物件工事と重複施工・・・・・・・・無

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

【排水工（濁水処理を含む）関係】

1. 濁水、湧水等の処理対策の指定・・・・・・・・無

【現場環境改善関係】

1. 現場環境改善費・・・・・・・・無

【その他】

1. 工事用資機材等の保管指定・・・・・・・・無

2. 工事現場発生品の処理指定

(1) 品名：鋼材

数量：0.1t

処理方法：スクラップ

3. 支給資材及び貸与品・・・・・・・・無

施 工 条 件 明 示 書

工事番号 道改地

第000号

明示事項（説明書）

4. 工事用電力等の指定・・・・・・・・無

5. 交通誘導警備員の配置

（1）工事期間中の安全確保のため、交通誘導警備員の配置人数は下記を予定している。

交通誘導警備員B 20 人

なお、交通誘導警備員の配置については、事前に監督職員と協議すること。

6. その他・・・・・・・・無

工 事 費 内 訳 表

費目・工種・細別等	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
本工事費					
道路維持・修繕					
橋梁保全工事					
橋梁付属物工					
水平分担構造工					
鋼材	式	1			明細表 第1号
アンカーボルト	式	1			明細表 第2号
緩衝ピン	式	1			明細表 第3号
水平分担構造	式	1			明細表 第4号
落橋防止装置工					

工 事 費 内 訳 表

費目・工種・細別等	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鋼材					明細表 第5号
	式	1			
アソカボルト					明細表 第6号
	式	1			
落橋防止装置					明細表 第7号
	式	1			
足場					明細表 第8号
	式	1			
沓座拡張工					
沓座拡張					明細表 第9号
	式	1			
排水施設工					
排水管					明細表 第10号
	式	1			
添架物支持工					
添架物支持材					明細表 第11号
	式	1			

工 事 費 内 訳 表

費目・工種・細別等	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
仮設工					
交通管理工					
交通誘導警備員	式	1			明細表 第12号
直接工事費計					
共通仮設費積上分					
技術管理費	式	1			
土質等試験費	式	1			明細表 第13号
共通仮設費率分	式	1			
共通仮設費計					
純工事費					

明細表 第 1号
鋼材

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鋼材 SM400C, t=115, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.09			共現外
鋼材 SM400C, t=110, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.08			共現外
鋼材 SM400C, t=95, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.09			共現外
鋼材 SM400B, t=40, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.67			共現外
鋼材 SM400B, t=36, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.32			共現外
鋼材 SM400A, t=32, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.32			共現外
鋼材 SM400A, t=22, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1.0			共現外
鋼材 SM400A, t=12, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	0.14			共現外
1 式 当り					

明細表 第 2号

アンカーボルト

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
アンカーボルト(4N2W付) φ42×770, S35CN M39ネジ切りL=135(両端)溶融亜鉛めっき	組	8			
アンカーボルト(4N2W付) φ38×760, S35CN M36ネジ切りL=130(両端)溶融亜鉛めっき	組	8			
アンカーボルト(4N2W付) φ32×740, S35CN M30ネジ切りL=120(両端)溶融亜鉛めっき	組	16			
アンカーボルト(2N1W付) D35×600, SD345 M33ネジ切りL=120 溶融亜鉛めっき	組	16			
アンカーボルト(2N1W付) D29×530, SD345 M27ネジ切りL=100 溶融亜鉛めっき	組	16			
アンカーボルト(2N1W付) D25×505, SD345 M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	16			
アンカーボルト(2N1W付) D25×555, SD345 M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	16			
1 式 当り					

明細表 第 4号
水平分担構造

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
チッピング工(アラケット背面部)	m ²	7			単価表 第 1 号
不陸修正工(アラケット背面部)	m ²	2			単価表 第 2 号
不陸修正材(パテ) エポキシ樹脂系	kg	13			
無収縮モルタル工 型枠含む, 無収縮モルタル除く	m ³	0.2			単価表 第 3 号
無収縮モルタル	m ³	0.2			単価表 第 4 号
コンクリート削孔(電動式コアホーリングマシン) アンカー材径30mmを超え43mm以下, 削孔深さ500mm以下, しない<標準>(全ての費用)	孔	32			施工P 第 1 号
補強部材取付工(ボルトによる補強部材)	部材	16			単価表 第 5 号
アンカー(材料費除く) アンカー材径40mmを超え55mm以下, 横方向	本	8			施工P 第 2 号
アンカー(材料費除く) アンカー材径25mmを超え40mm以下, 横方向	本	24			施工P 第 3 号
注入材 エポキシ樹脂 床版補強工、橋梁補強工用	kg	25			

明細表 第 6号

アンカーボルト

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
アンカーボルト(2N1W付) D29×1380, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	12			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1305, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1280, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1255, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1230, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	12			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1210, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1185, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(2N1W付) D29×1160, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4			
アンカーボルト(4N2W付) D25×720, SD345 M24ネジ切りL=80(両端)溶融亜鉛めっき	組	48			
1 式 当り					

明細表 第 7号
落橋防止装置

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
緩衝チェーン 4型3リンク	基	8			
六角ボルト 1種N・3種N・2W, M22×100, 強度区分8.8, 溶融亜鉛めっき	組	80			
芯出し調整工(コンクリート面用)	m ²	12			単価表 第 8 号
チップング工(ブラケット背面部)	m ²	12			単価表 第 1 号
不陸修正工(ブラケット背面部)	m ²	2			単価表 第 2 号
不陸修正材(パテ) エポキシ樹脂系	kg	15			
無収縮モルタル工 型枠含む, 無収縮モルタル除く	m ³	0.8			単価表 第 9 号
無収縮モルタル	m ³	0.8			単価表 第 4 号
コンクリート削孔(電動式コアホーリングマシン) アソー材径23mmを超え30mm以下, 削孔深さ500mm以下, しない<標準>(全ての費用)	孔	96			施工P 第 7 号
補強部材取付工(ボルトによる補強部材)	部材	16			単価表 第 5 号

明細表 第 7号
 落橋防止装置

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
アンカー(材料費除く) アンカー材径25mmを超え40mm以下 , 横方向	本	48			施工P 第 3 号
アンカー(材料費除く) アンカー材径25mm以下 , 横方向	本	48			施工P 第 8 号
注入材 エポキシ樹脂 床版補強工、橋梁補強工用	kg	31			
部材取付工(落橋防止装置取付工)	組	8			単価表 第 10 号
積込(コンクリート殻) しない<標準>(全ての費用)	m3	0.4			施工P 第 5 号
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし , 機械積込 , DID区間無し , 28.4km以下 , しない<標準>(全ての費用)	m3	0.4			施工P 第 6 号
処分料 再資源化施設(無筋コンクリート) 再生骨材-67	m3	0.4			処分費
1 式 当り					

明細表 第 9号
沓座拡幅

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
チップング(厚2cm以下)	m ²	17			施工P 第 9 号
コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル(空圧式)]) 削孔深さ200mmを超え500mm以下	孔	140			施工P 第 10 号
アンカー筋挿入(コンクリート沓座拡幅)(材料費除く)	本	140			施工P 第 11 号
注入材 エポキシ樹脂 床版補強工、橋梁補強工用	kg	25			
鉄筋(沓座拡幅工) SD345 D16～25 , しない<標準>(全ての費用)	t	1.31			施工P 第 12 号
型枠(沓座拡幅工)	m ²	35			施工P 第 13 号
コンクリート(沓座拡幅工) 24-12-25(20)(高炉)W/C=55%以下 , しない<標準>(全ての費用) , 小型車加算無し	m ³	12			施工P 第 14 号
積込(コンクリート殻) しない<標準>(全ての費用)	m ³	0.4			施工P 第 5 号
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし , 機械積込 , DID区間無し , 28.4km以下 , しない<標準>(全ての費用)	m ³	0.4			施工P 第 6 号
処分料 再資源化施設(無筋コンクリート) 再生骨材-67	m ³	0.4			処分費

明細表 第 10号
排水管

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
既設排水管撤去 VP100, 取付金具再利用撤去含む	m	8			単価表 第 16 号
排水管設置(材料費除く) 足場有り	m	10			施工P 第 15 号
排水管(S字管)S1 VP100A×1684	本	2			
排水管(S字管)S2 VP100A×1700	本	2			
排水管(S字管)S3 VP100A×1784	本	2			
取付金具Sa1 溶融亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	4			
取付金具Sa2 溶融亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	2			
コンクリートアンカーボルト設置 足場有り	本	24			施工P 第 16 号
1 式 当り					

明細表 第 11号
添架物支持材

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
既設添架物架台撤去 架台撤去手間のみ	基	4			単価表 第 17 号
現場発生品及び支給品積込・荷卸 クレーン装置付2t積、吊能力2.9t	t	0.1			施工P 第 17 号
現場発生品及び支給品運搬 クレーン装置付2t積、吊能力2.9t , DID区間無し , 37.5km以下	t	0.1			施工P 第 18 号
スクラップ ヘビ H3	t	0.1			対象外
コンクリートアンカーボルト設置工 上向き, 添架物支持材含む	本	8			単価表 第 18 号
足場チェーン φ6×L2m, 両フック付, 溶融亜鉛めっき	本	8			
SBシャックル 呼び20, 溶融亜鉛めっき	個	8			
アイボルト M16, 溶融亜鉛めっき	個	8			
あと施工アンカー 本体打込み式, M16, 溶融亜鉛めっき	個	8			
1 式 当り					

明細表 第 13号
土質等試験費

明細表

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
近接調査計測工					単価表 第 20 号
	基	8			
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 基本料					
	回	1			
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 横向き(壁面)					
	箇所	63			
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 上向き					
	箇所	8			
1 式 当り					

単価表 第 1号

チップング工(ﾌﾞﾗｯｸｯﾄ背面部)

単価表

(7)

金額：

内容：

1 m² 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1.0			[1]
特殊作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	2.0			[1]
普通作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1.5			[1]
諸雑費 11 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(7	m ² 当り)
	(1	m ² 当り)

単価表 第 2号

不陸修正工(ブラケット背面部)

単価表

(2)

金額：

内容：

1 m² 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう特殊工 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	0.4			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	0.4			[1]
諸雑費 3 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(2	m ² 当り)
	(1	m ² 当り)

単価表 第 3号

無収縮モルタル工

単価表

(0.200)

金額：

内容：型枠含む, 無収縮モルタル除く

1 m3 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	4			[1]
特殊作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	8			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	4			[1]
諸雑費 20 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(0.2	m3 当り)
	(1	m3 当り)

単価表 第 5号

補強部材取付工(ボルトによる補強部材)

単価表

(4)

金額：

内容：

1 部材 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	3			[1]
普通作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 22 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(4	部材 当り)
	(1	部材 当り)

単価表 第 6号

鋼製架台設置工

単価表

(8)

金額：

内容：

1 基 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	3			[1]
普通作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 22 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(8	基 当り)
	(1	基 当り)

単価表 第 7号

PFR緩衝ピソ取付工

単価表

(8)

金額：

内容：

1 基 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	2			[1]
普通作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 5 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(8	基 当り)
	(1	基 当り)

単価表 第 8号

芯出し調整工(コンクリート面用)

単価表

(10)

金額：

内容：

1 m² 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	2			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	2			[1]
諸雑費 2 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(10	m ² 当り)
	(1	m ² 当り)

単価表 第 9号

無収縮モルタル工

単価表

(0.800)

金額：

内容：型枠含む, 無収縮モルタル除く

1 m3 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	4			[1]
特殊作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	8			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	4			[1]
諸雑費 20 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(0.8	m3 当り)
	(1	m3 当り)

単価表 第 10号 部材取付工(落橋防止装置取付工) 単価表 (4.230)					
金額： 内容： 1 組 当り					
名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	7			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	2			[1]
諸雑費 24 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(4.23	組 当り)
	(1	組 当り)

単価表 第 11号

橋脚回り足場

単価表

(1)

金額：

内容：タイ°F, 供用日数=173日
現場環境条件による補正k1=1.1

1 m² 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
損耗係数M(橋脚回り足場(タイ°F))	m ²	1			
損料係数S(橋脚回り足場(タイ°F))	m ² ・日	173			
橋りょう特殊工 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	0.286			
諸雑費	式	1			
	(1	m ² 当り)

単価表 第 16号

既設排水管撤去

単価表

(8)

金額：

内容：VP100, 取付金具再利用撤去含む

1 m 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
特殊作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 15 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(8	m 当り)
	(1	m 当り)

単価表 第 17号

既設添架物架台撤去

単価表

(1)

金額：

内容：架台撤去手間のみ

1 基 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう世話役 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
橋りょう特殊工 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	2			[1]
普通作業員 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 15 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(1	基 当り)

単価表 第 18号

コンクリートアンカーボルト設置工

単価表

(8)

金額：

内容：上向き, 添架物支持材含む

1 本 当り

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
特殊作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
普通作業員 週休2日補正:現場閉所(月単位)	人	1			[1]
諸雑費 8 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(8	本 当り)
	(1	本 当り)

単価表 第 20号 近接調査計測工

単価表

(7)
1 基 当り

金額： 内容：

名称・規格・条件	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
技師(A)	人	1			[1] 人件費
技師(C)	人	1			[1] 人件費
橋りょう特殊工 週休2日補正：現場閉所(月単位)	人	2			[1]
諸雑費 5 % 対象額は摘要欄[1]の計	式	1			
	(7	基 当り)
	(1	基 当り)

諸 経 費 計 算 情 報

単価適用年月日	令和 8年 1月 1日
単価適用地区	中央西土木事務所 2 地区(中部地区)
工種区分	橋梁保全工事
I C T補正（3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理）	補正しない
技術者間接費の計上有無	計上しない
機器単体費の計上有無	計上しない
施工地域・工事場所区分の補正（共通仮設費）	一般交通影響有り（2）－1
除雪工事で営繕費の補正を行う場合の補正	補正しない
施工地域・工事場所区分の補正（現場管理費）	一般交通影響有り（2）－1
堤頂20mの補正	補正しない
緊急工事の補正	補正しない
前払金支出割合	3 5 %を超える（1.00）
契約保証に係る補正	金銭的保証
工事価格まるめ区分	万円まるめ
諸経費等率指定	率指定しない
現場環境改善費の計上有無	計上しない

諸 經 費 計 算 情 報

[illegible]

公 表 単 価 一 覧 表

名称・規格1・規格2	単 位	単 価	摘 要
不陸修正材(パテ) エポキシ樹脂系	kg		明細表 第4号 ほか 建設物価P194
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 基本料	回		明細表 第13号 WEB建設物価
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 横向き(壁面)	箇所		明細表 第13号 WEB建設物価
損耗係数M(橋脚回り足場(タイプF))	m ²	708	単価表 第11号 橋梁架設工事の積算4-14
損料係数S(橋脚回り足場(タイプF))	m ² ・日	18	単価表 第11号 橋梁架設工事の積算4-14
損料係数(橋脚回り足場(タイプF)) シート張防護(床面部)	m ² ・日	2.63	単価表 第12号 橋梁架設工事の積算4-14
損料係数(橋脚回り足場(タイプF)) 朝顔	m ² ・日	2.17	単価表 第13号 橋梁架設工事の積算4-14
損料係数(橋脚回り足場(タイプF)) 板張防護(朝顔部)	m ² ・日	4.77	単価表 第14号 橋梁架設工事の積算4-14
損料係数(橋脚回り足場(タイプF)) シート張防護(朝顔部)	m ² ・日	1.82	単価表 第15号 橋梁架設工事の積算4-14
スクラップ ヘビ- H3	t		明細表 第11号 対象外 建設物価P794

公 表 単 価 一 覧 表

名称・規格1・規格2	単 位	単 価	摘 要
鋼材 SM400C, t=115, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,730,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400C, t=110, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,728,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400C, t=95, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,726,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400B, t=40, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,720,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400B, t=36, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,715,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400A, t=32, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,710,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400A, t=22, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,710,000	明細表 第1号 共現外 見積
鋼材 SM400A, t=12, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,710,000	明細表 第1号 共現外 見積
アンカーボルト(4N2W付) φ42×770, S35CN M39ｼﾞｯﾁﾘL=135(両端)溶融亜鉛めっき	組	17,060	明細表 第2号 見積
アンカーボルト(4N2W付) φ38×760, S35CN M36ｼﾞｯﾁﾘL=130(両端)溶融亜鉛めっき	組	13,850	明細表 第2号 見積

公表単価一覧表

名称・規格1・規格2	単位	単価	摘要
アンカーボルト(4N2W付) φ32×740, S35CN M30ネジ切りL=120(両端)溶融亜鉛めっき	組	9,400	明細表 第2号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D35×600, SD345 M33ネジ切りL=120 溶融亜鉛めっき	組	3,940	明細表 第2号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×530, SD345 M27ネジ切りL=100 溶融亜鉛めっき	組	2,540	明細表 第2号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D25×505, SD345 M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	1,870	明細表 第2号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D25×555, SD345 M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	1,950	明細表 第2号 見積
PRF緩衝ビーン φ95×335, S45CN ナット・ワッシャー・スペーサー・割ビーン付	本	285,000	明細表 第3号 見積
PRF緩衝ビーン φ90×325, S45CN ナット・ワッシャー・スペーサー・割ビーン付	本	264,000	明細表 第3号 見積
PRF緩衝ビーン φ65×255, S45CN ナット・ワッシャー・スペーサー・割ビーン付	本	158,600	明細表 第3号 見積
鋼材 SM490A, t=16～25, 溶融亜鉛めっき 間接労務費・工場管理費含む	t	1,720,000	明細表 第5号 共現外 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1380, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,720	明細表 第6号 見積

公表単価一覧表

名称・規格1・規格2	単位	単価	摘要
アンカーボルト(2N1W付) D29×1305, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,540	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1280, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,480	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1255, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,400	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1230, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,360	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1210, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,300	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1185, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,260	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(2N1W付) D29×1160, SD345 M27ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4,220	明細表 第6号 見積
アンカーボルト(4N2W付) D25×720, SD345 M24ネジ切りL=80(両端)溶融亜鉛めっき	組	3,280	明細表 第6号 見積
足場チェーン φ6×L2m, 両フック付, 溶融亜鉛めっき	本	3,980	明細表 第11号 見積
SBジャックル 呼び20, 溶融亜鉛めっき	個	5,860	明細表 第11号 見積

公表単価一覧表

名称・規格1・規格2	単位	単価	摘要
アボルト M16, 溶融亜鉛めっき	個	1,520	明細表 第11号 見積
あと施工アンカー 本体打込み式, M16, 溶融亜鉛めっき	個	550	明細表 第11号 見積
緩衝チェーン 4型3リンク	基	547,200	明細表 第7号 見積
六角ボルト 1種N・3種N・2W, M22×100, 強度区分8.8, 溶融亜鉛めっき	組	2,200	明細表 第7号 見積
排水管(S字管)S1 VP100A×1684	本	35,200	明細表 第10号 見積
排水管(S字管)S2 VP100A×1700	本	35,400	明細表 第10号 見積
排水管(S字管)S3 VP100A×1784	本	35,600	明細表 第10号 見積
取付金具Sa1 溶融亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	31,580	明細表 第10号 見積
取付金具Sa2 溶融亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	31,580	明細表 第10号 見積
非破壊試験費 コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費 電磁波レーダ法, 上向き	箇所		明細表 第13号 WEB建設物価

令和7年度 防災安全交付金事業
町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事

数量計算書
実施設計

仁淀川町 建設課

設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単位	数 量	設計数量	摘 要
水平分担構造工							
	鋼材						
		鋼材	SM400C, t=115, 溶融亜鉛めっき	t	0.092	0.09	
		鋼材	SM400C, t=110, 溶融亜鉛めっき	t	0.076	0.08	
		鋼材	SM400C, t=95, 溶融亜鉛めっき	t	0.088	0.09	
		鋼材	SM400B, t=40, 溶融亜鉛めっき	t	0.672	0.67	
		鋼材	SM400B, t=36, 溶融亜鉛めっき	t	0.320	0.32	
		鋼材	SM400A, t=32, 溶融亜鉛めっき	t	0.316	0.32	
		鋼材	SM400A, t=22, 溶融亜鉛めっき	t	1.048	1.0	
		鋼材	SM400A, t=12, 溶融亜鉛めっき	t	0.144	0.14	
	アンカーボルト						
		アンカーボルト(4N2W付)	φ42×770, S35CN, M39ネジ切りL=135(両端)溶融亜鉛めっき	組	8	8	
		アンカーボルト(4N2W付)	φ38×760, S35CN, M36ネジ切りL=130(両端)溶融亜鉛めっき	組	8	8	
		アンカーボルト(4N2W付)	φ32×740, S35CN, M30ネジ切りL=120(両端)溶融亜鉛めっき	組	16	16	
		アンカーボルト(2N1W付)	D35×600, SD345, M33ネジ切りL=120 溶融亜鉛めっき	組	16	16	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×530, SD345, M27ネジ切りL=100 溶融亜鉛めっき	組	16	16	
		アンカーボルト(2N1W付)	D25×505, SD345, M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	16	16	
		アンカーボルト(2N1W付)	D25×555, SD345, M24ネジ切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	16	16	
	緩衝ピン						
		PRF緩衝ピン	φ95×335, S45CN, ナット・ワッシャー・スペーサー・割ピン付	本	4	4	
		PRF緩衝ピン	φ90×325, S45CN, ナット・ワッシャー・スペーサー・割ピン付	本	4	4	

設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	設計数量	摘 要
		PRF緩衝ビーン	φ65×255, S45CN, ナット・ワッシャー・スペーサー・割ビーン付	本	8	8	
	水平分担構造						
		チッピング工(ブラケット背部)		m2	6.8	7	
		不陸修正工(ブラケット背面部)		m2	1.9	2	
		不陸修正材(パテ)	エポキシ樹脂系	kg	13.2	13	ロス含む
		無収縮モルタル工	型枠含む	m3	0.23	0.2	
		無収縮モルタル		m3	0.23	0.2	
		コンクリート削孔(電動式コアローリングマシン)	アンカー材径30mmを超え43mm以下, 削孔深さ500mm以下	孔	32	32	
		補強部材取付工(ボルトによる補強材)		部材	16	16	
		アンカー工	アンカー材径40mmを超え55mm以下, 横方向	本	8	8	
		アンカー工	アンカー材径25mmを超え40mm以下, 横方向	本	24	24	
		注入材	エポキシ樹脂	kg	24.6	25	ロス含む
		鋼製架台設置工		基	16	16	
		アンカー(材料費除く)	アンカー材径25mmを超え40mm以下, 下方向	本	64	64	
		PFR緩衝ビーン取付工		基	16	16	
		積込(コンクリート殻)		m3	0.22	0.2	チッピング工: 6.8×0.03 コンクリート削孔: $\pi/4 \times (0.042^2 \times 0.444 \times 8 + 0.038^2 \times 0.45 \times 8 + 0.032^2 \times 0.456 \times 16)$ 合計: 0.204+0.015=0.219
		殻運搬	コンクリート(無筋)構造物とこわし, 機械積込	m3	0.22	0.2	L=25.8km
		処分料	無筋コンクリート	m3	0.22	0.2	
落橋防止装置工							
	鋼材						
		鋼材	SM490A, t=16~25, 溶融亜鉛めっき	t	3.934	3.9	

設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単位	数 量	設計数量	摘 要
	アンカーボルト						
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1380, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	12	12	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1305, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1280, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1255, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1230, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	12	12	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1210, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1185, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(2N1W付)	D29×1160, SD345, M27ネジ 切りL=95 溶融亜鉛めっき	組	4	4	
		アンカーボルト(4N2W付)	D25×720, SD345, M24ネジ 切りL=80(両端)溶融亜鉛めっき	組	48	48	
	落橋防止装置						
		緩衝チェーン	4型3リンク	基	8	8	
		六角ボルト	1種N・3種N・2W, M22×100, 強度区分8.8, 溶融亜鉛めっき	組	80	80	
		芯出し調整工(コンクリート面用)		m2	11.9	12	
		チッピング工(ブラケット背部)		m2	11.9	12	
		不陸修正工(ブラケット背面部)		m2	2.2	2	
		不陸修正材(パテ)	エポキシ樹脂系	kg	15.2	15	ロス含む
		無収縮モルタル工	型枠含む	m3	0.84	0.8	
		無収縮モルタル		m3	0.84	0.8	
		コンクリート削孔(電動式コアローリングマシン)	アンカー材径23mmを超え30mm以下, 削孔深さ500mm以下	孔	96	96	
		補強部材取付工(ボルトによる補強部材)		部材	16	16	

設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単位	数 量	設計数量	摘 要
		アンカー(材料費除く)	アンカー材径25mmを超え40mm以下, 横方向	本	48	48	
		アンカー(材料費除く)	アンカー材径25mm以下, 横方向	本	48	48	
		注入材	エポキシ樹脂	kg	30.8	31	ロス含む
		部材取付工(落橋防止装置取付工)		組	8	8	
		積込(コンクリート殻)		m3	0.38	0.4	チッピング工: 11.9×0.03 コンクリート削孔: $\pi/4 \times (0.029^2 \times 2 \times 0.445 \times 48 + 0.025^2 \times 2 \times 0.239 \times 12 + 0.025^2 \times 2 \times 0.237 \times 12 + 0.025^2 \times 2 \times 0.235 \times 12 + 0.025^2 \times 2 \times 0.225 \times 12)$ 合計: $0.357 + 0.020 = 0.377$
		殻運搬	コンクリート(無筋)構造物ととりこわし, 機械積込	m3	0.38	0.4	L=25.8km
		処分料	無筋コンクリート	m3	0.38	0.4	
	足場						
		橋脚回り足場	タイプF, 供用月数=173日	m2	155.2	160	
		橋脚回り足場	タイプF, シート張防護(床面部), 供用月数=173日	m2	155.2	160	
		橋脚回り足場	タイプF, 朝顔, 供用月数=173日	m2	155.2	160	
		橋脚回り足場	タイプF, 板張防護(朝顔部), 供用月数=173日	m2	155.2	160	
		橋脚回り足場	タイプF, シート張防護(朝顔部), 供用月数=173日	m2	155.2	160	
沓座拡幅工							
	沓座拡幅						
		チッピング工(厚2cm以下)		m2	16.7	17	
		コンクリート削孔(さく岩機[ハイドロリック(空圧式)])	削孔深さ200mmを超え500mm以下	孔	140	140	38+38+64=140
		アンカー筋挿入(コンクリート沓座拡幅)		本	140	140	38+38+64=140
		注入材	エポキシ樹脂	kg	24.57	25	ロス含む
		鉄筋(沓座拡幅工)	SD345 D16~25	t	1.307	1.31	ロス含まず
		型枠(沓座拡幅工)		m2	35.0	35	

設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	設計数量	摘 要
		コンクリート(沓座拡幅工)	24-12-25(20)(高炉)W/C=55%以下	m3	12.4	12	ロス含まず
		積込(コンクリート殻)		m3	0.37	0.4	チッピング工: 16.7×0.02 コンクリート削孔: $\pi/4 \times (0.035^2 \times 0.385 \times 38 + 0.032^2 \times 0.34 \times 38 + 0.026^2 \times 0.25 \times 64)$ 合計: $0.334 + 0.033 = 0.367$
		殻運搬	コンクリート(無筋)構造物とりこわし, 機械積込	m3	0.37	0.4	L=25.8km
		処分料	無筋コンクリート	m3	0.37	0.4	
排水施設工							
	排水管						
		既設排水管撤去	VP100, 取付金具含む	m	8.1	8	
		排水管設置	足場有り	m	10.4	10	
		排水管(S字管)S1	VP100A×1684	本	2	2	
		排水管(S字管)S2	VP100A×1700	本	2	2	
		排水管(S字管)S3	VP100A×1784	本	2	2	
		取付金具Sa1	亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	4	4	
		取付金具Sa2	亜鉛メッキ仕様, B・N含む	組	2	2	
		コンクリートアンカーボルト設置	足場有り	本	24	24	
添架物支持工							
	添架物支持材						
		既設添架物架台撤去	架台撤去手間のみ	基	4	4	
		現場発生品及び支給品積込・荷卸	クレーン装置付2t積、吊能力2.9t	t	0.10	0.1	
		現場発生品及び支給品運搬	クレーン装置付2t積、吊能力2.9t	t	0.10	0.1	L=37.4km
		スクラップ	ヘビ- H3	t	0.10	0.1	
		コンクリートアンカーボルト設置工	上向き, 添架物支持材含む	本	8	8	

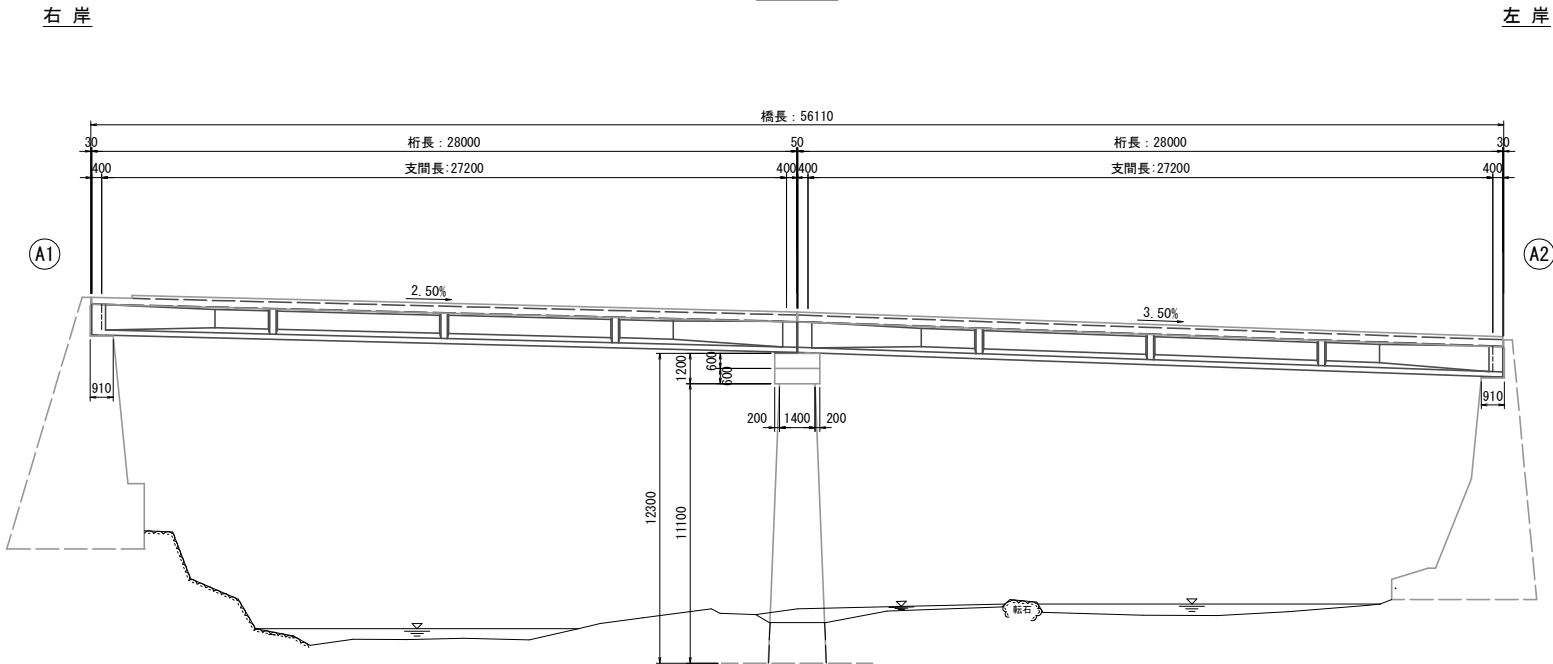
設計数量総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	設計数量	摘 要
		足場チェーン	φ6×L2m, 両フック付, 溶融亜鉛めっき	本	8	8	
		SBシャックル	呼び20, 溶融亜鉛めっき	個	8	8	
		アイボルト	M16, 溶融亜鉛めっき	個	8	8	
		あと施工アンカー	本体打込み式, M16, 溶融亜鉛めっき	個	8	8	
交通管理工							
	交通誘導警備員						
		交通誘導警備員	交通誘導警備員B	人	20	20	8.4日×2人/日=16.8≒20人
技術管理費							
	土質試験費						
		近接調査計測工		基	8	8	落橋防止装置工
		非破壊試験費	コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費, 電磁波レーダ法, 基本料	回	1	1	
		非破壊試験費	コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費, 電磁波レーダ法, 横向き(壁面)	箇所	63	63	水平分担保構造工:4×4=16 落橋防止装置工:4×4=16 省座拡幅工:5+5+4+5=19 排水施設工:4×3=12
		非破壊試験費	コンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定費, 電磁波レーダ法, 上向き	箇所	8	8	添架物支持工:2×4=8

岩丸橋 橋梁一般図

側面図

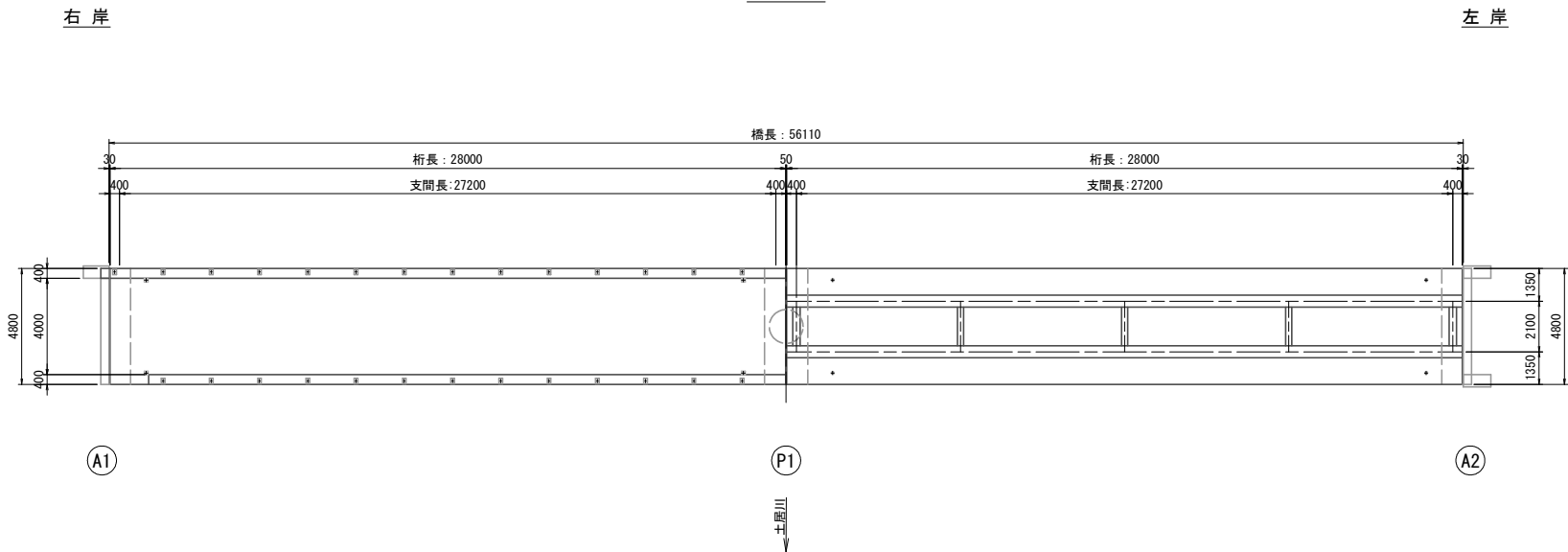
S=1:150



DL=130.000

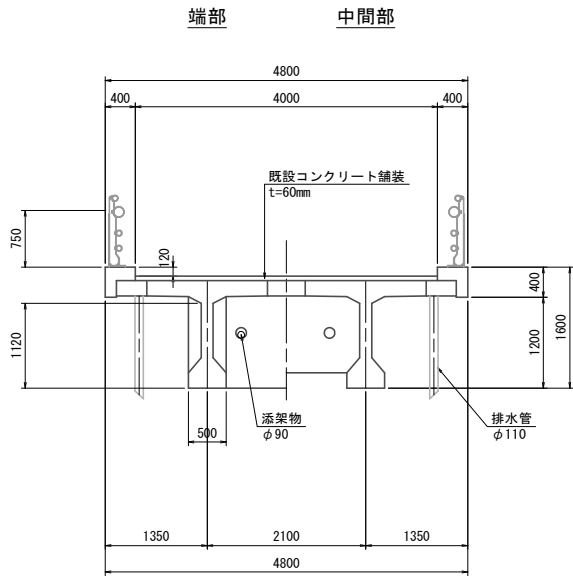
平面図

S=1:150



断面図

S=1:50



橋梁諸元

橋名	岩丸橋	
橋種	PC道路橋	
型式	上部工	ポストテンション方式PC2径間単純T桁橋
	下部工	橋台：逆T式橋台
		橋脚：張出し式橋脚(円柱)
橋長	56.110m	
桁長	28.000m+28.000m	
支間長	27.200m+27.200m	
全幅員	地覆0.400+車道4.000+地覆0.400=4.800m	
角度	90° 00' 00"	
竣工年月	1971年3月	

注記

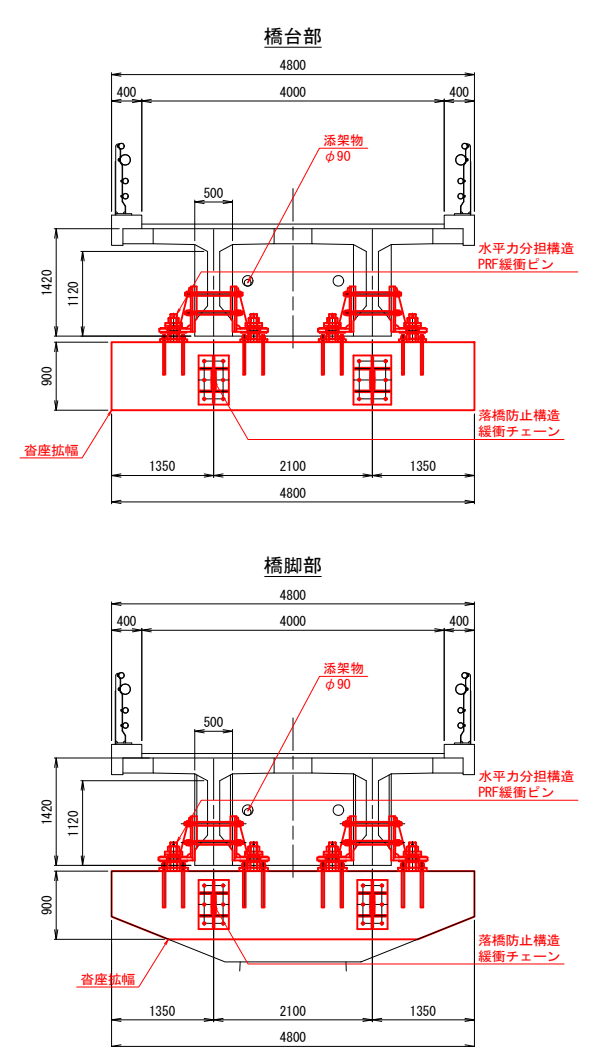
1. 形状寸法は、現地計測結果を基に作成した。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	橋梁一般図	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	1 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			

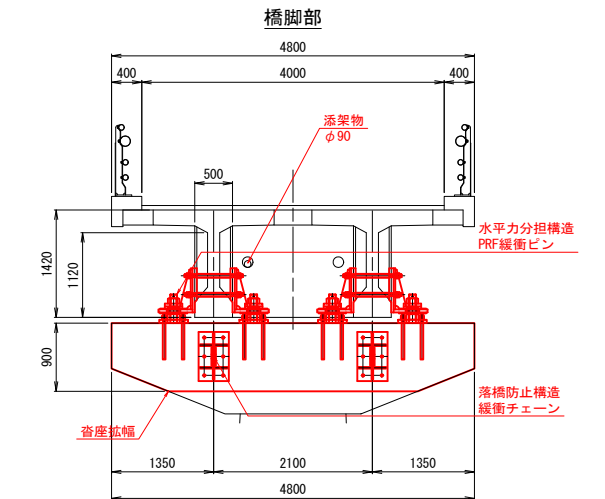
S=1 : 100

断面図

S=1:50



橋脚部



注記)

1. 現地調査により、各寸法を確認すること。

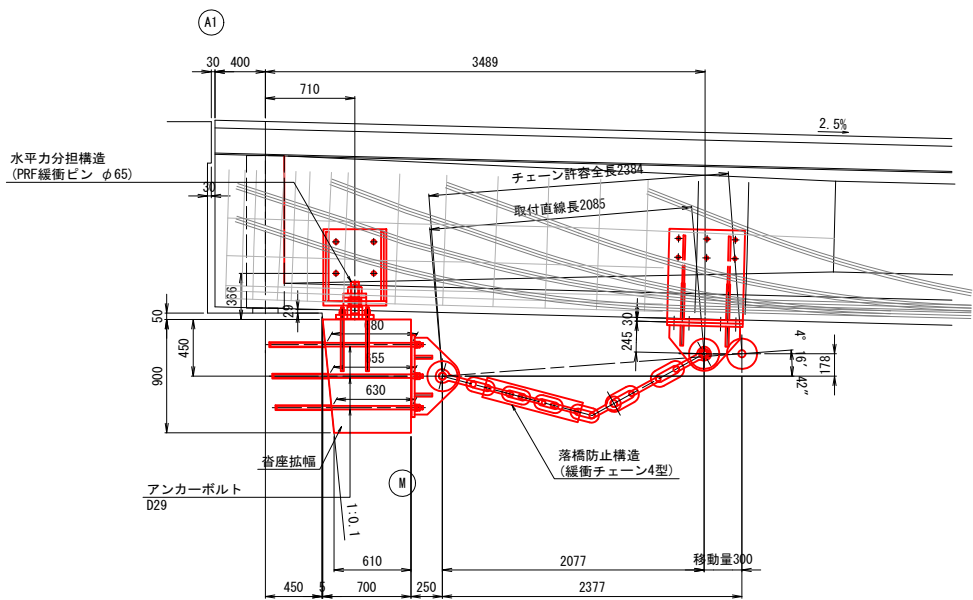
仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道若丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	耐震補強一般図	縮 尺	図 示
路線河川名	町道若丸線		
工事箇所	仁淀川町 若丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	2 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止システム構造図(その1)

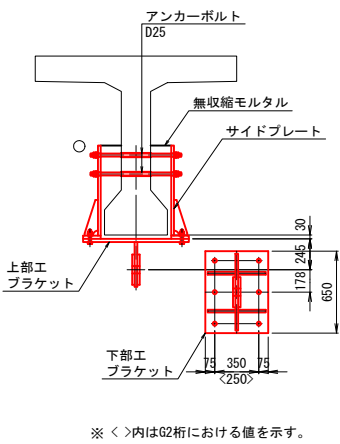
S=1:30

A1橋台

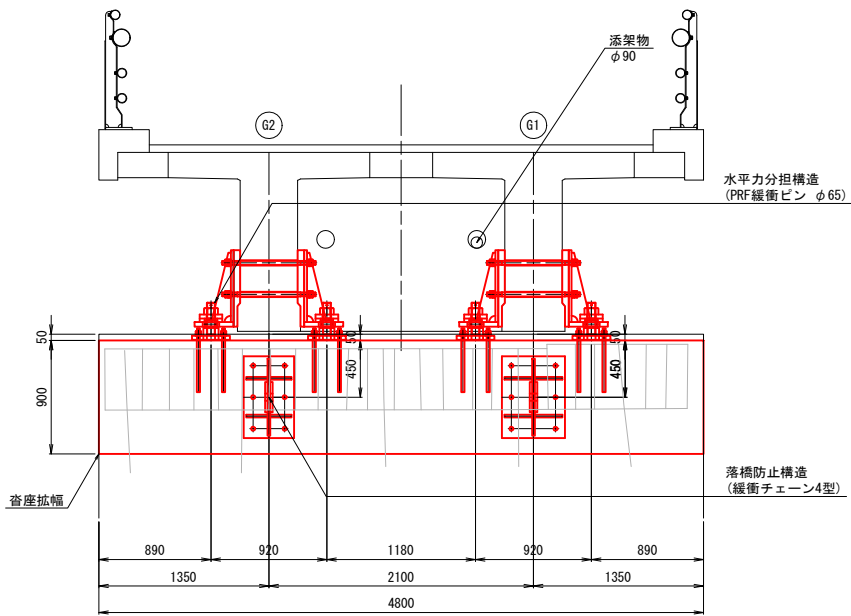
側面図



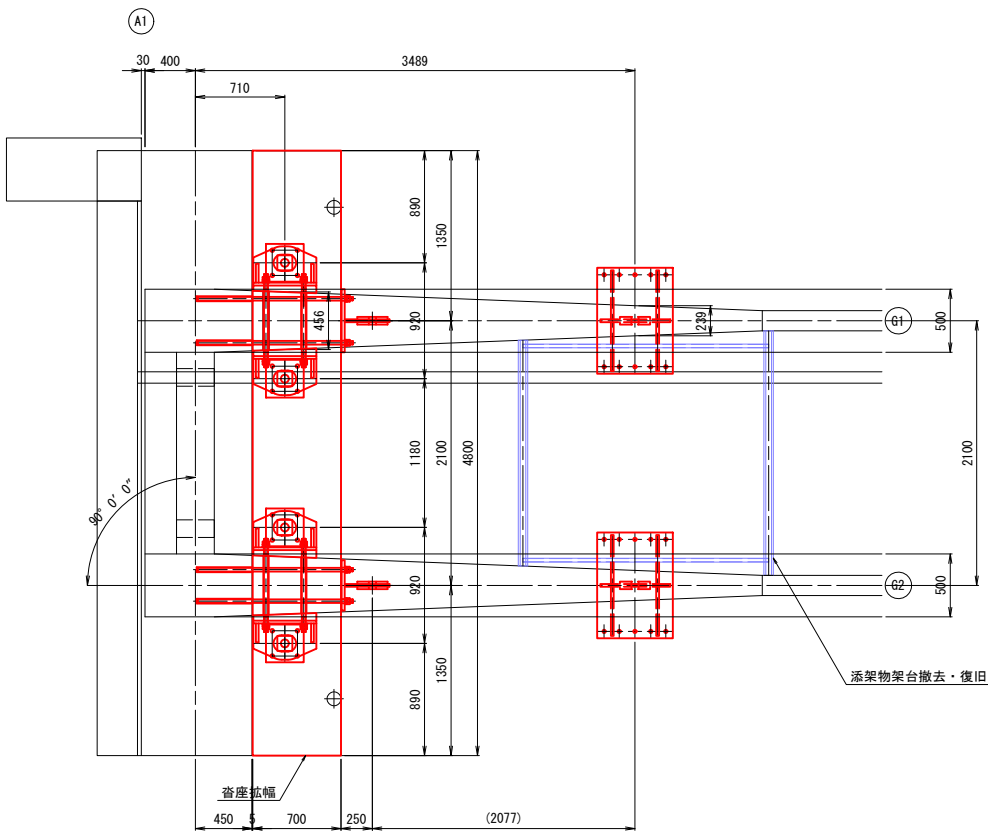
緩衝チェーン取付詳細図



正面図



平面図



※ ()内は、チェーン取付位置における値を示す。

注記)
1. 現地調査により、各寸法を確認すること。

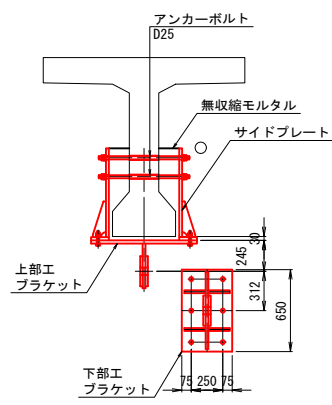
仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線(岩丸橋)橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止システム構造図 (その1)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	3
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止システム構造図(その2)

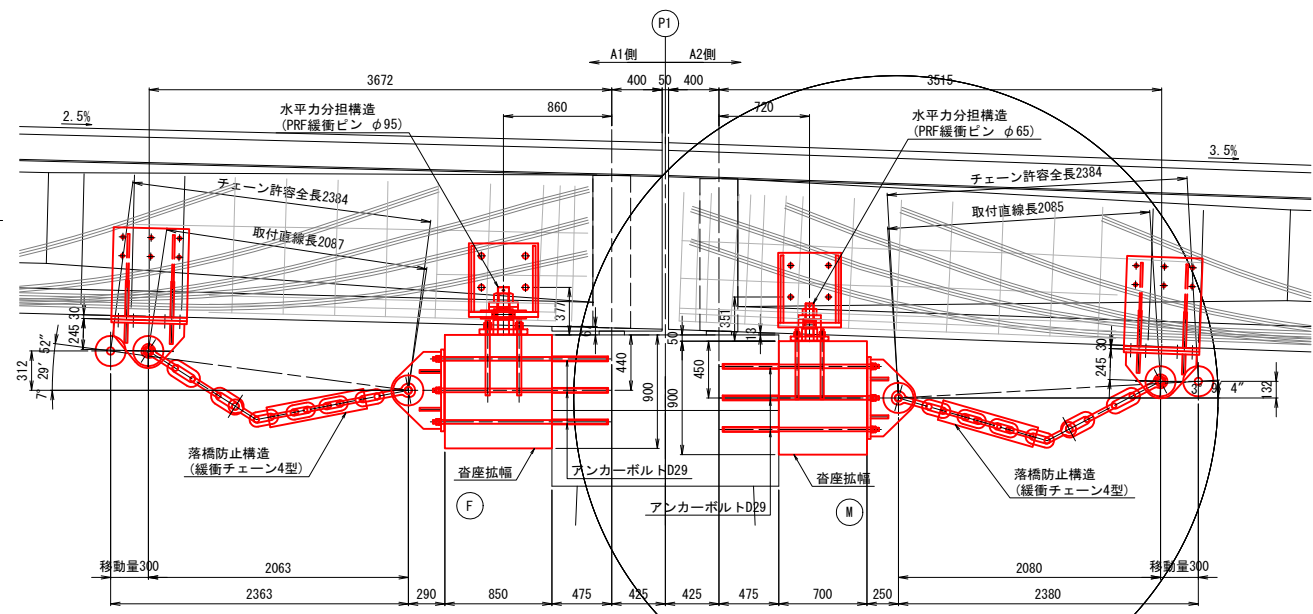
S=1:30

P1橋脚

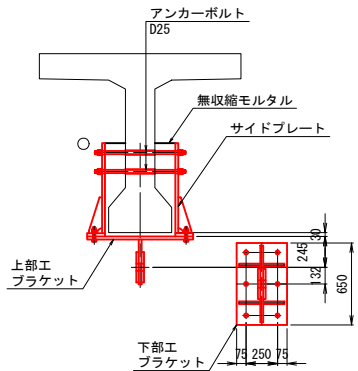
起点側
緩衝チェーン取付詳細図



側面図

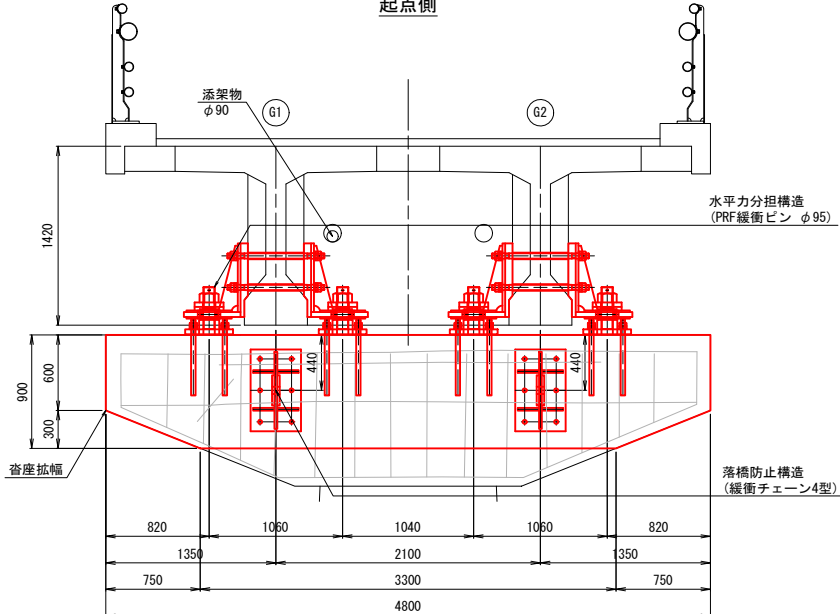


終点側
緩衝チェーン取付詳細図

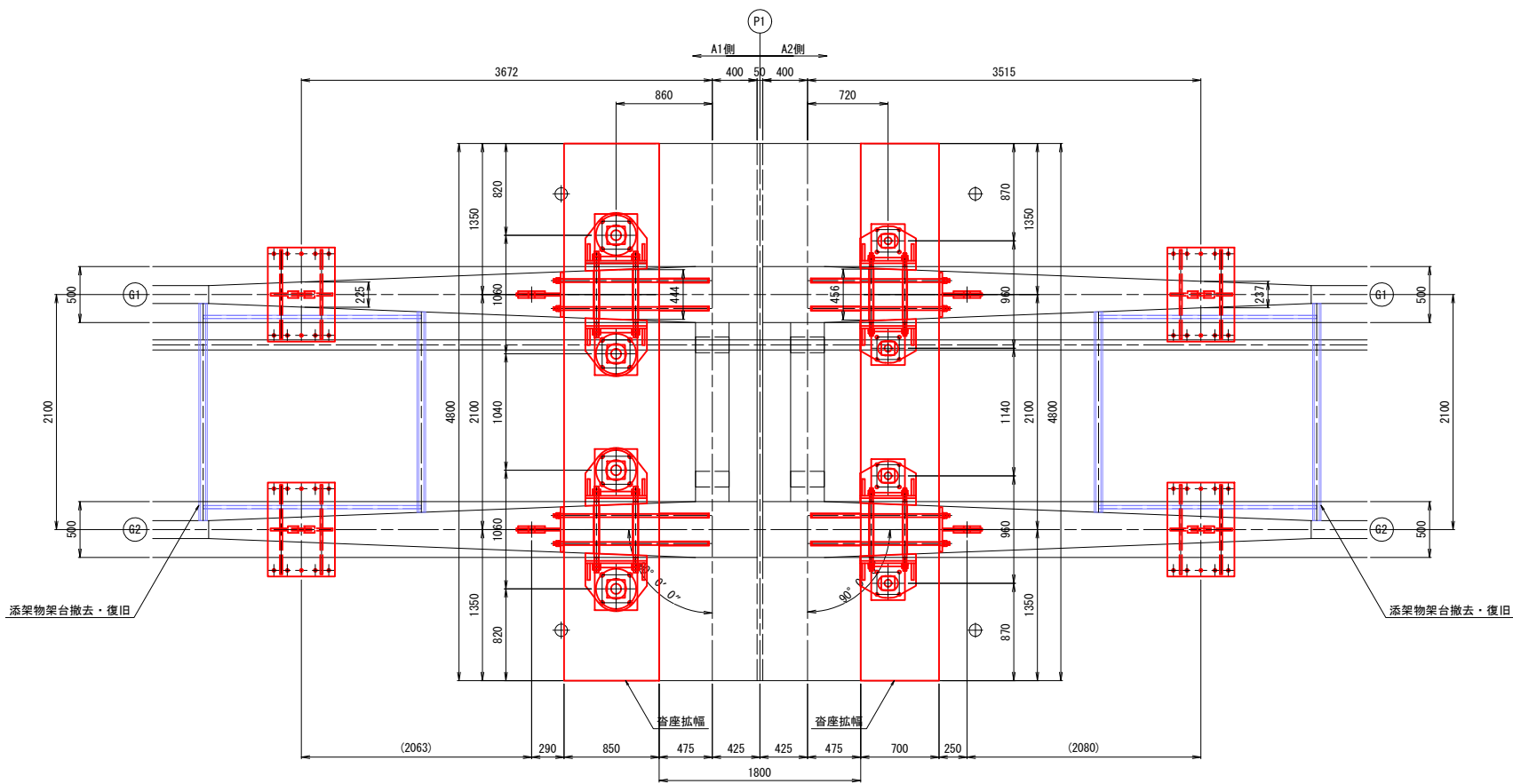


正面図

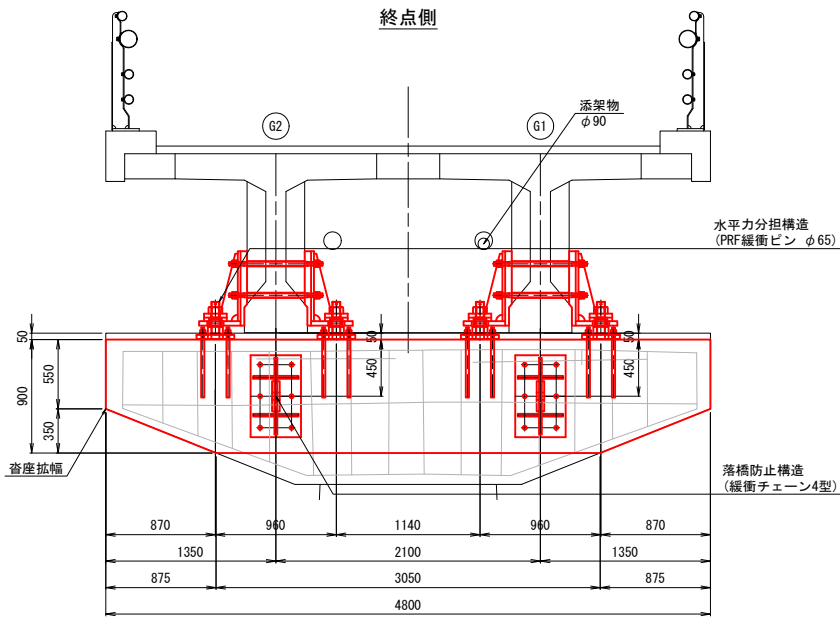
起点側



平面図



終点側



注記)
1. 現地調査により、各寸法を確認すること。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止システム構造図 (その2)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	4
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

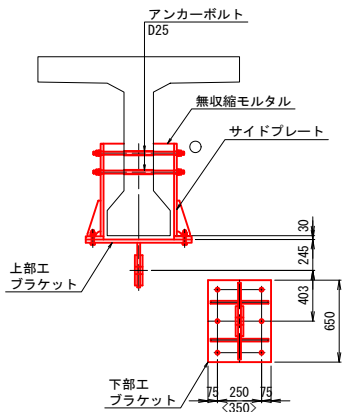
※ ()内は、チェーン取付位置における値を示す。

岩丸橋 落橋防止システム構造図(その3)

S=1:30

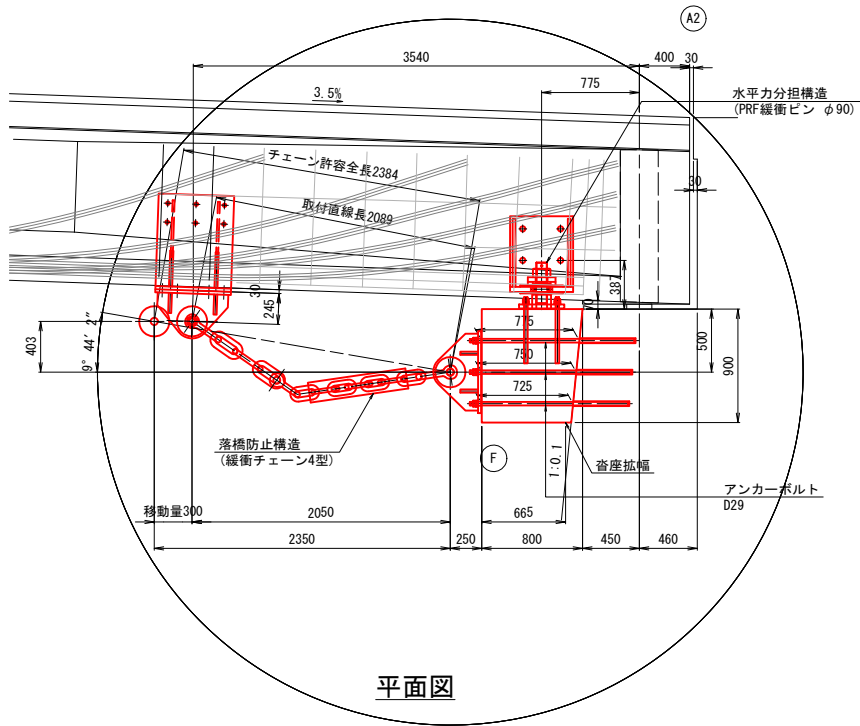
A2橋台

緩衝チェーン取付詳細図

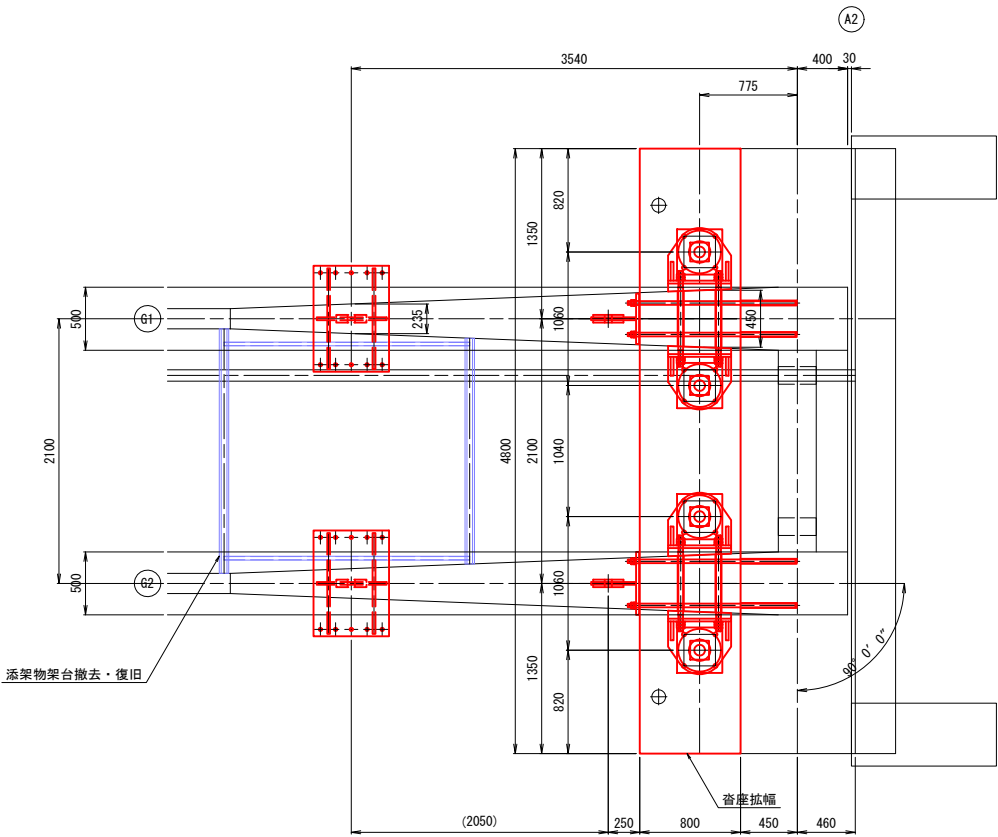


※ < >内はG2桁における値を示す。

側面図

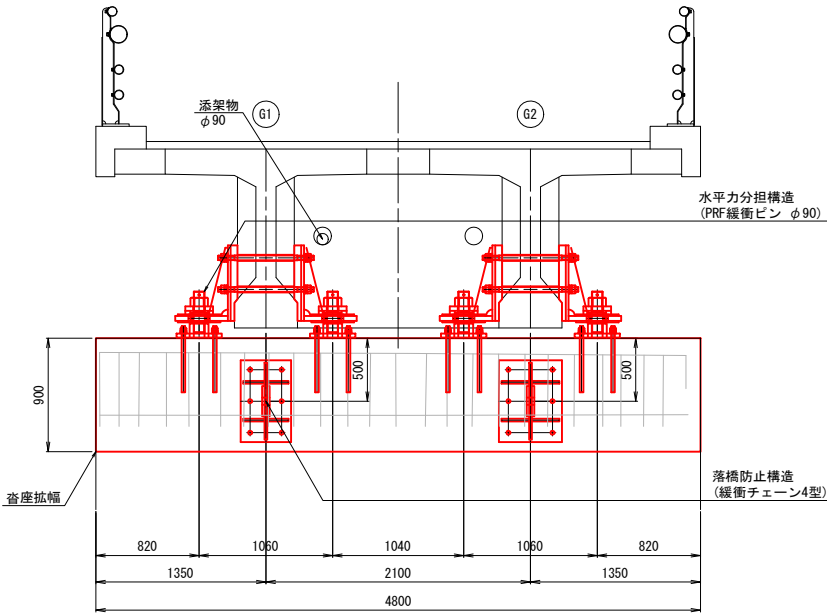


平面図



※ ()内は、チェーン取付位置における値を示す。

正面図



注記)
1. 現地調査により、各寸法を確認すること。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	落橋防止システム構造図 （その3）	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	5	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その1)

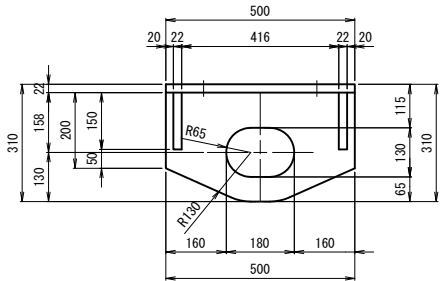
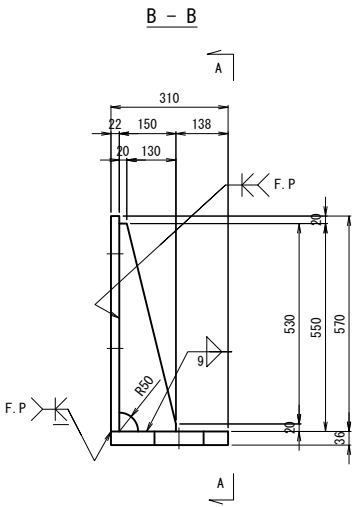
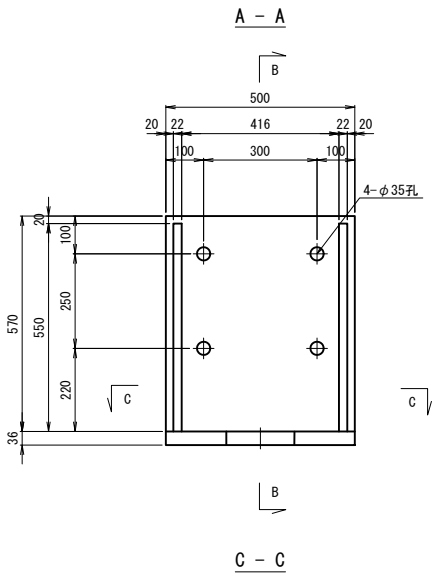
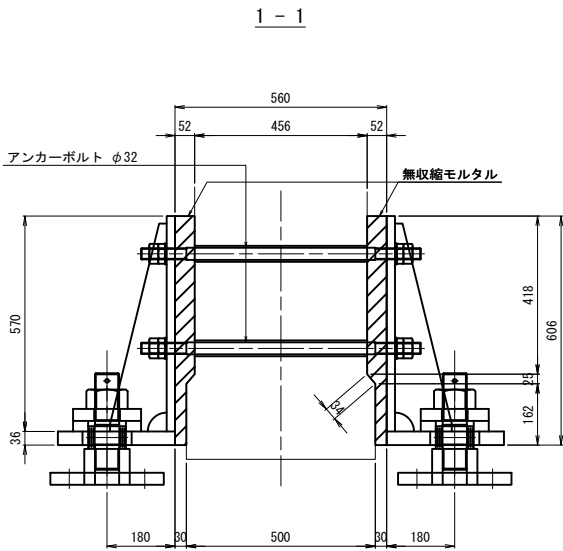
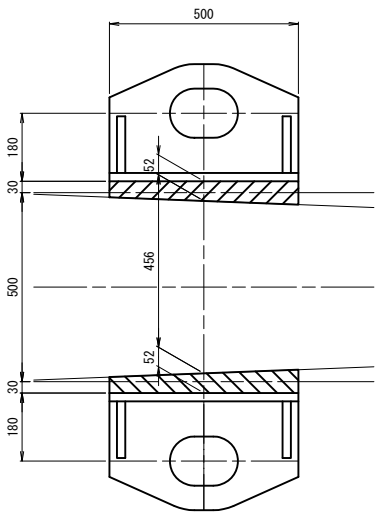
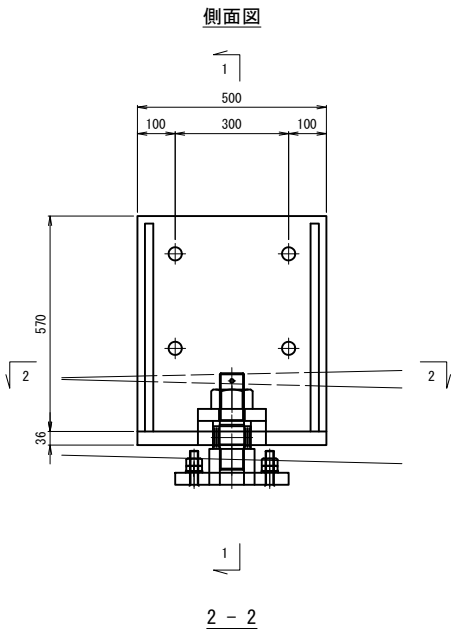
S=1:10

A1橋台

上部エブラケット詳細図

上部工取付詳細図

上部エブラケット詳細図

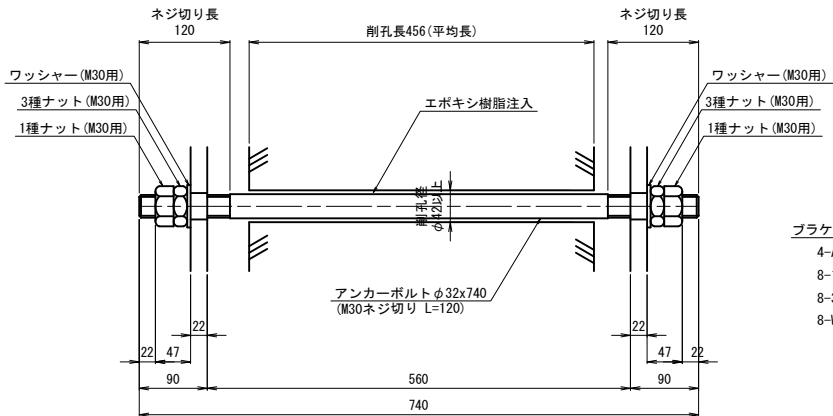


ブラケット1基当り (製作数:4基)

1-Base PL	310x 36x 500	(SM400B)
1-Web PL	500x 22x 570	(SM400A)
2-Rib PL	150x 22x 550	(SM400A)

アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット2基当り (製作数:2組)

4-AncBolt	φ32x740	(S35CN)
8-1種Nut	M30用	(強度区分5)
8-3種Nut	M30用	(強度区分5)
8-Washer	M30用	(硬さ区分 200HV)

- 注記)
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切らないようにすること。
 - 上部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
上部エブラケットの膜厚はHDZ177とする。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その1）	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	6	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

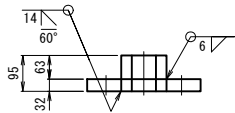
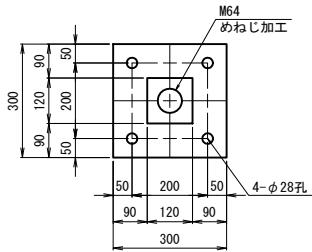
岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その2)

S=1:10

A1橋台

鋼製架台詳細図及び部品詳細図

鋼製架台詳細図

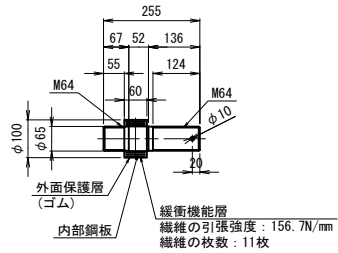


架台1基当り (製作数:4基)

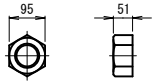
1-Base PL 300x 32x 300 (SM400A)
1- PL 120x 95x 120 (SM400C)

PRF緩衝ピン詳細図

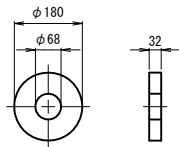
1基当り (製作数:4)



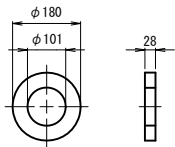
※1-PRF緩衝ピン φ65x255L (S45CN)



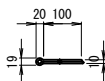
※1-ナット(一種) M64 (SS400)



※1-ワッシャー φ180 (φ68) x32t (SS400)

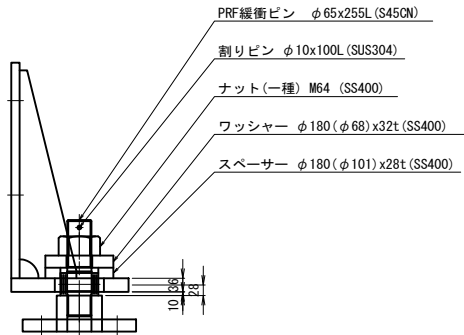


※1-スペーサー φ180 (φ101) x28t (SS400)



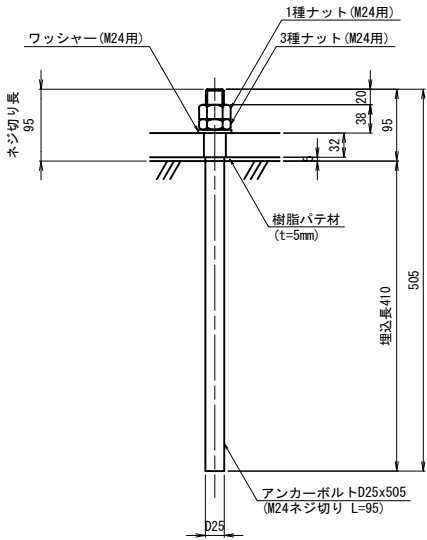
1-割リピン φ10x100L (SUS304)

PRF緩衝ピン取付詳細図



アンカーボルト詳細図

S=1:5



架台1基当り (製作数:4組)

4-AncBolt D25x505 (SD345)
4-1種Nut M24用 (強度区分5)
4-3種Nut M24用 (強度区分5)
4-Washer M24用 (硬さ区分 200HV)

注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 鋼製架台の表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
鋼製架台の膜厚はHDZ177とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZ149とし、アンカーボルトはねじ切り部のみ施すものとする。
- PRF緩衝ピン類の表面処理は、※印の部材に溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
PRF緩衝ピン類の膜厚はHDZ149とする。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その2）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	7 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			

岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その3)

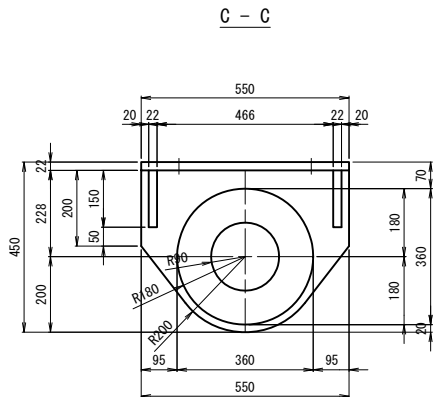
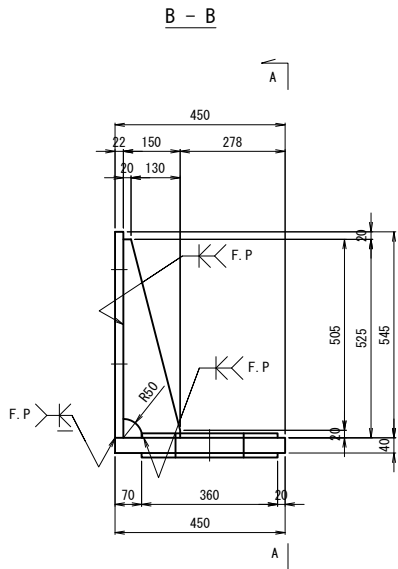
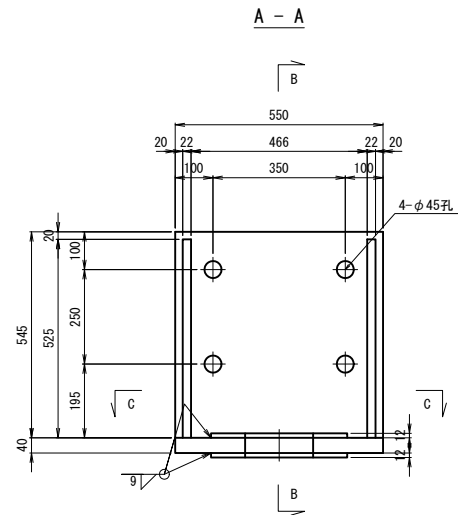
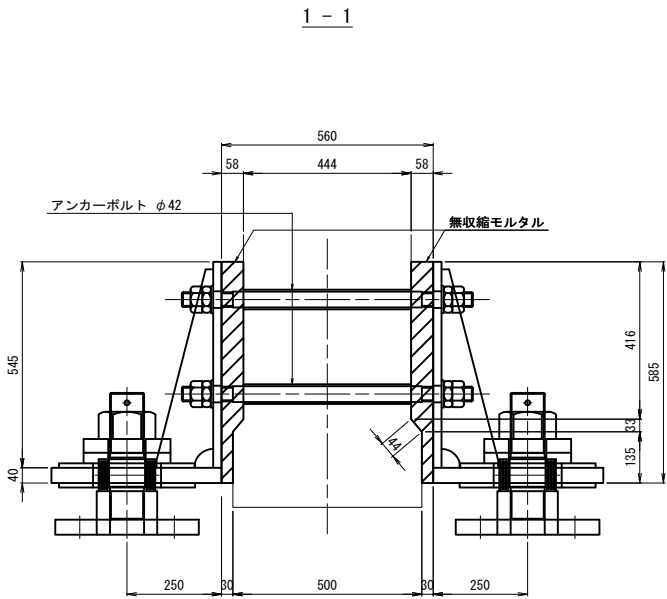
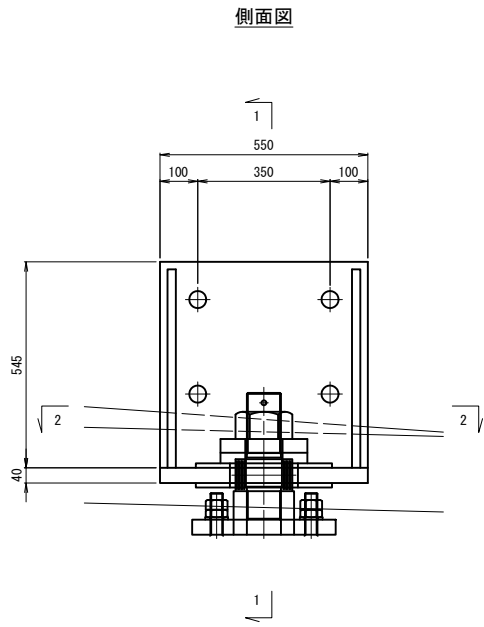
S=1:10

P1橋脚起点側

上部エブラケット詳細図

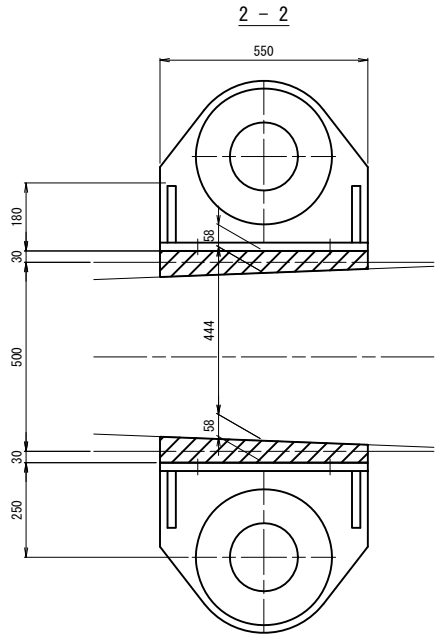
上部工取付詳細図

上部エブラケット詳細図



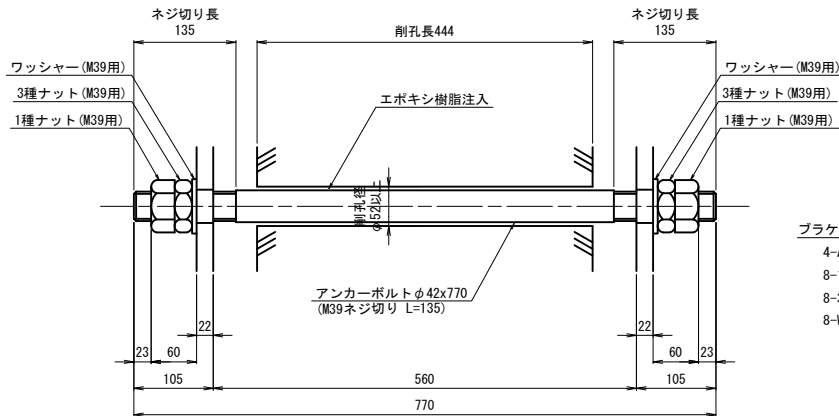
ブラケット1基当り (製作数:4基)

1-Base PL	450x 40x 550	(SM400B)
2-Cov PL	360x 12x 360	(SM400A)
1-Web PL	550x 22x 545	(SM400A)
2-Rib PL	150x 22x 525	(SM400A)



アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット2基当り (製作数:2組)

4-AncBolt	φ42x770 (S35CN)
8-1種Nut	M39用 (強度区分5)
8-3種Nut	M39用 (強度区分5)
8-Washer	M39用 (硬さ区分 200HV)

- 注記)
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切らないようにすること。
 - 上部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
上部エブラケットの膜厚はHDZ177とする。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その3）	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	8 28	
事務所名	仁淀川町役場			
会 社 名				

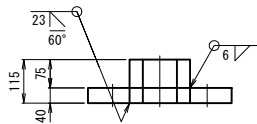
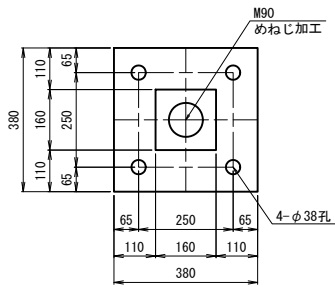
岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その4)

S=1:10

P1橋脚起点側

鋼製架台詳細図及び部品詳細図

鋼製架台詳細図

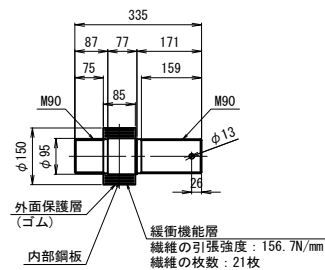


架台1基当り (製作数:4基)

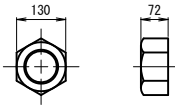
- 1-Base PL 380x 40x 380 (SM400B)
1- PL 160x115x 160 (SM400C)

PRF緩衝ピン詳細図

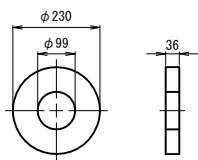
1基当り (製作数:4)



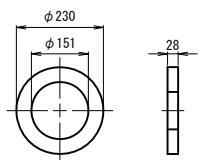
※1-PRF緩衝ピン φ95x335L (S45CN)



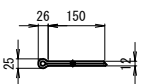
※1-ナット(一種) M90 (SS400)



※1-ワッシャー φ230(φ99)x36t (SS400)

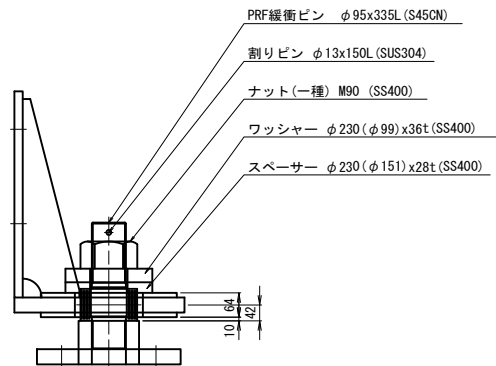


※1-スペーサー φ230(φ151)x28t (SS400)



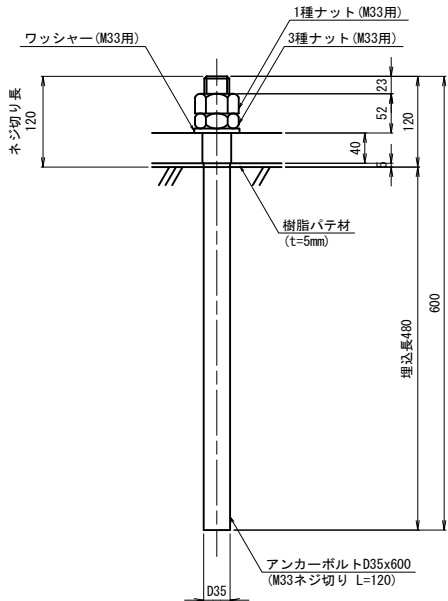
1-割りピン φ13x150L (SUS304)

PRF緩衝ピン取付詳細図



アンカーボルト詳細図

S=1:5



架台1基当り (製作数:4組)

- 4-AncBolt D35x600 (SD345)
4-1種Nut M33用 (強度区分5)
4-3種Nut M33用 (強度区分5)
4-Washer M33用 (硬さ区分 200HV)

注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 鋼製架台の表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
鋼製架台の膜厚はHDZ177とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZ149とし、アンカーボルトはねじ切り部のみ施すものとする。
- PRF緩衝ピン類の表面処理は、※印の部材に溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
PRF緩衝ピン類の膜厚はHDZ149とする。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その4）	縮 尺	図 示	
路線/河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	9	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その5)

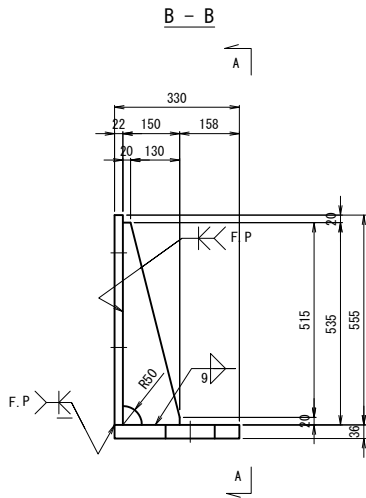
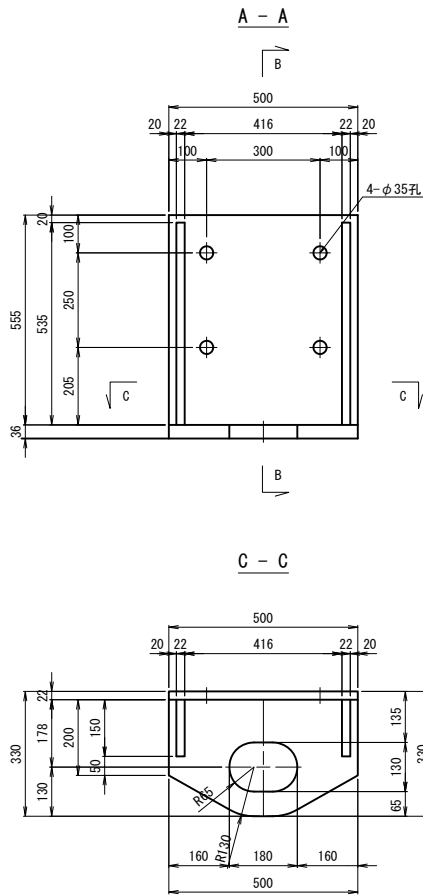
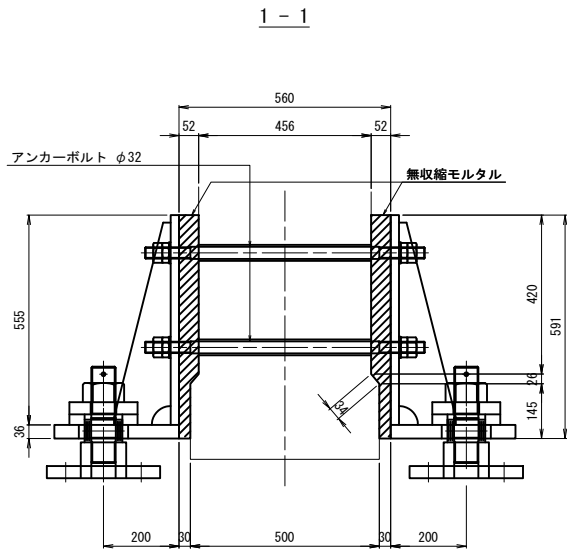
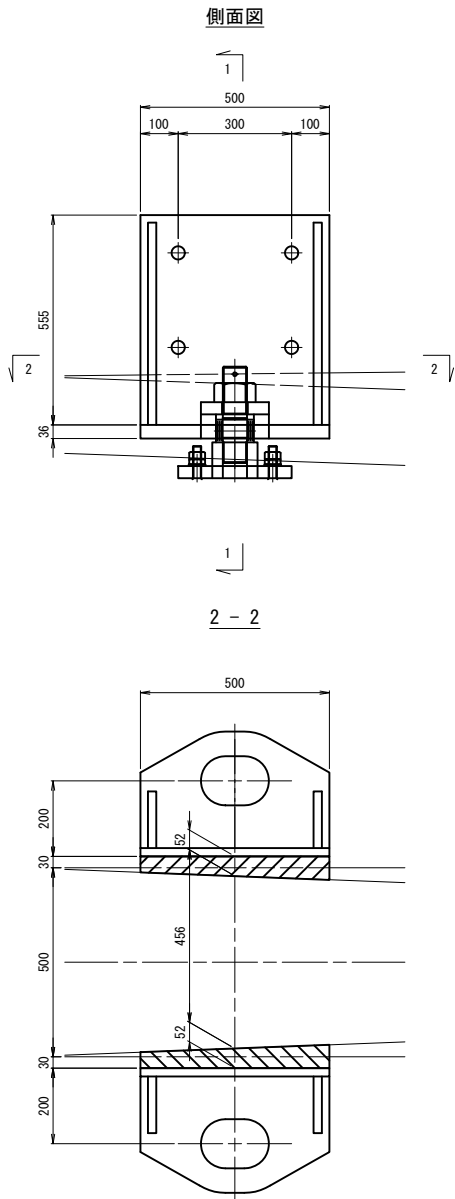
S=1:10

P1橋脚終点側

上部エブラケット詳細図

上部工取付詳細図

上部エブラケット詳細図

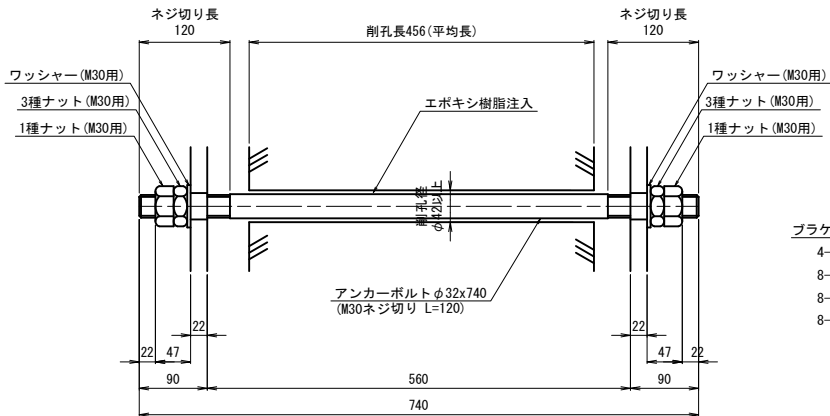


ブラケット1基当り (製作数:4基)

1-Base PL	330x 36x 500	(SM400B)
1-Web PL	500x 22x 555	(SM400A)
2-Rib PL	150x 22x 535	(SM400A)

アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット2基当り (製作数:2組)

4-AncBolt	φ32x740 (S35CN)
8-1種Nut	M30用 (強度区分5)
8-3種Nut	M30用 (強度区分5)
8-Washer	M30用 (硬さ区分 200HV)

- 注記)
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切らないようにすること。
 - 上部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
上部エブラケットの膜厚はHDZ177とする。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その5）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	10
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

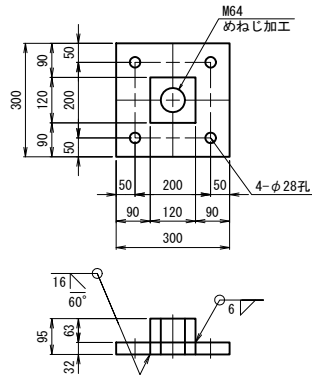
岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その6)

S=1:10

P1橋脚終点側

鋼製架台詳細図及び部品詳細図

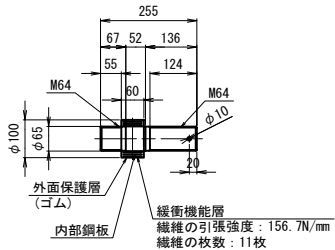
鋼製架台詳細図



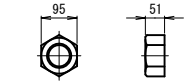
- 架台1基当り (製作数:4基)
- 1-Base PL 300x 32x 300 (SM400A)
 - 1- PL 120x 95x 120 (SM400C)

PRF緩衝ピン詳細図

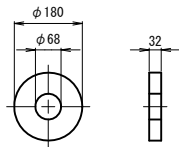
1基当り (製作数: 4)



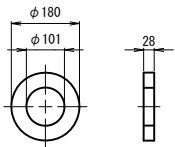
1-PRF緩衝ピン φ65x255L (S45CN)



1-ナット (一種) M64 (SS400)



1-ワッシャー φ180 (φ68) x32t (SS400)



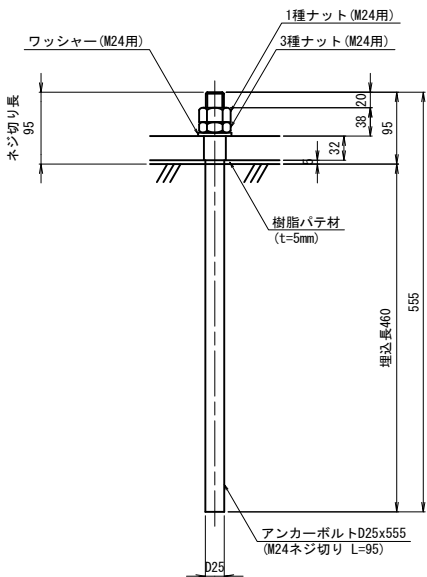
1-スペーサー φ180 (φ101) x28t (SS400)



1-割りピン φ10x100L (SUS304)

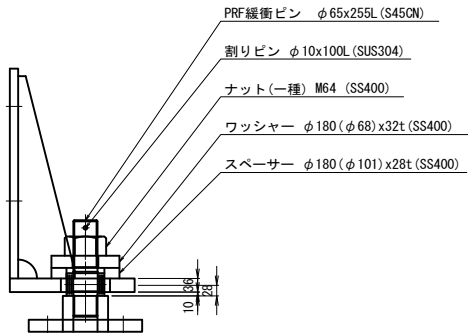
アンカーボルト詳細図

S=1:5



- 架台1基当り (製作数:4組)
- 4-Anch Bolt D25x555 (SD345)
 - 4-1種Nut M24用 (強度区分5)
 - 4-3種Nut M24用 (強度区分5)
 - 4-Washer M24用 (硬さ区分 200HV)

PRF緩衝ピン取付詳細図



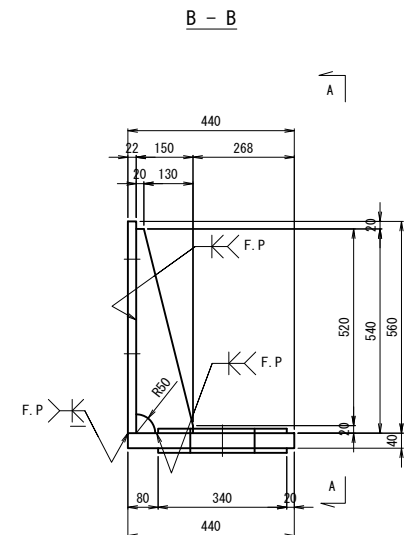
- 注記)
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
 - PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
 - 鋼製架台の表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
鋼製架台の膜厚はHDZ177とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZ149とし、アンカーボルトはねじ切り部のみ施すものとする。
 - PRF緩衝ピン類の表面処理は、※印の部材に溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
PRF緩衝ピン類の膜厚はHDZ149とする。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その6）	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	11	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

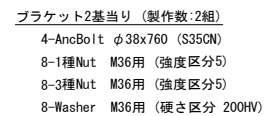
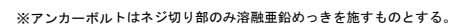
S=1:10

上部エブラケット詳細図

上部エブラケット詳細図



ブラケット1基当り (製作数:4基)				
1-Base	PL	440x	40x	500 (SM400B)
2-Cov	PL	340x	12x	340 (SM400A)
1-Web	PL	500x	22x	560 (SM400A)
2-Rib	PL	150x	22x	540 (SM400A)



(注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造物の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 上部工ブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
上部工ブラケットの膜厚はHDZ777とする。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その7）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	12 — 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			

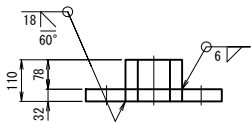
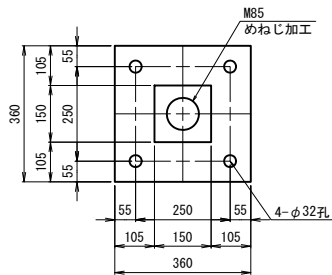
岩丸橋 水平力分担構造詳細図(その8)

S=1:10

A2橋台

鋼製架台詳細図及び部品詳細図

鋼製架台詳細図

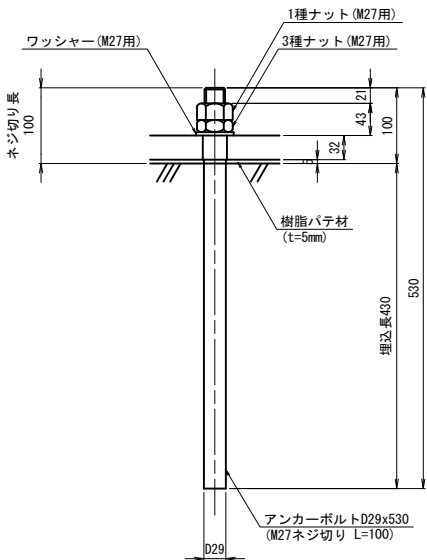


架台1基当り (製作数:4基)

- 1-Base PL 360x 32x 360 (SM400A)
1- PL 150x110x 150 (SM400C)

アンカーボルト詳細図

S=1:5

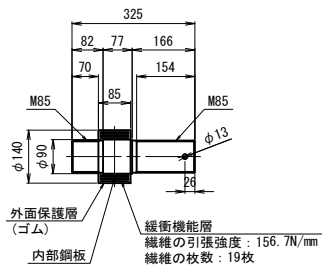


架台1基当り (製作数:4組)

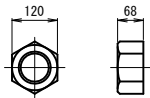
- 4-AncBolt D29x530 (SD345)
4-1種Nut M27用 (強度区分5)
4-3種Nut M27用 (強度区分5)
4-Washer M27用 (硬さ区分 200HV)

PRF緩衝ピン詳細図

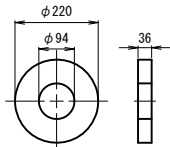
1基当り (製作数: 4)



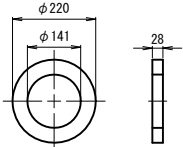
※1-PRF緩衝ピン φ90x325L (S45CN)



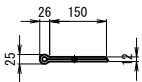
※1-ナット(一種) M85 (SS400)



※1-ワッシャー φ220(φ94)x36t (SS400)

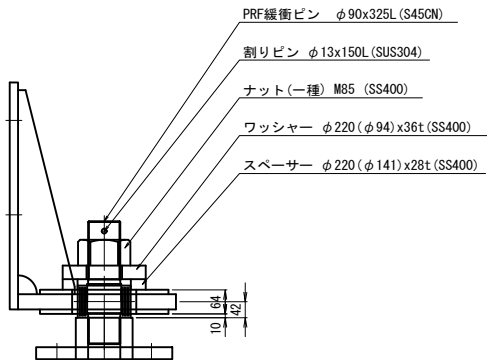


※1-スペーサー φ220(φ141)x28t (SS400)



1-割リピン φ13x150L (SUS304)

PRF緩衝ピン取付詳細図



注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- PRF緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 鋼製架台の表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
鋼製架台の膜厚はHDZT77とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZT49とし、アンカーボルトはねじ切り部のみ施すものとする。
- PRF緩衝ピン類の表面処理は、※印の部材に溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
PRF緩衝ピン類の膜厚はHDZT49とする。

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	水平力分担構造詳細図 （その8）	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	13	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その1)

S=1:10

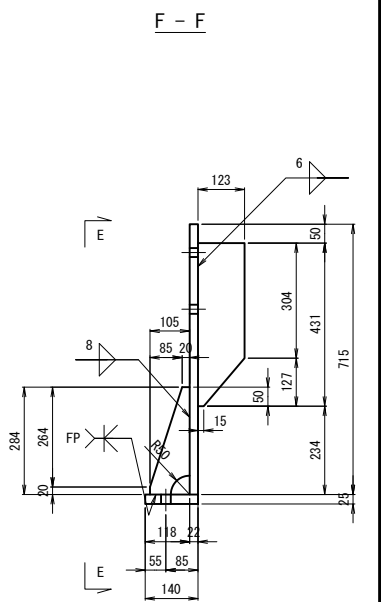
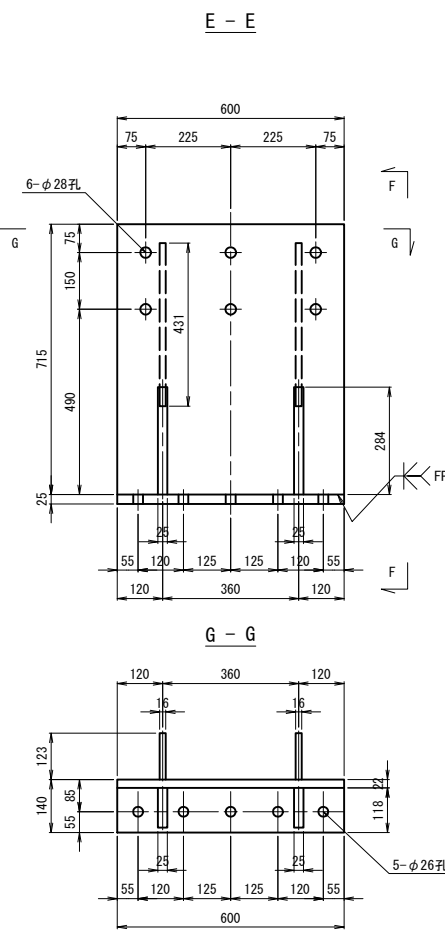
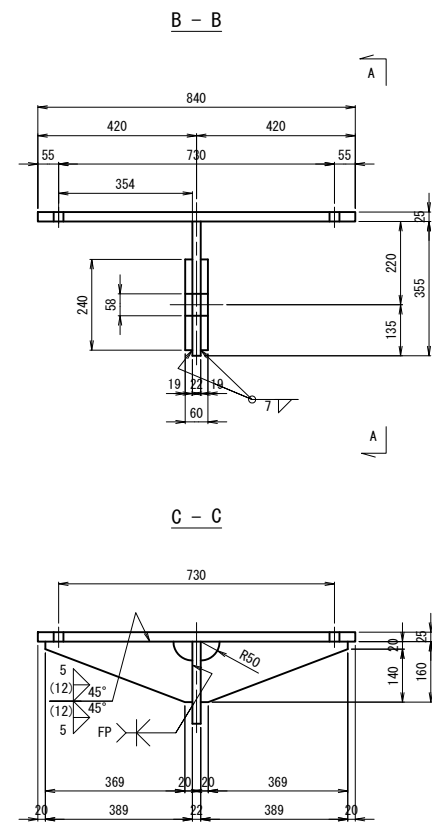
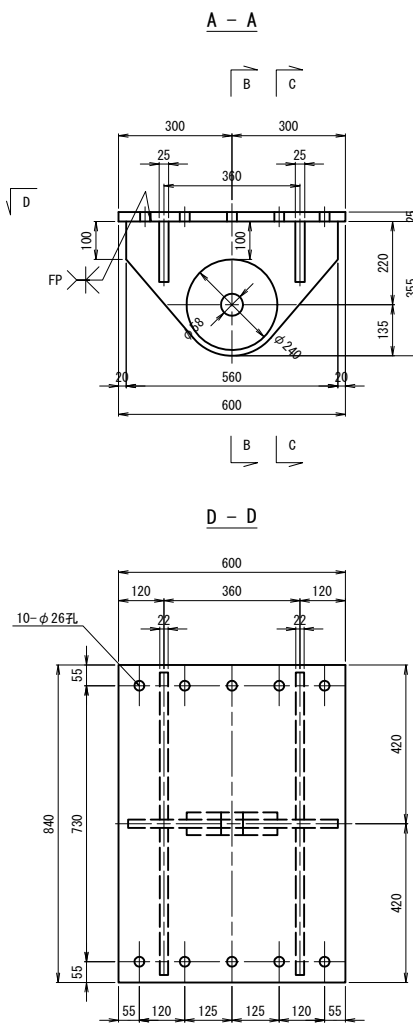
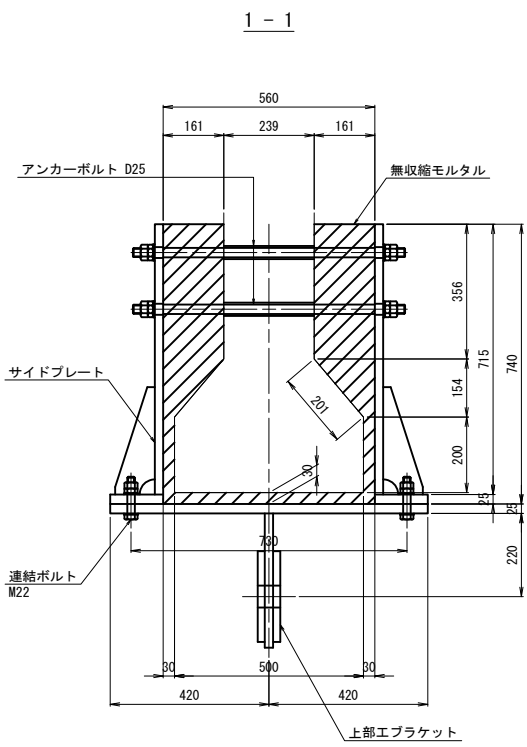
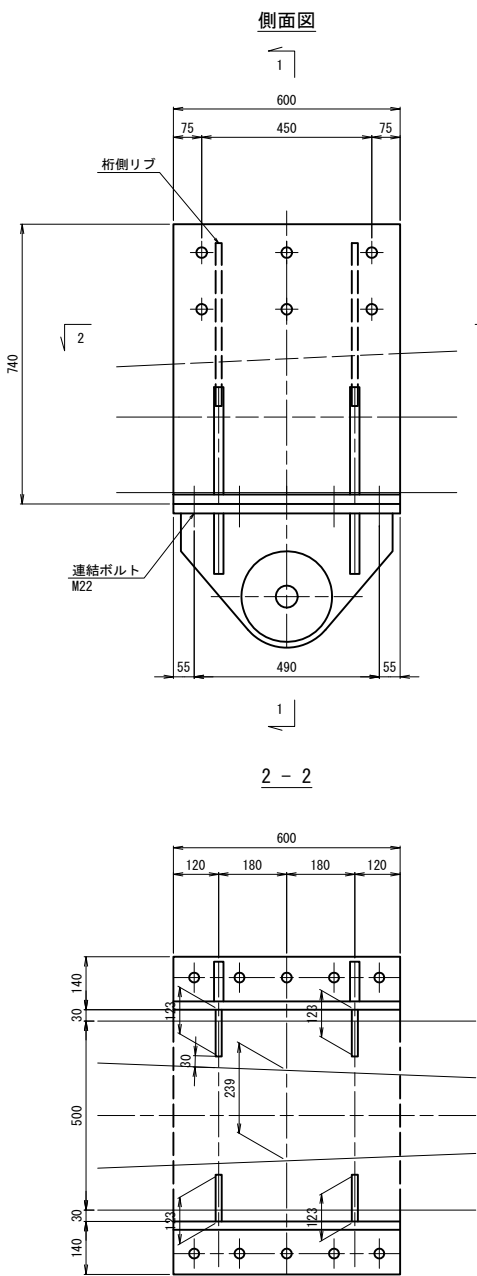
A1橋台

上部エブラケット及びサイドプレート詳細図

上部工取付図

上部エブラケット

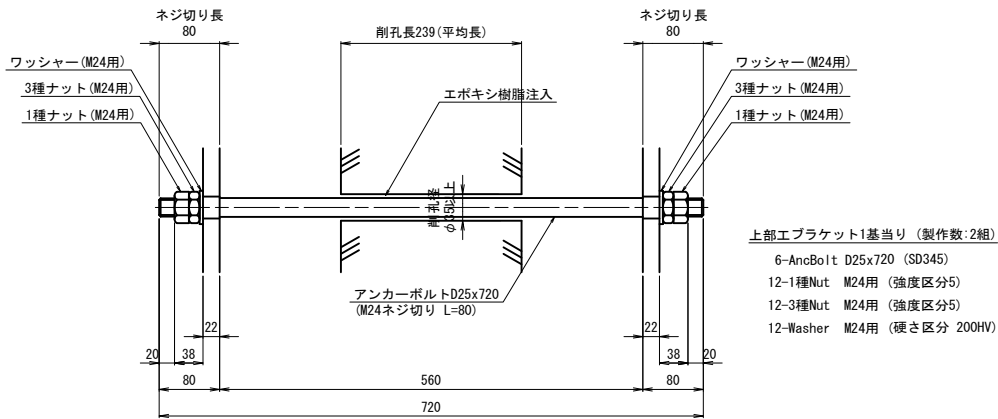
サイドプレート



- 上部エブラケット1基当り (製作数:2基)
- 1-Base PL 840x25x600 (SM490A)
 - 1-Top PL 355x22x560 (SM490A)
 - 2-Ring PL φ240x19 (SM490A)
 - 4-Rib PL 160x25x389 (SM490A)
 - 10-B, N M22x100 (1種N, 3種N, 2W付き, 強度区分8.8) メッキ品

アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。



注記

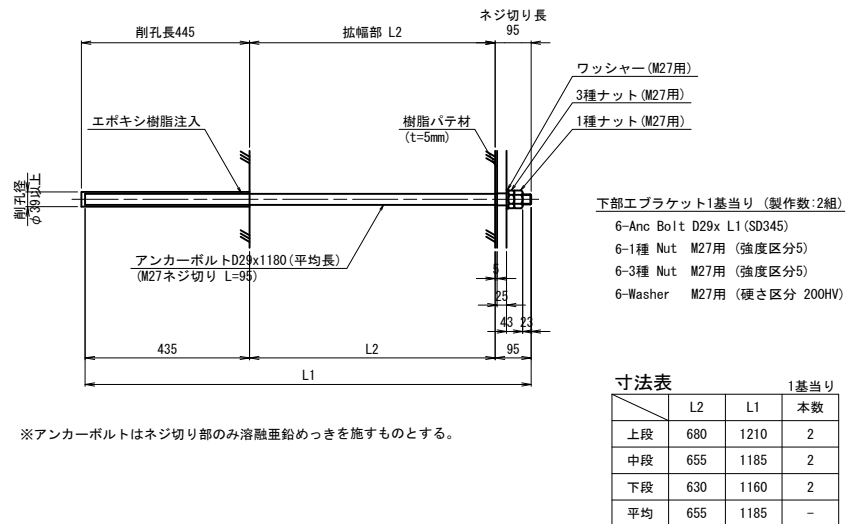
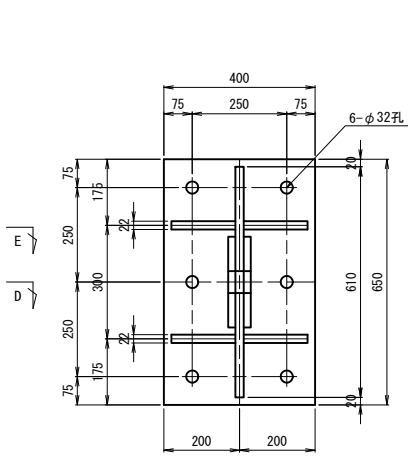
- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ777)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ749)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないV形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 （その1）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	14
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

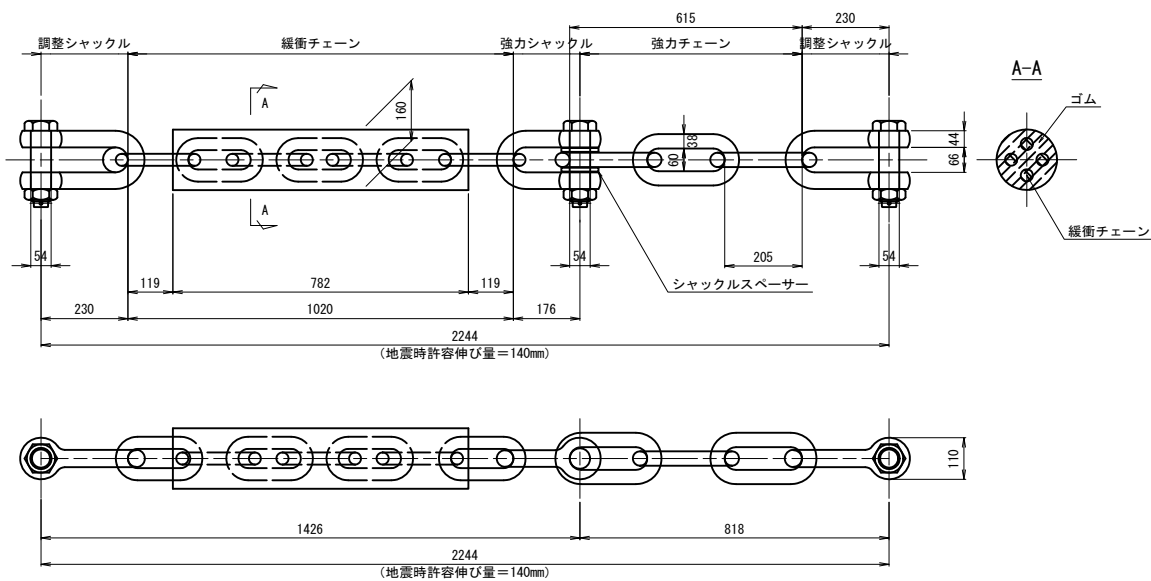
S=1:10

G2用下部エブラケット

F - F



(4型3リンク, 許容荷重 615kN)



- 1基当り (全2基)
- 1-ショックレスチェーン4型 (SCM420H)
 - 3-強力チェーンφ38 (SCM420H)
 - 2-調整シャックルφ44 (SCM435)
 - 1-強力シャックルφ44 (SCM435)

- 【注記】
1. 特記なき材質は、SM400Aとする。
 2. 鋼材加工、経緯チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
 3. チェーン及びジャックルの材質は、SC鋼または同等品とする。
 4. 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融亜鉛メッキ仕上げとする。（HDZT77）
 5. アンカーボルトネジ切部及びボルト類は、溶融亜鉛メッキ仕上げとする。（HDZT49）
 6. アンカー剛削の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
7. 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
- ※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、
ねじれが状況しないよう偶数倍の増減を行う。
- ※ねじれの状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
8. 寸法のない形状接合の表示のある箇所は、完全溶込み接合を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 （その2）	縮 尺	図 示
路線/河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 番 面 号	15 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その3)

S=1:10

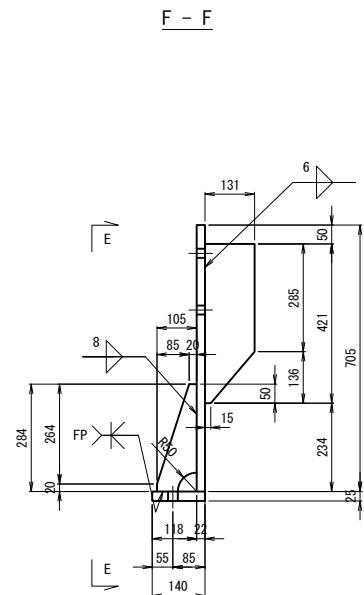
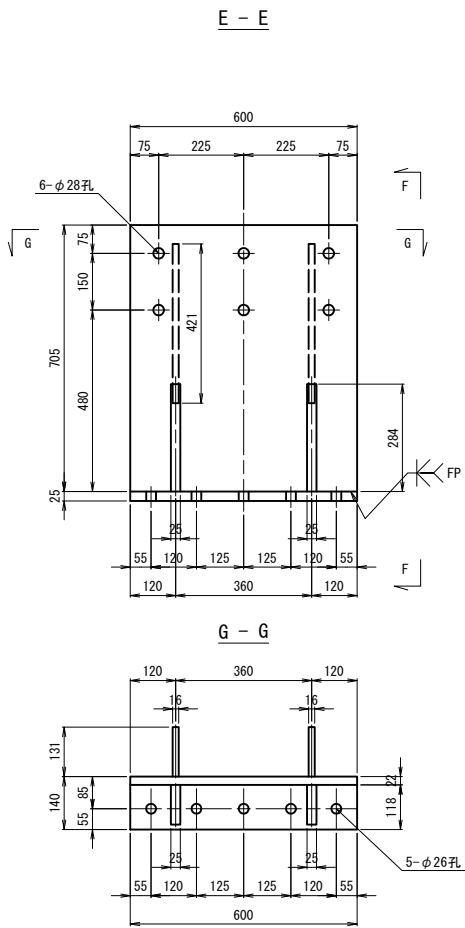
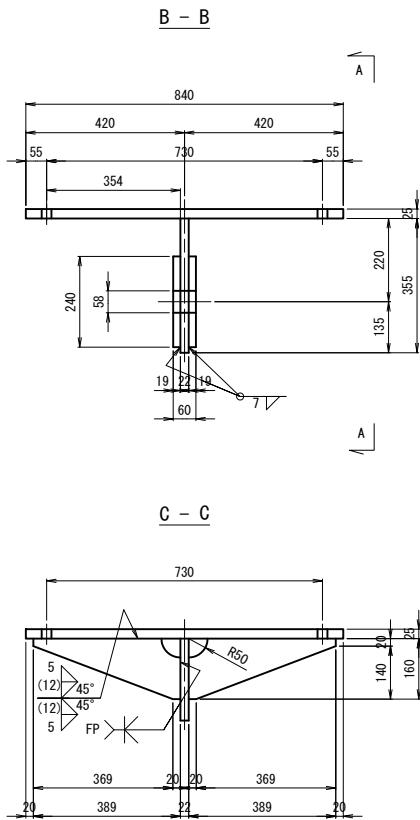
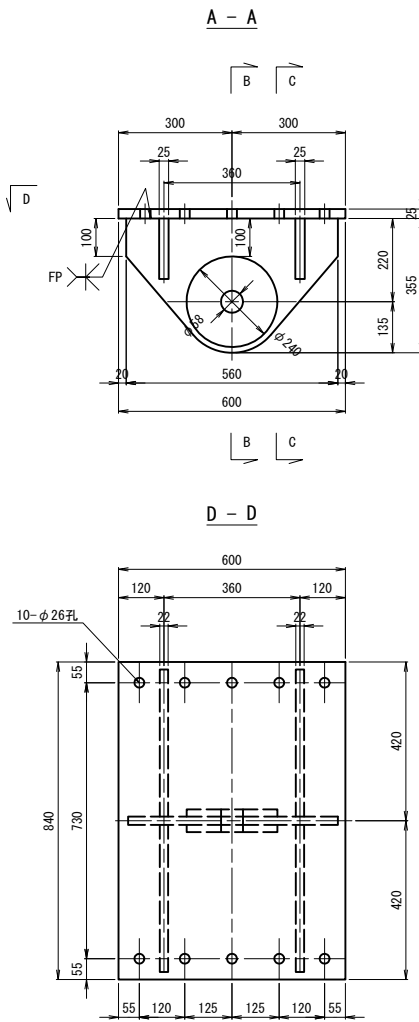
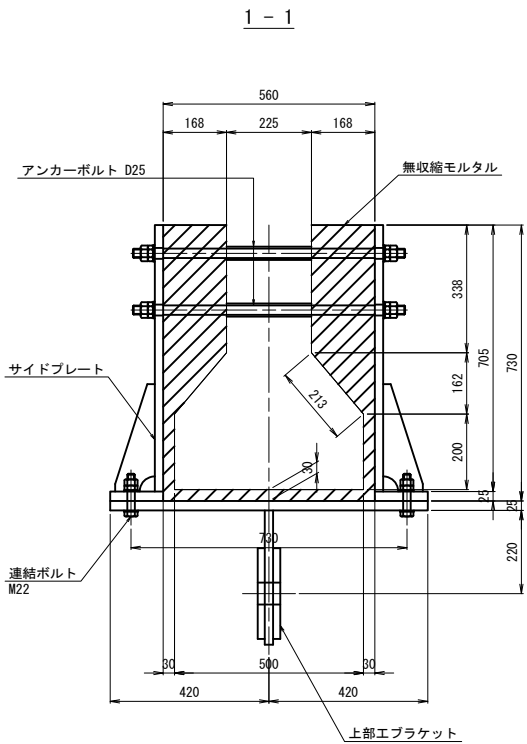
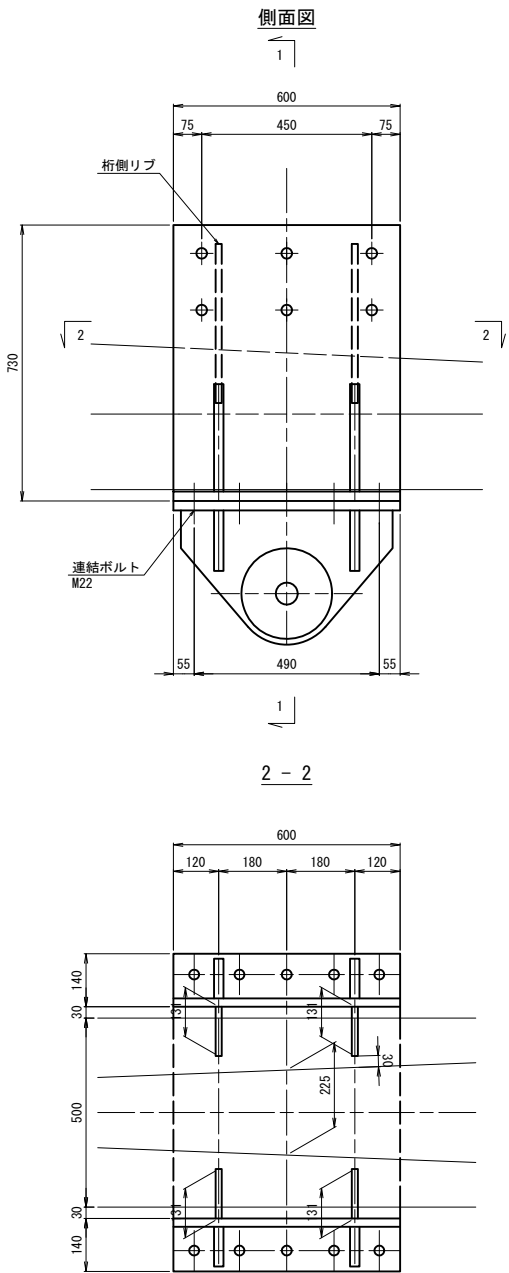
P1橋脚起点側

上部エブラケット及びサイドプレート詳細図

上部工取付図

上部エブラケット

サイドプレート



サイドプレート1主桁当り (製作数:2基)

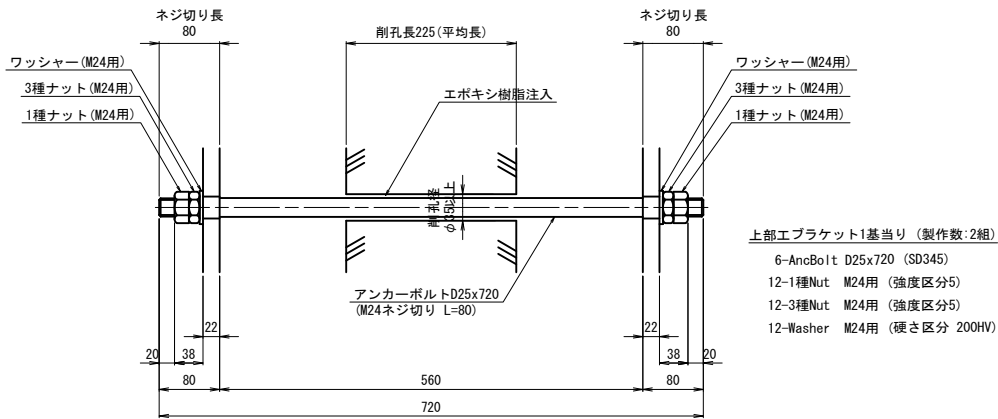
2-Web PL	705x22x600	(SM490A)
2-Base PL	140x25x600	(SM490A)
4-Rib PL	284x25x105	(SM490A)
4-Rib PL	421x16x131	(SM490A)

上部エブラケット1基当り (製作数:2基)

1-Base PL	840x25x600	(SM490A)
1-Top PL	355x22x560	(SM490A)
2-Ring PL	φ240x19	(SM490A)
4-Rib PL	160x25x389	(SM490A)
10-B, N	M22x100	(1種N, 3種N, 2W付き, 強度区分8.8) メッキ品

アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。



注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ777)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ749)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないK形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 （その3）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	16
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

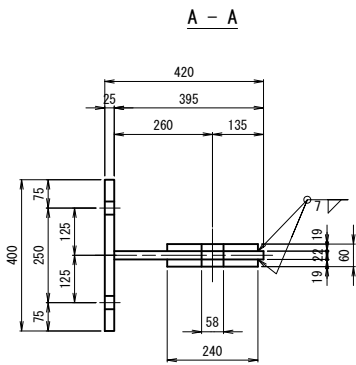
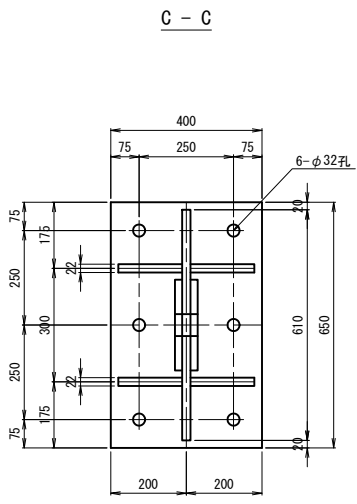
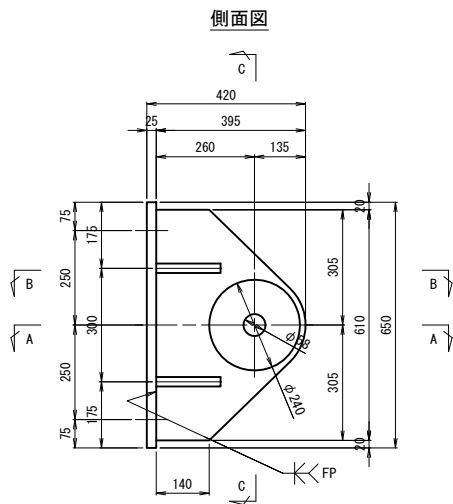
岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その4)

S=1:10

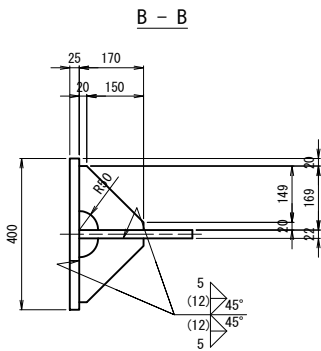
P1橋脚起点側

下部エブラケット及び部品詳細図

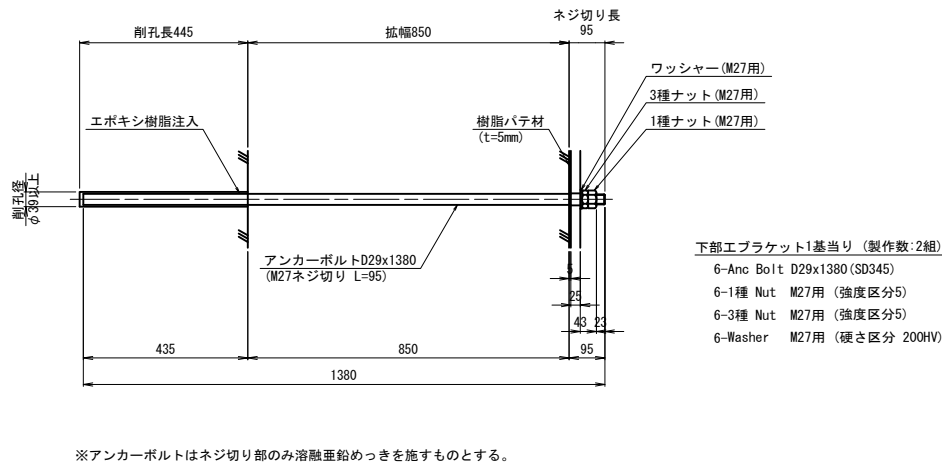
下部エブラケット



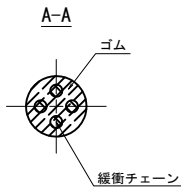
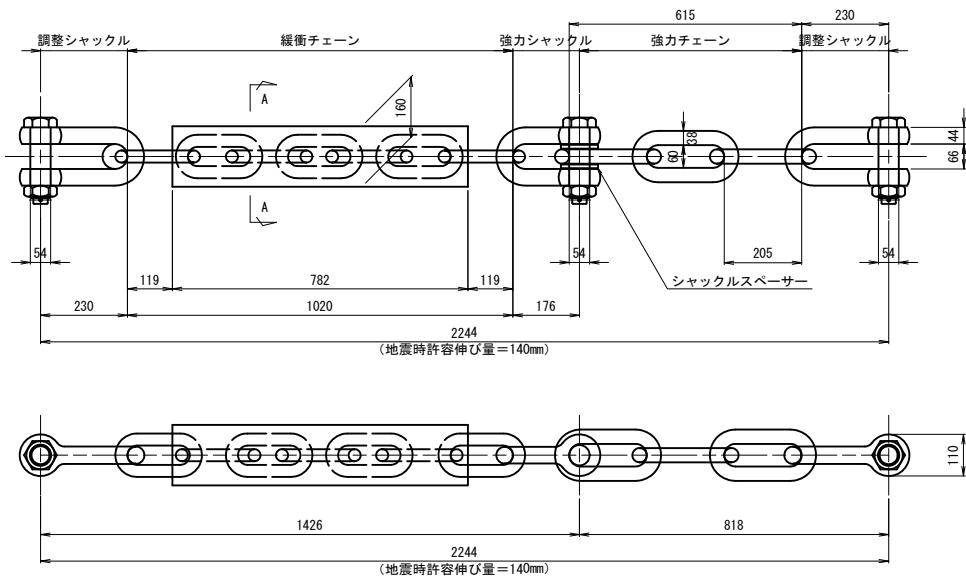
- 下部エブラケット1基当り (製作数:2基)
- 1-Base PL 400x25x650 (SM490A)
 - 1-Top PL 395x22x610 (SM490A)
 - 2-Ring PL φ240x19 (SM490A)
 - 4-Rib PL 170x22x169 (SM490A)



アンカーボルト詳細図



緩衝チェーン詳細図
(4型3リンク, 許容荷重 615kN)



- 1基当り (全2基)
- 1-ショックレスチェーン4型 (SCM420H)
 - 3-強力チェーンφ38 (SCM420H)
 - 2-調整シャックルφ44 (SCM435)
 - 1-強力シャックルφ44 (SCM435)

注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT77)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT49)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないK形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線 (岩丸橋) 橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 (その4)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	17
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その5)

S=1:10

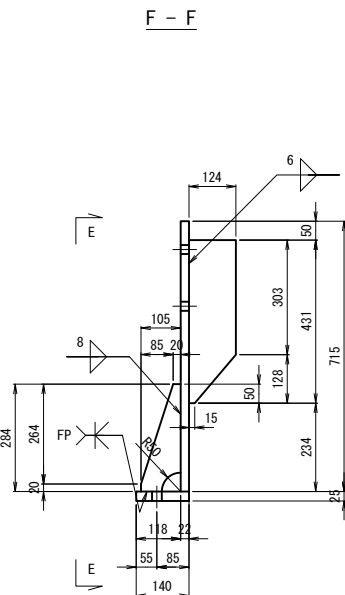
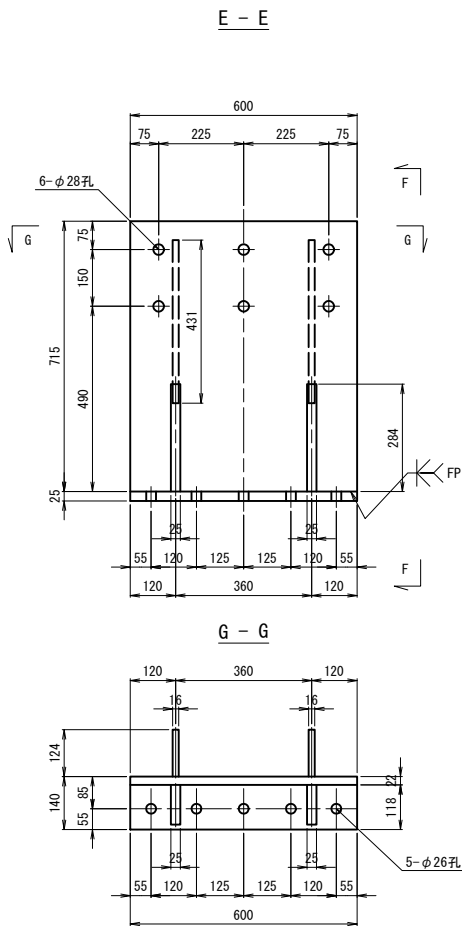
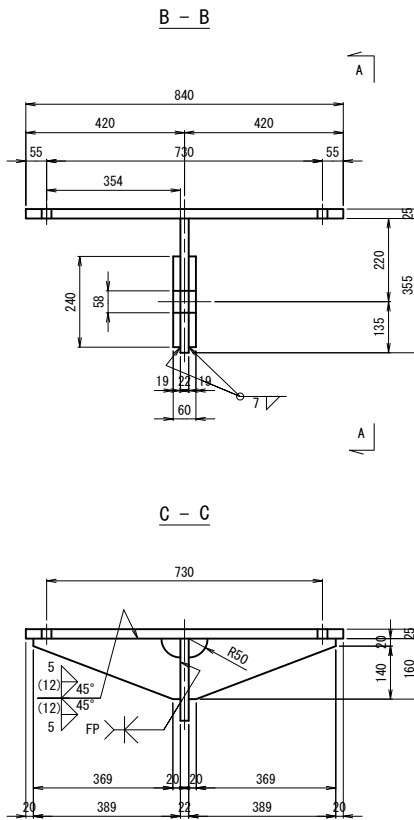
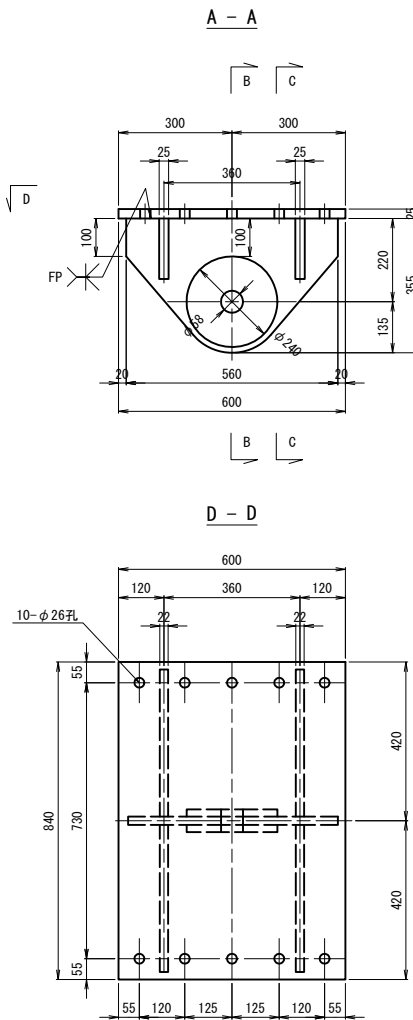
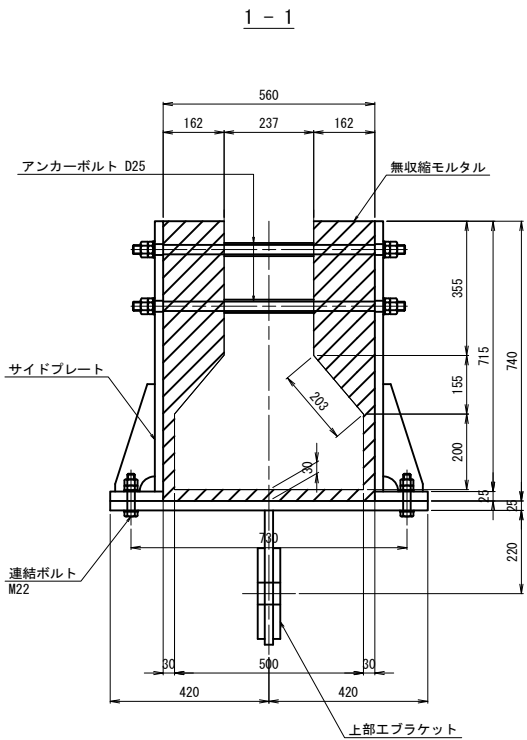
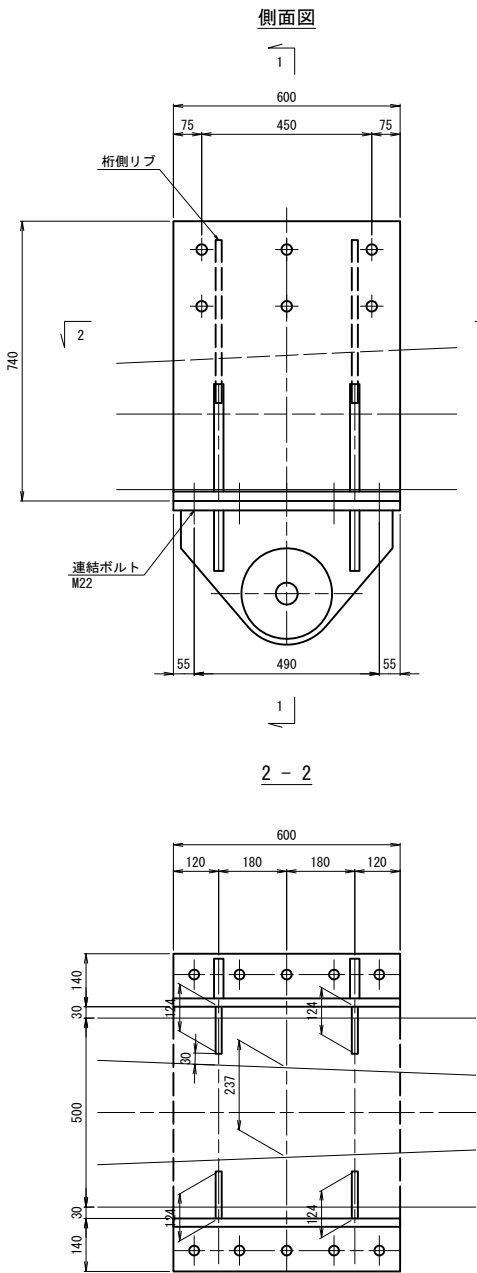
P1橋脚終点側

上部エブラケット及びサイドプレート詳細図

上部工取付図

上部エブラケット

サイドプレート



サイドプレート1主桁当り (製作数:2基)

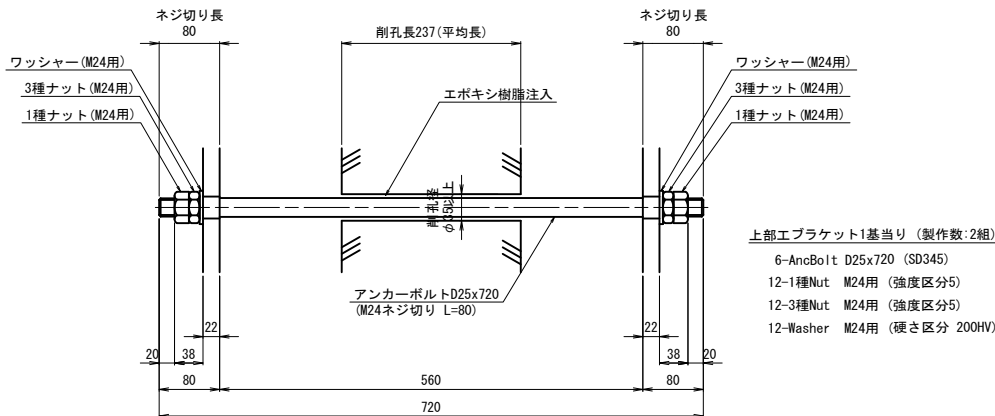
2-Web PL	715x22x600	(SM490A)
2-Base PL	140x25x600	(SM490A)
4-Rib PL	284x25x105	(SM490A)
4-Rib PL	431x16x124	(SM490A)

上部エブラケット1基当り (製作数:2基)

1-Base PL	840x25x600	(SM490A)
1-Top PL	355x22x560	(SM490A)
2-Ring PL	φ240x19	(SM490A)
4-Rib PL	160x25x389	(SM490A)
10-B, N	M22x100	(1種N, 3種N, 2W付き, 強度区分8.8) メッキ品

アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。



上部エブラケット1基当り (製作数:2組)

6-AncBolt	D25x720	(SD345)
12-1種Nut	M24用	(強度区分5)
12-3種Nut	M24用	(強度区分5)
12-Washer	M24用	(硬さ区分 200HV)

注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT77)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT49)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないV形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 （その5）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	18
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

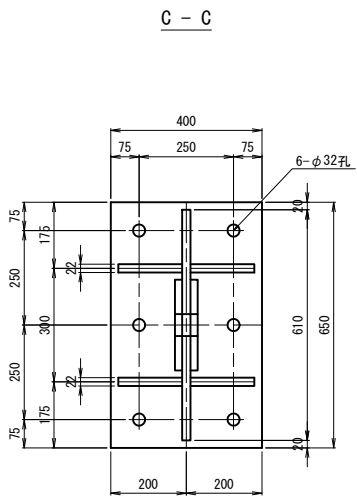
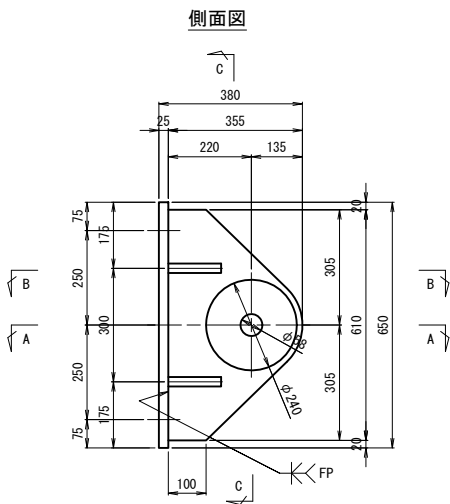
岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その6)

S=1:10

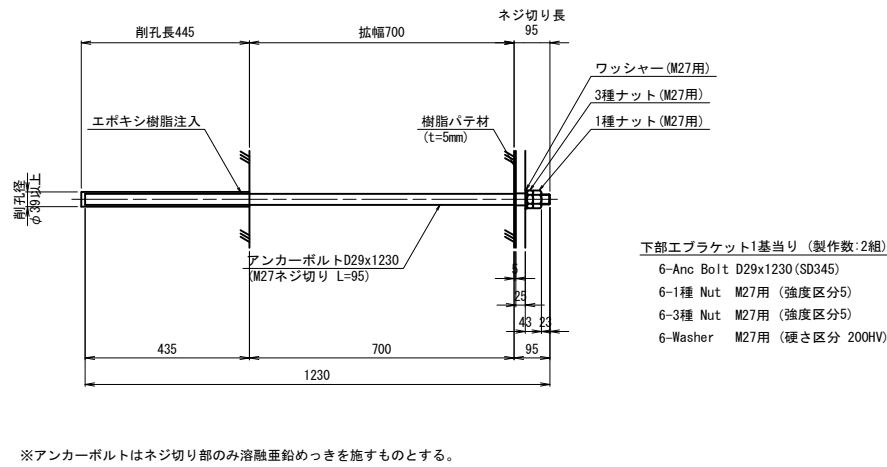
P1橋脚終点側

下部エブラケット及び部品詳細図

下部エブラケット

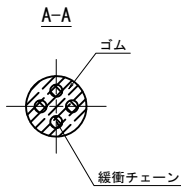
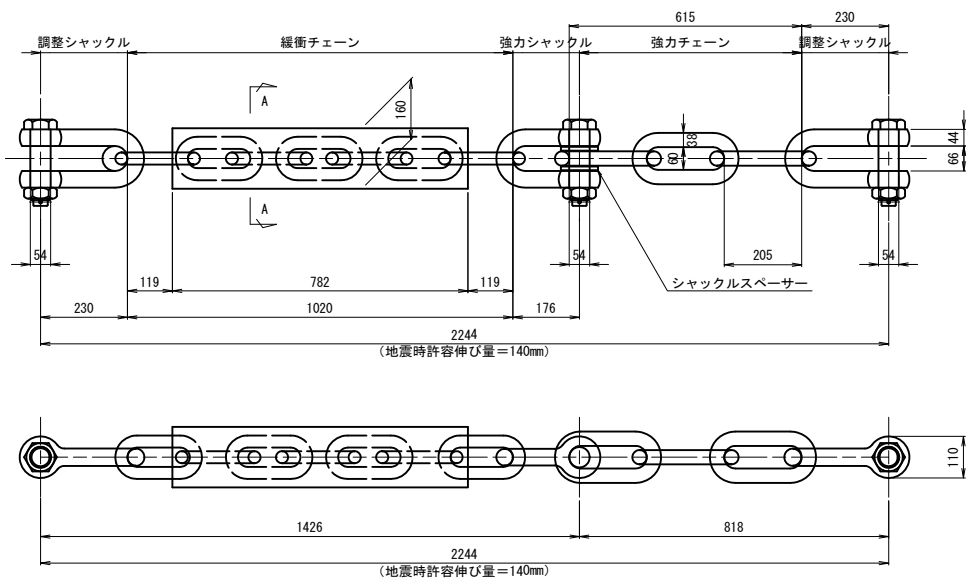


アンカーボルト詳細図



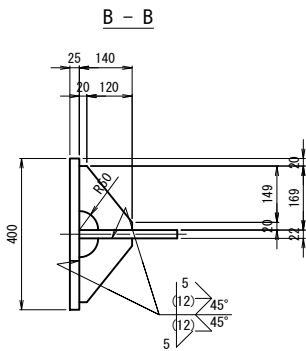
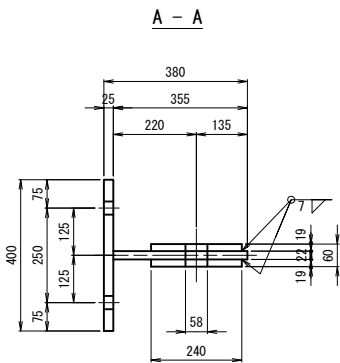
緩衝チェーン詳細図

(4型3リンク, 許容荷重 615kN)



- 1基当り (全2基)
- 1-ショックレスチェーン4型 (SCM420H)
 - 3-強力チェーンφ38 (SCM420H)
 - 2-調整シャックルφ44 (SCM435)
 - 1-強力シャックルφ44 (SCM435)

- 下部エブラケット1基当り (製作数:2基)
- 1-Base PL 400x25x650 (SM490A)
 - 1-Top PL 355x22x610 (SM490A)
 - 2-Ring PL φ240x19 (SM490A)
 - 4-Rib PL 140x22x169 (SM490A)



注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT77)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT49)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないK形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線 (岩丸橋) 橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 (その6)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	19
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その7)

S=1:10

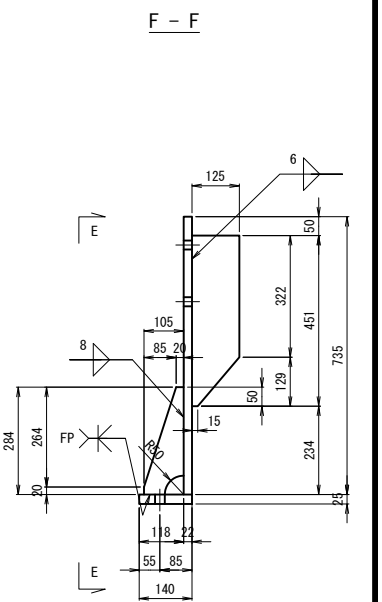
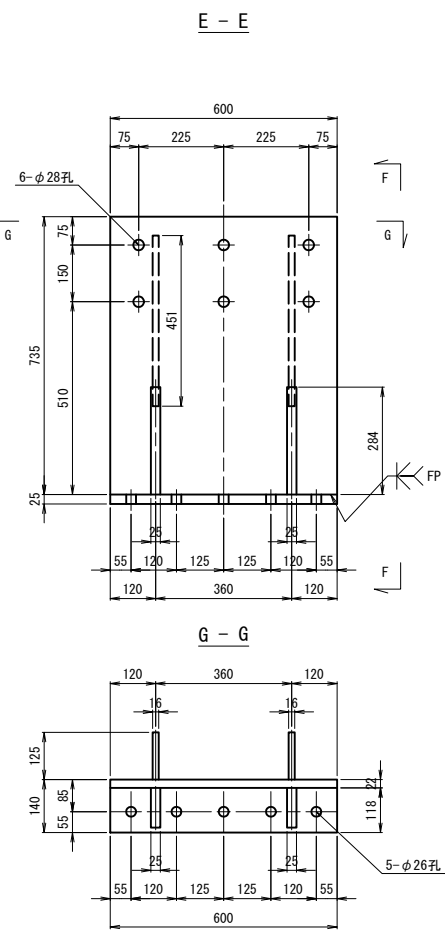
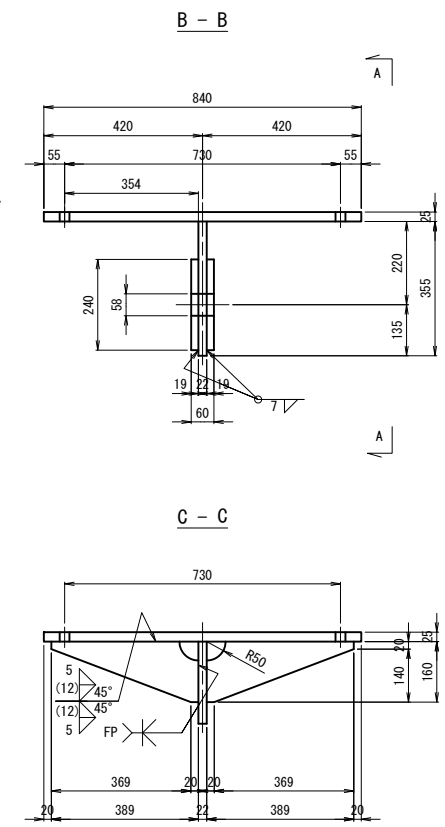
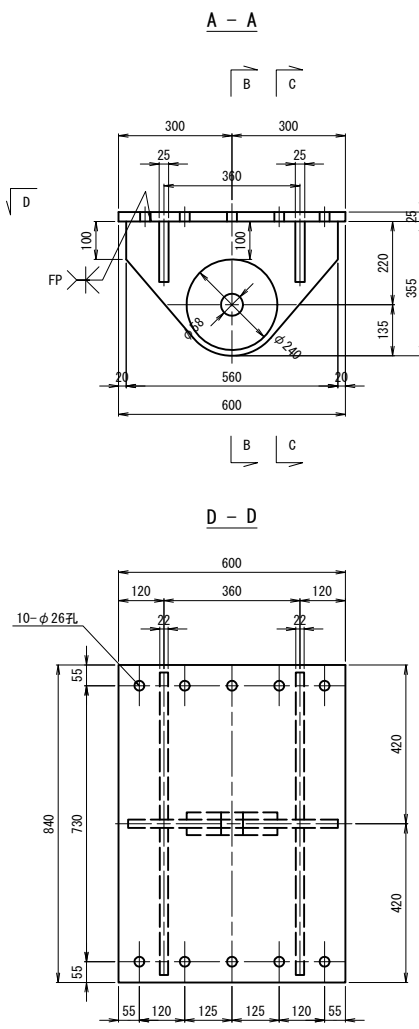
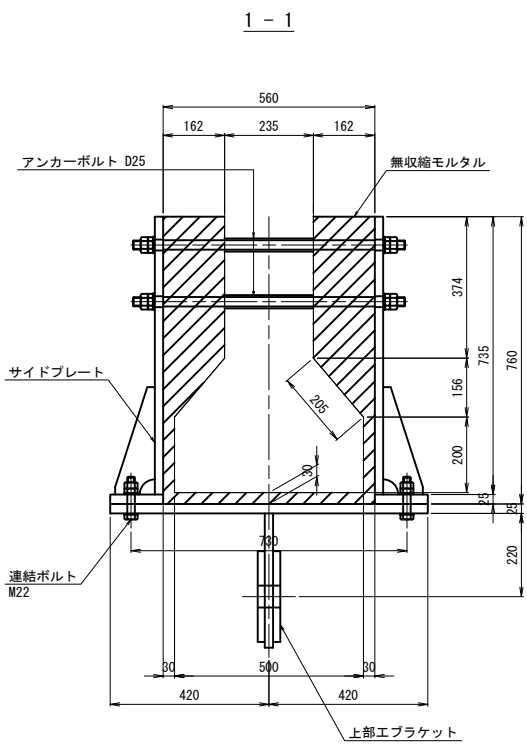
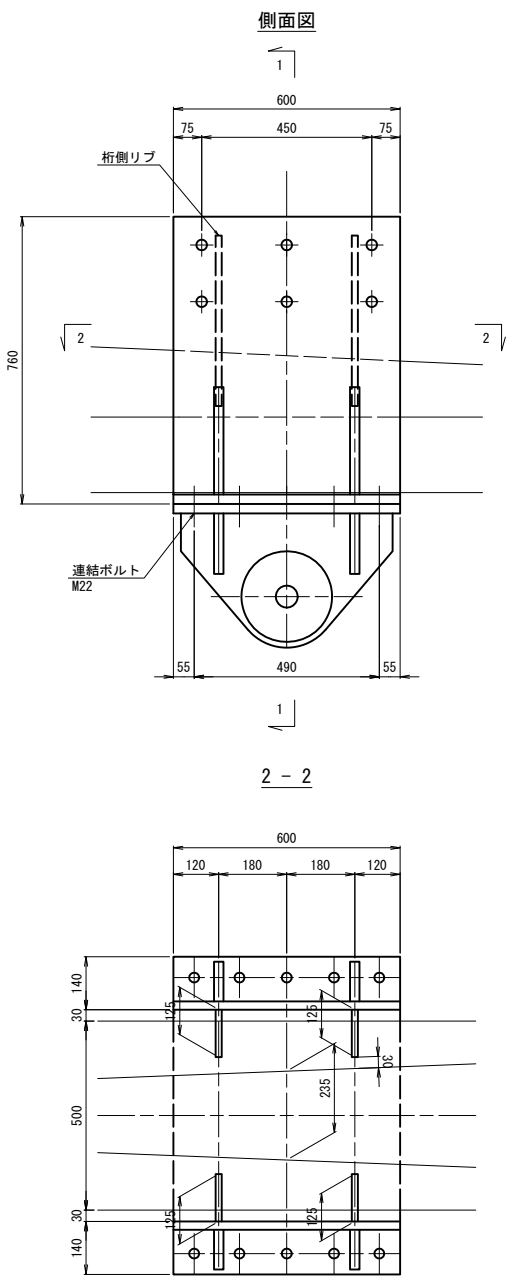
A2橋台

上部エブラケット及びサイドプレート詳細図

上部工取付図

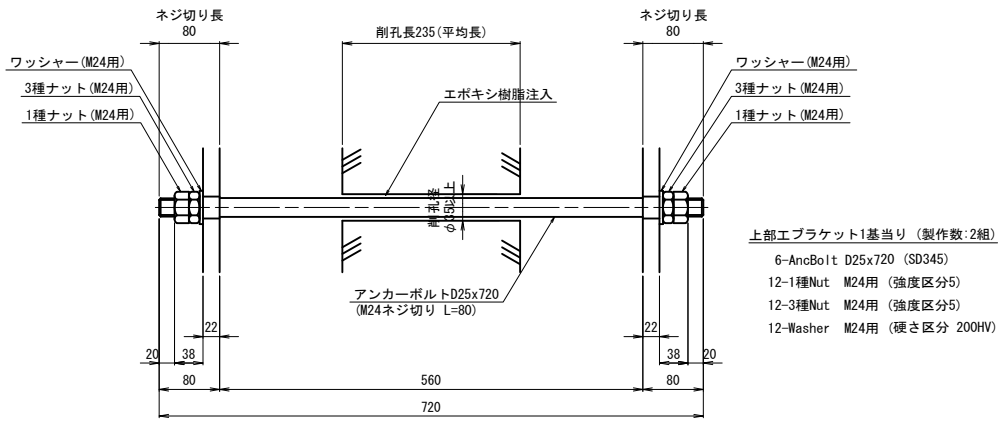
上部エブラケット

サイドプレート



アンカーボルト詳細図 S=1:5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。



注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ177)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZ149)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないV形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 （その7）	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 番 面 号	20
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

岩丸橋 落橋防止構造詳細図(その8)

S=1:10

A2橋台

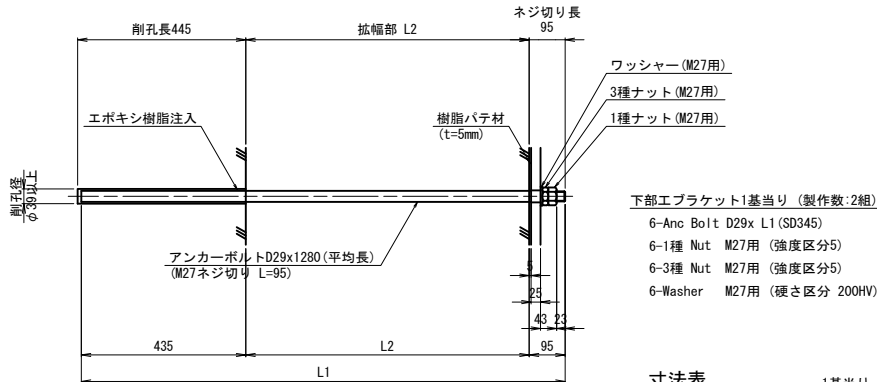
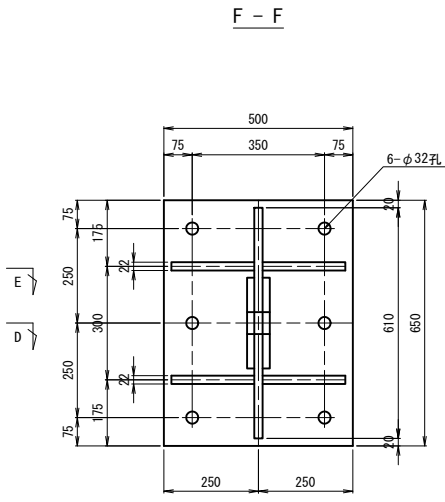
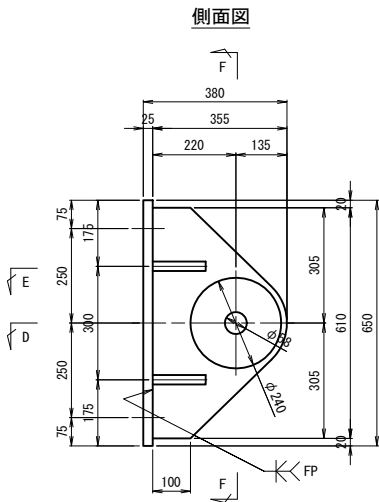
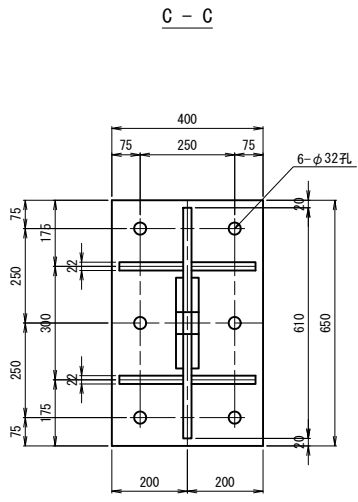
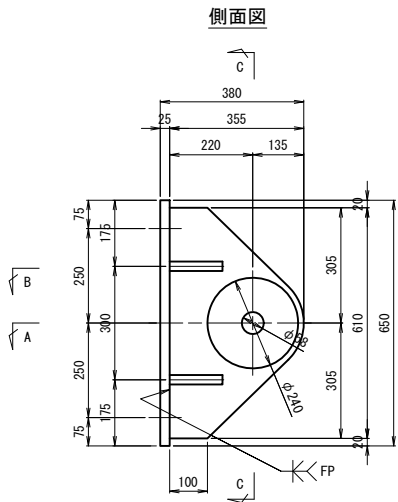
下部エブラケット及び部品詳細図

G2用下部エブラケット

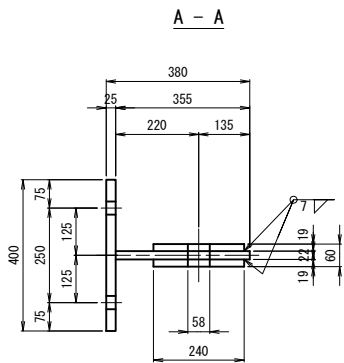
アンカーボルト詳細図

緩衝チェーン詳細図

(4型3リンク, 許容荷重 615kN)

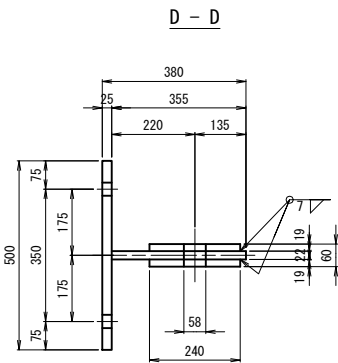


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。



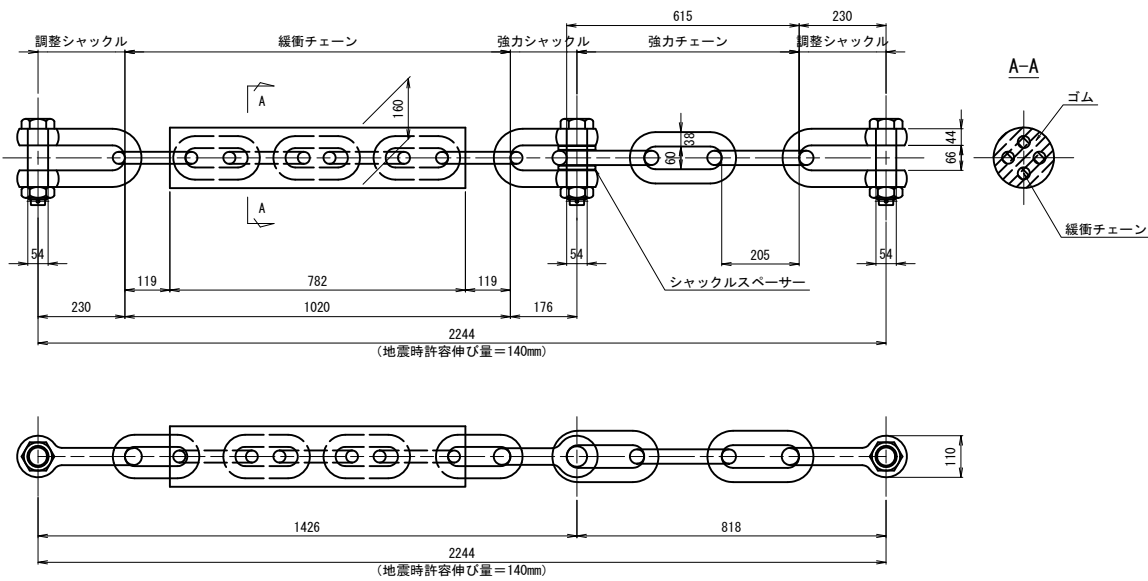
下部エブラケット1基当り (製作数:1基)

- 1-Base PL 400x25x650 (SM490A)
- 1-Top PL 355x22x610 (SM490A)
- 2-Ring PL φ240x19 (SM490A)
- 4-Rib PL 140x22x169 (SM490A)



下部エブラケット1基当り (製作数:1基)

- 1-Base PL 500x25x650 (SM490A)
- 1-Top PL 355x22x610 (SM490A)
- 2-Ring PL φ240x19 (SM490A)
- 4-Rib PL 140x22x219 (SM490A)



1基当り (全2基)

- 1-ショックレスチェーン4型 (SCM420H)
- 3-強力チェーンφ38 (SCM420H)
- 2-調整シャックルφ44 (SCM435)
- 1-強力シャックルφ44 (SCM435)

注記)

- 特記なき材質は、SM400Aとする。
- 鋼材加工、緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
- チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
- 上部エブラケット・サイドプレートは、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT77)
- アンカーボルトネジ切り部及びボルト類は、溶融垂鉛メッキ仕上げとする。(HDZT49)
- アンカー削孔の際は、既設PC鋼線及び鉄筋を破断せぬよう配筋調査を行うこと。
- 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
- 寸法のないK形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線 (岩丸橋) 橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止構造詳細図 (その8)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	21
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

S=1 : 20

エポキシ樹脂注入

K₁ D16

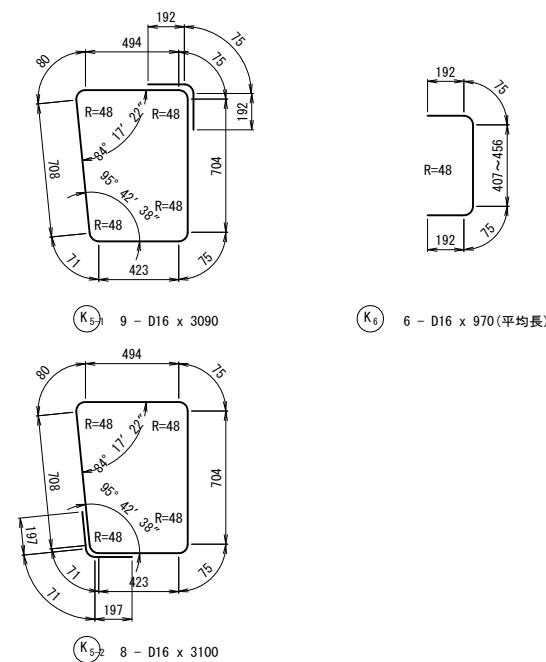
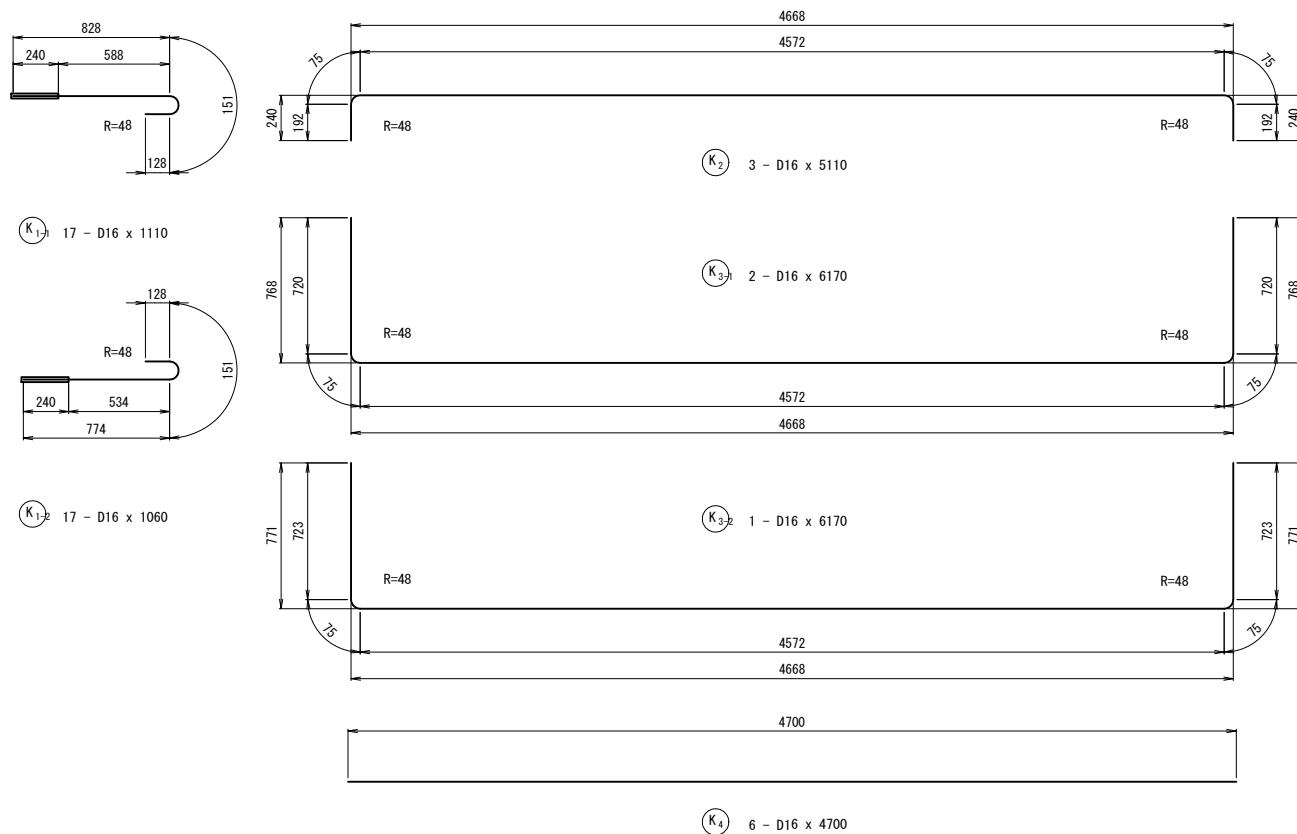
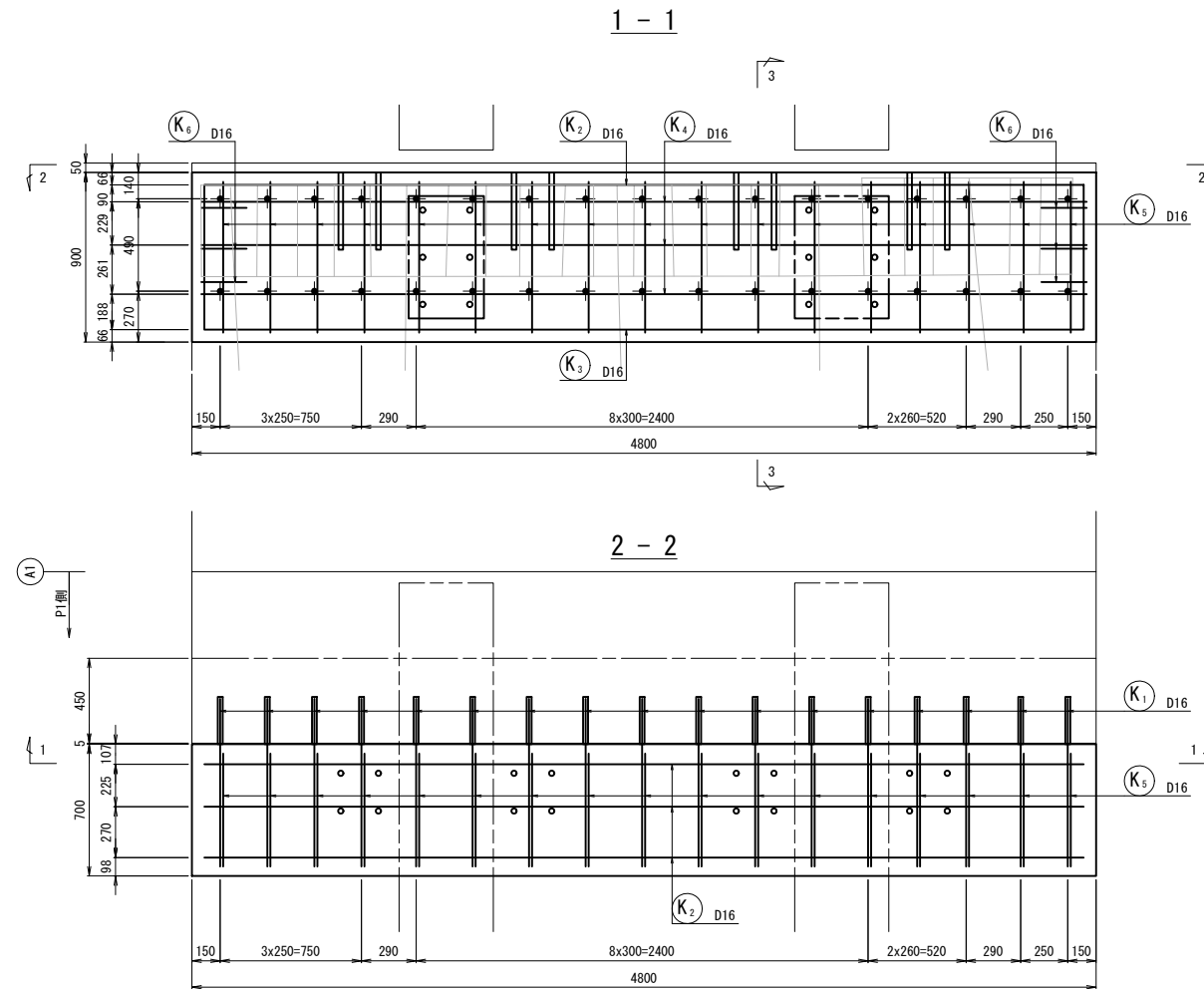
削孔径
φ26

削孔深
10

150=240

削孔長250

Technical drawing of a reinforced concrete beam cross-section showing reinforcement layout. The drawing includes labels for horizontal direction ribs (水平方向肋筋), main ribs (主肋筋), and stirrups (带肋筋). Dimensions are given in millimeters (mm). Key dimensions include 50mm for the top and bottom concrete cover, 42mm for the width of the ribs, and 50mm for the spacing of the ribs. The drawing also shows the arrangement of D16 reinforcement bars and the placement of K1, K2, and K5 reinforcement details.

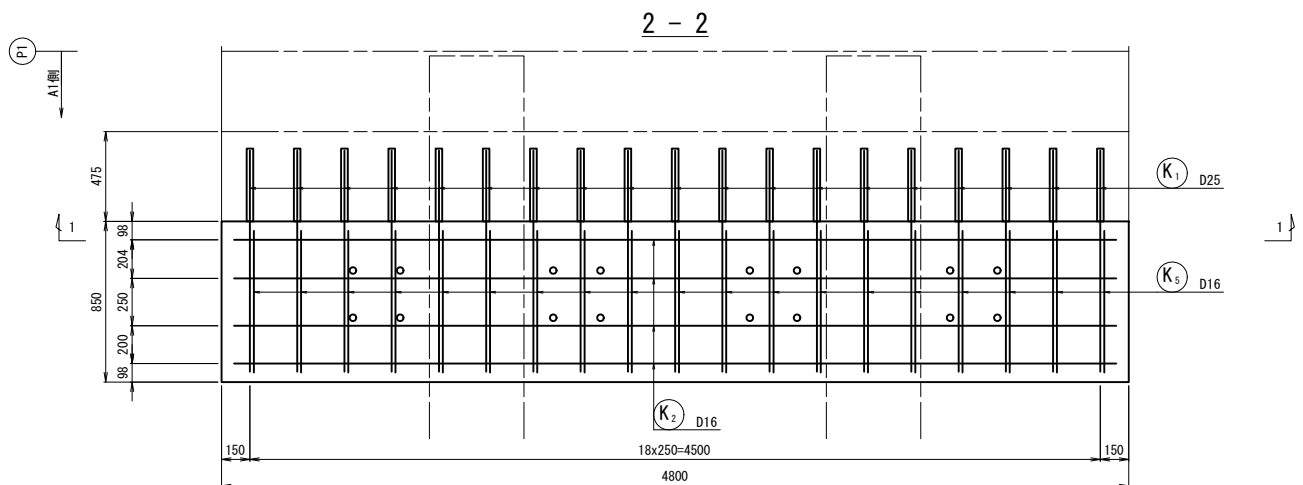
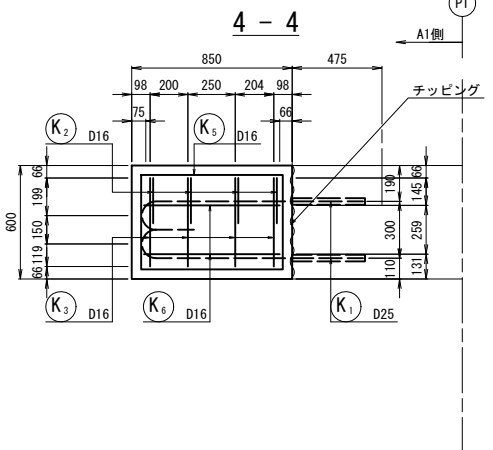
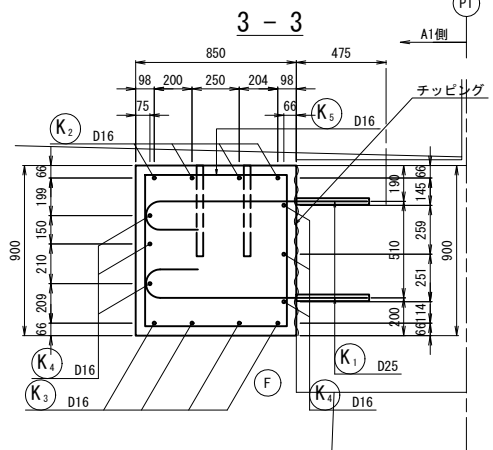
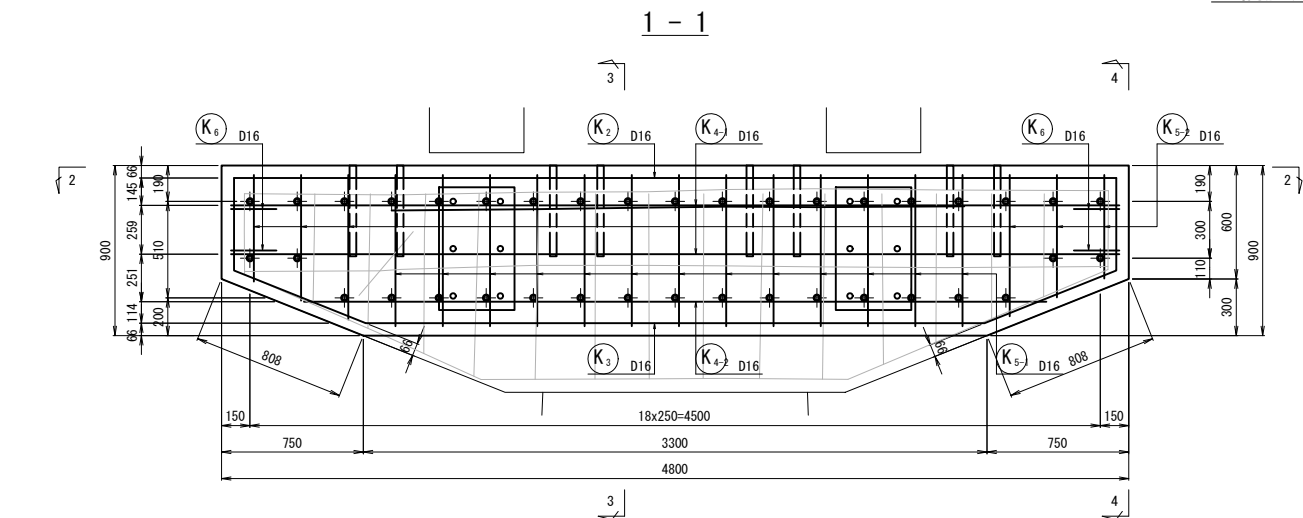
[illegible]

- | 仁 淀 川 町 | | | |
|---------|---------------------------------------|------------|-----|
| 工事種別 | 令和7年度 防災安全交付金事業
町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事 | | |
| 図面名称 | 寄座圧補配筋図(その1) | 縮 尺 | 図 示 |
| 路線河川名 | 町道岩丸線 | | |
| 工事箇所 | 仁淀川町 岩丸 | | |
| 設計種別 | 実施設計 | 図 番
面 号 | 22 |
| 事務所名 | 仁淀川町役場 | | 28 |
| 会 社 名 | | | |

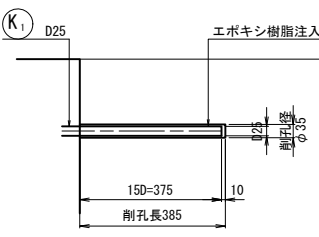
岩丸橋 沓座拡幅配筋図(その2)

S=1:20

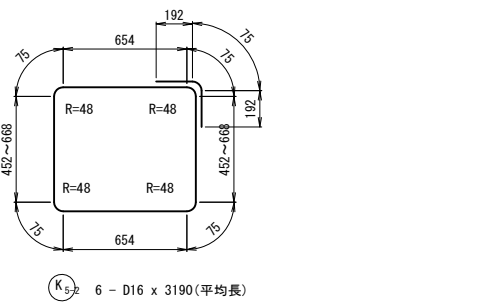
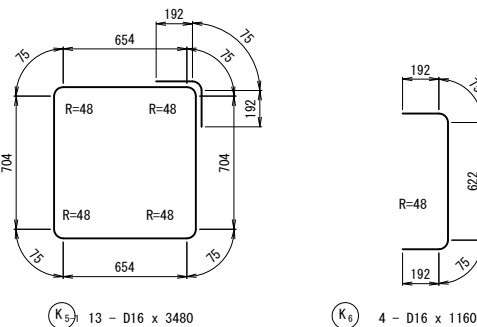
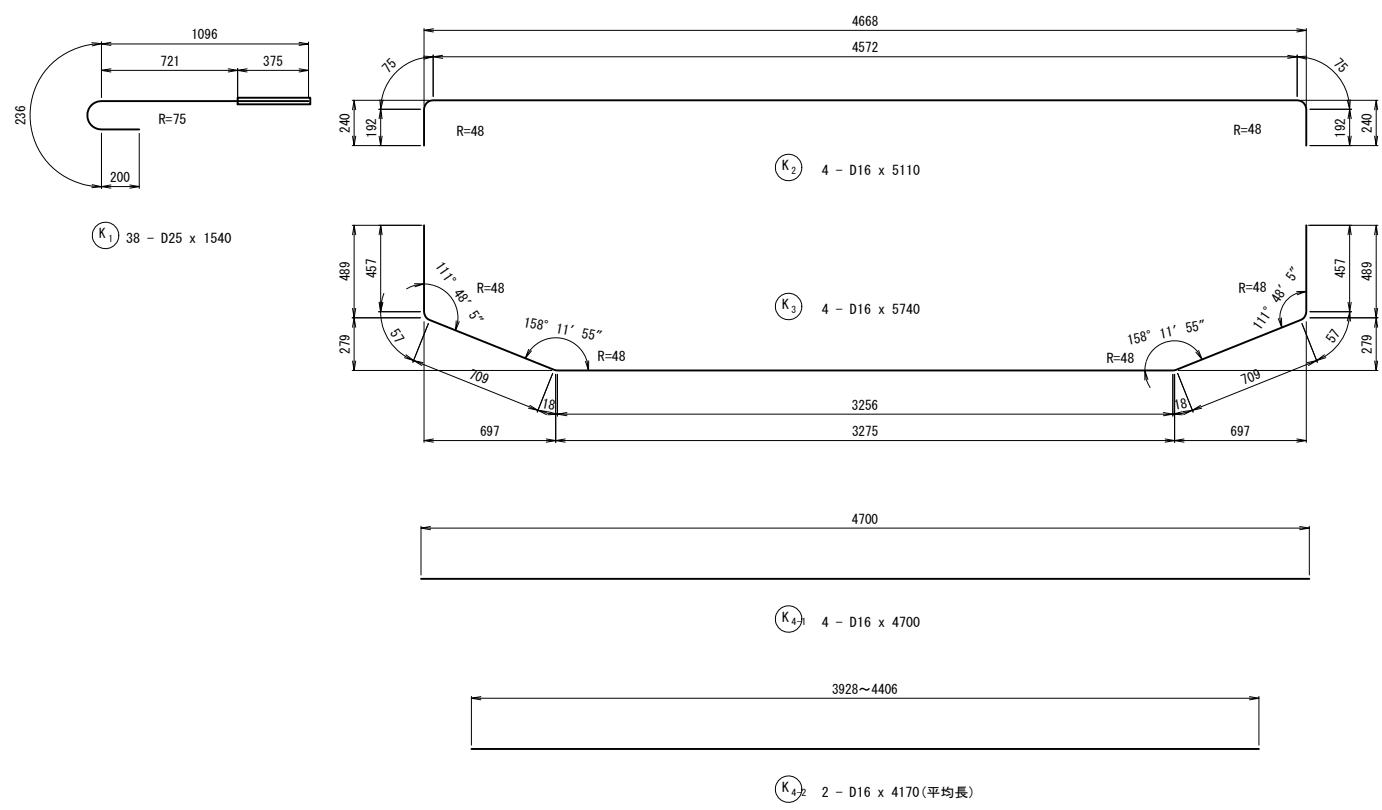
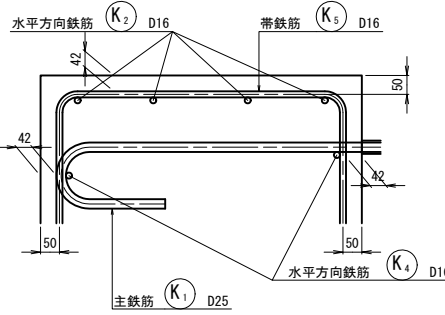
P1橋脚起点側



アンカー筋詳細図 S=1:10



かぶり詳細図 S=1:10



鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1	D25	1,540	38	3.98	6.13	233	
K2	D16	5,110	4	1.56	7.97	32	
K3	D16	5,740	4	1.56	8.95	36	
K4-1	D16	4,700	4	1.56	7.33	29	
K4-2	D16	4,170	2	1.56	6.51	13	(平均長)
K5-1	D16	3,480	13	1.56	5.43	71	
K5-2	D16	3,190	6	1.56	4.98	30	(平均長)
K6	D16	1,160	4	1.56	1.81	7	
451 kg							
SD345				D25	233	kg	
				D16	218	kg	
				合計	451	kg	
削孔				φ 35 L=385	38	本	

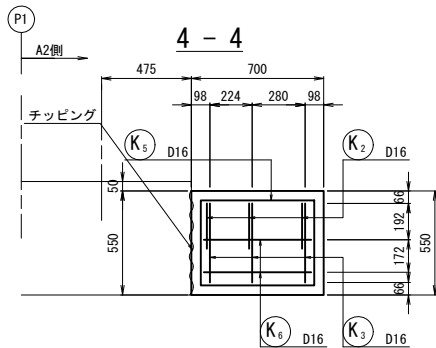
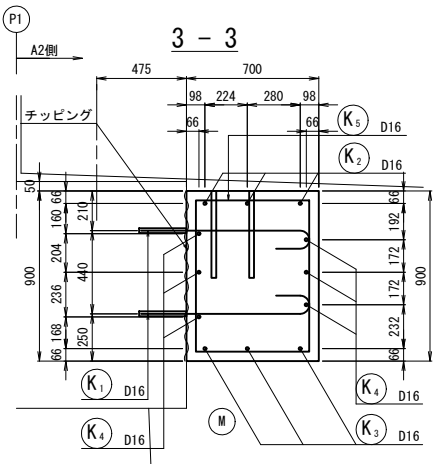
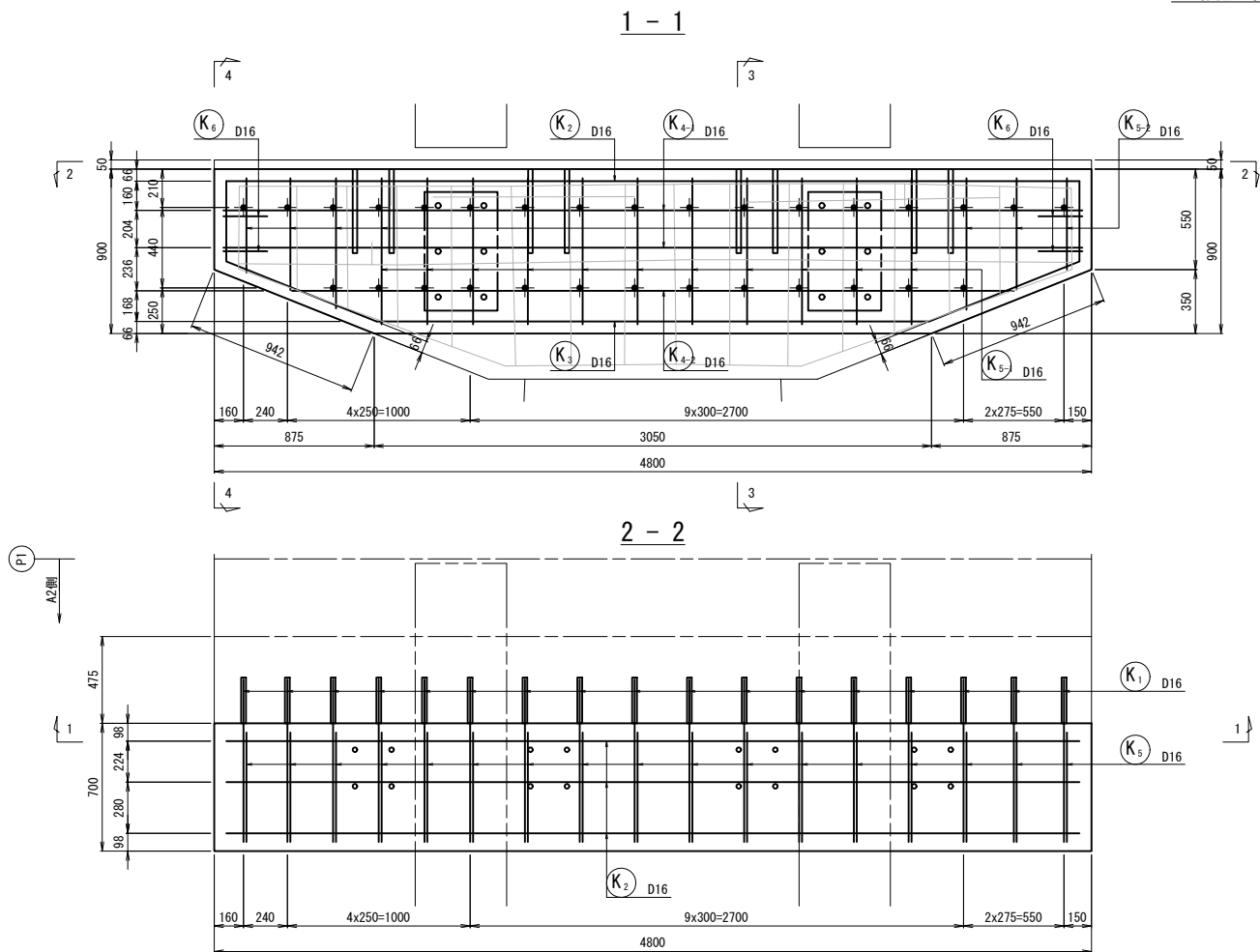
- 注記)
- 施工前に既設形状寸法を確認すること。
 - 新設部施工面には、チップング処理を行うこと。
 - アンカー鉄筋の削孔にあたっては、既設鉄筋を損傷しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
 - コンクリート基準強度 $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	沓座拡幅配筋図(その2)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	23
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

岩丸橋 沓座拡幅配筋図(その3)

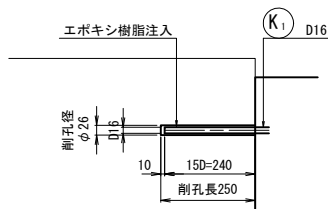
S=1:20

P1橋脚終点側



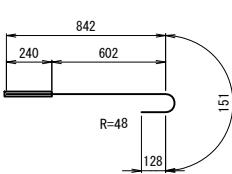
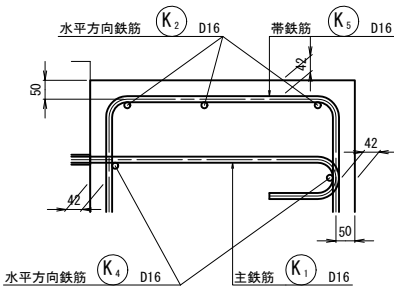
アンカー筋詳細図

S=1:10

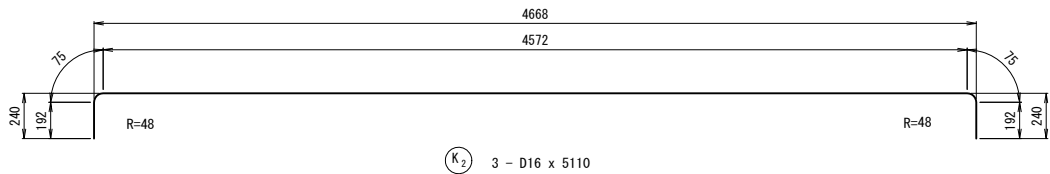


かぶり詳細図

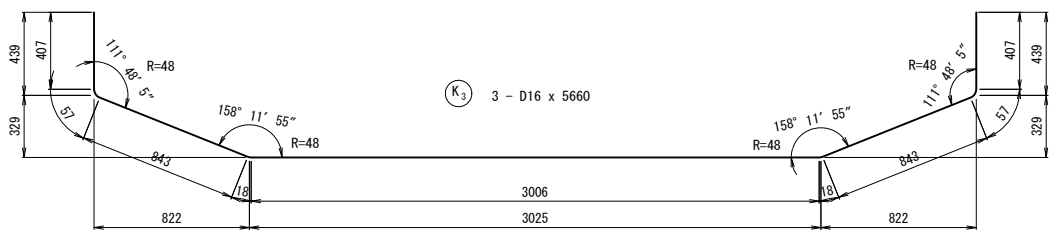
S=1:10



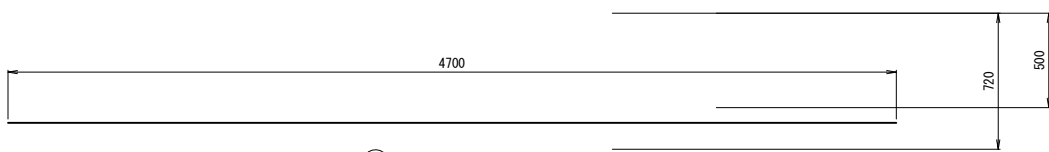
K1 30 - D16 x 1130



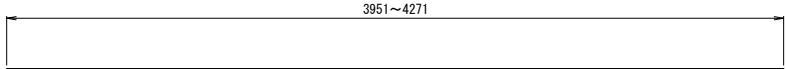
K2 3 - D16 x 5110



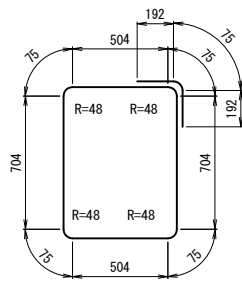
K3 3 - D16 x 5660



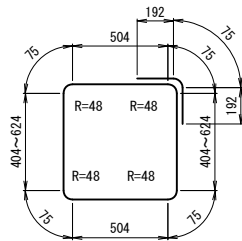
K4 4 - D16 x 4700



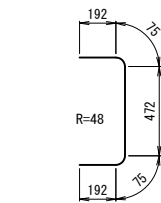
K4.2 2 - D16 x 4120 (平均長)



K5 11 - D16 x 3180



K5.2 6 - D16 x 2800 (平均長)



K6 4 - D16 x 1010

鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1	D16	1,130	30	1.56	1.76	53	
K2	D16	5,110	3	1.56	7.97	24	
K3	D16	5,660	3	1.56	8.83	26	
K4-1	D16	4,700	4	1.56	7.33	29	
K4-2	D16	4,120	2	1.56	6.43	13	(平均長)
K5-1	D16	3,180	11	1.56	4.96	55	
K5-2	D16	2,800	6	1.56	4.37	26	(平均長)
K6	D16	1,010	4	1.56	1.58	6	
232 kg							
SD345				D16	232 kg		
				合計	232 kg		
				削孔	φ26 L=250	30 本	

注記)

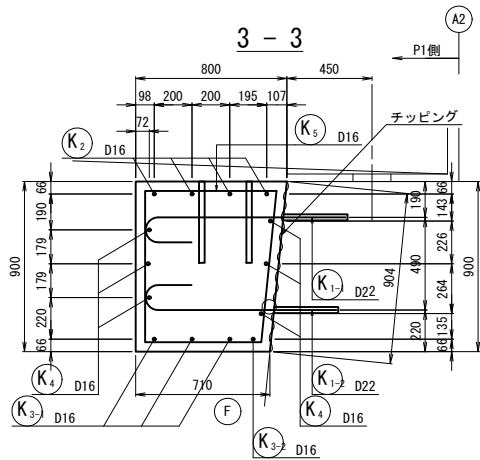
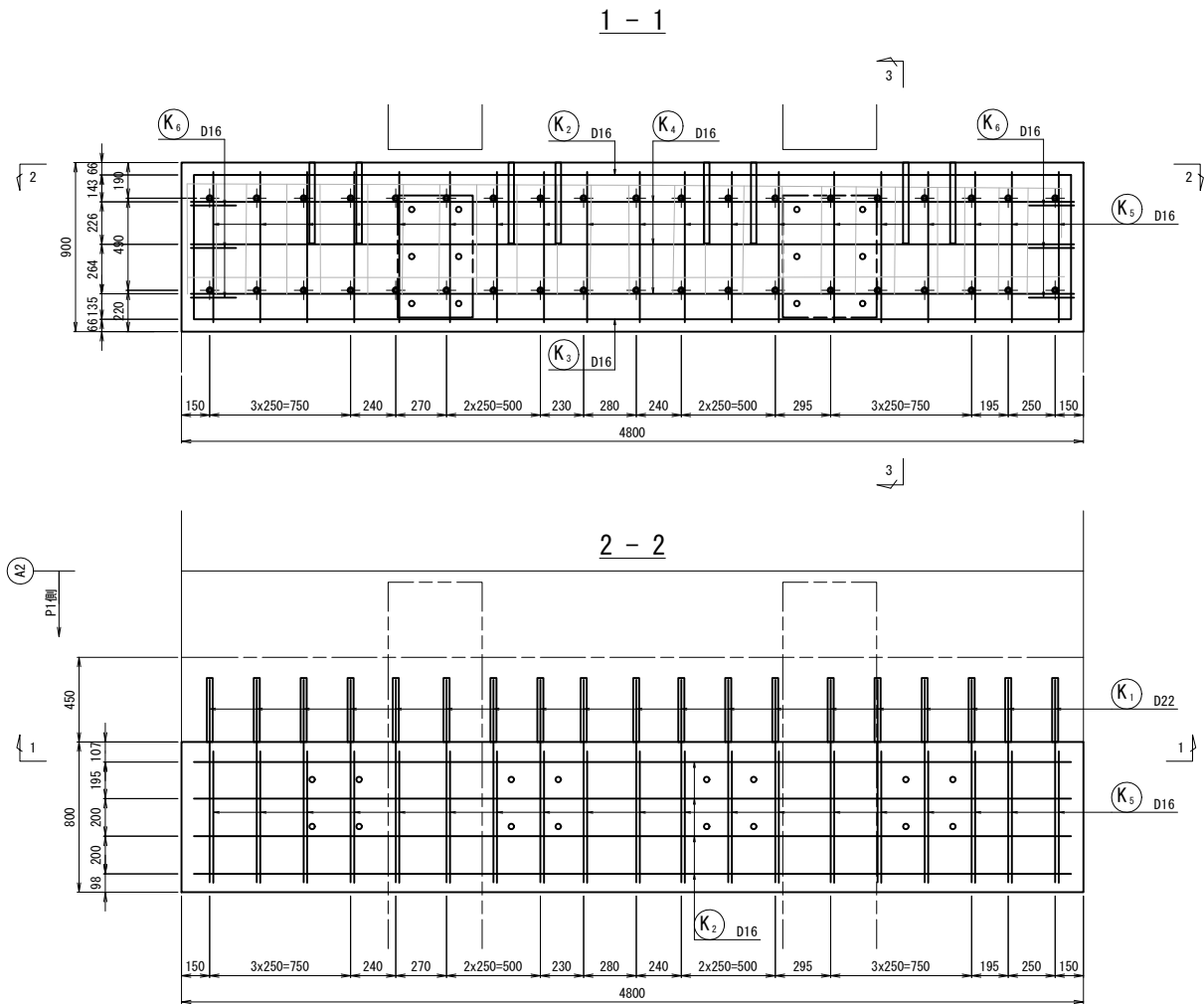
- 施工前に既設形状寸法を確認すること。
- 新設部施工面には、チップング処理を行うこと。
- アンカー鉄筋の削孔にあたっては、既設鉄筋を損傷しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
- コンクリート基準強度 $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	沓座拡幅配筋図(その3)	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	24
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

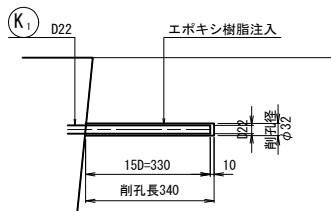
岩丸橋 沓座拡幅配筋図(その4)

S=1:20

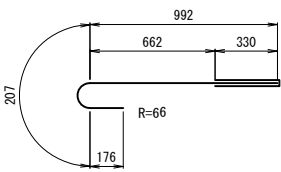
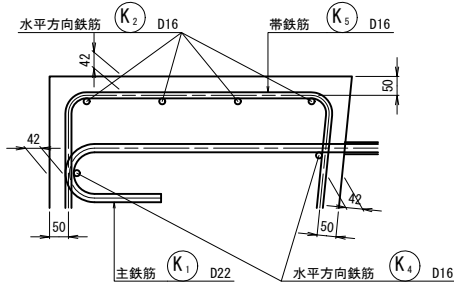
A2橋台



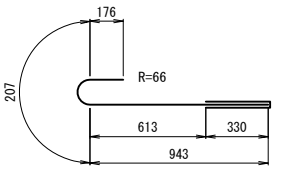
アンカー筋詳細図 S=1:10



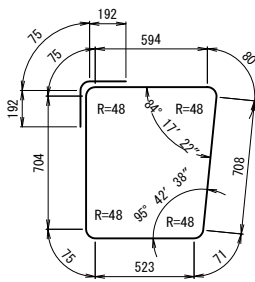
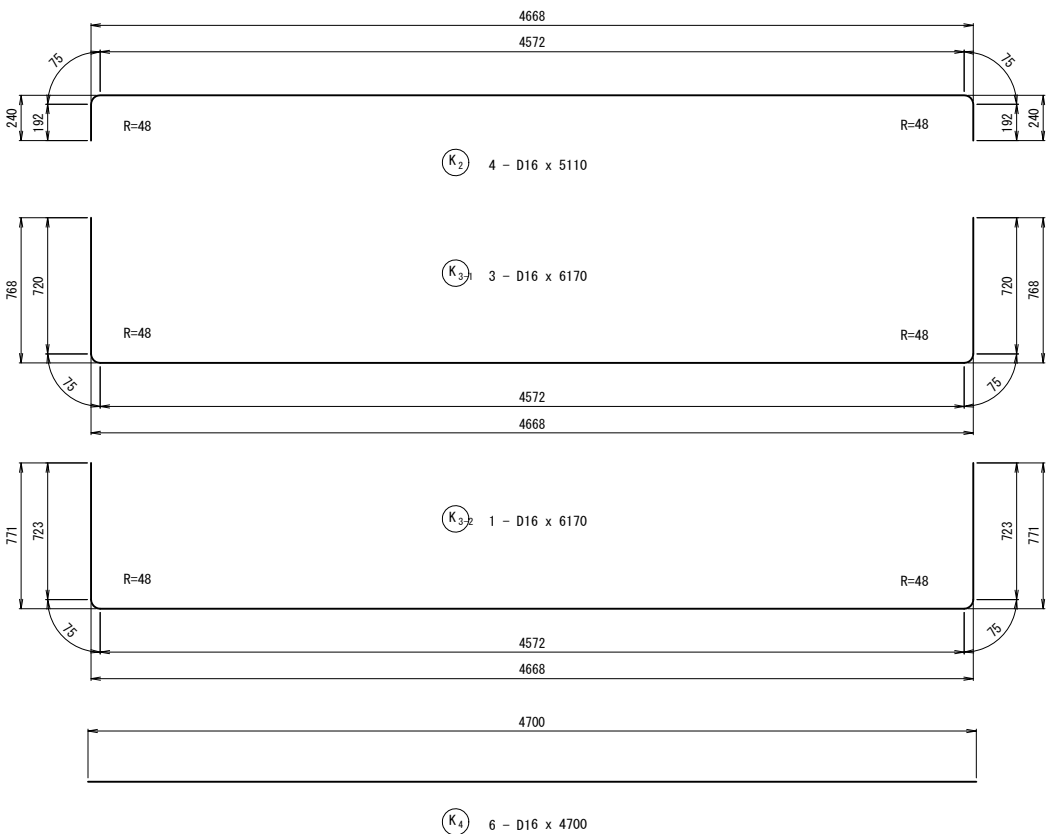
かぶり詳細図 S=1:10



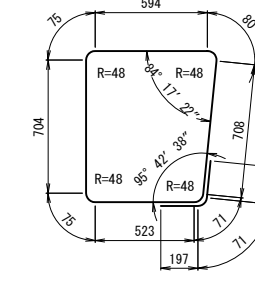
K1-1 19 - D22 x 1380



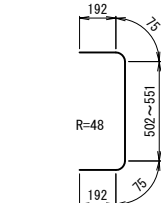
K1-2 19 - D22 x 1330



K5-1 10 - D16 x 3290



K5-2 9 - D16 x 3300



K6 6 - D16 x 1070(平均長)

鉄筋質量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1-1	D22	1,380	19	3.04	4.20	80	
K1-2	D22	1,330	19	3.04	4.04	77	
K2	D16	5,110	4	1.56	7.97	32	
K3-1	D16	6,170	3	1.56	9.63	29	
K3-2	D16	6,170	1	1.56	9.63	10	
K4	D16	4,700	6	1.56	7.33	44	
K5-1	D16	3,290	10	1.56	5.13	51	
K5-2	D16	3,300	9	1.56	5.15	46	
K6	D16	1,070	6	1.56	1.67	10	(平均長)
379 kg							
SD345							
D22							157 kg
D16							222 kg
合計							379 kg
削孔							φ32 L=340 38 本

- 注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
 2. 新設部施工面には、チップング処理を行うこと。
 3. アンカー鉄筋の削孔にあたっては、既設鉄筋を損傷しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
 4. コンクリート基準強度 $\sigma_{ck}=24N/mm^2$

仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	沓座拡幅配筋図(その4)	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	25	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

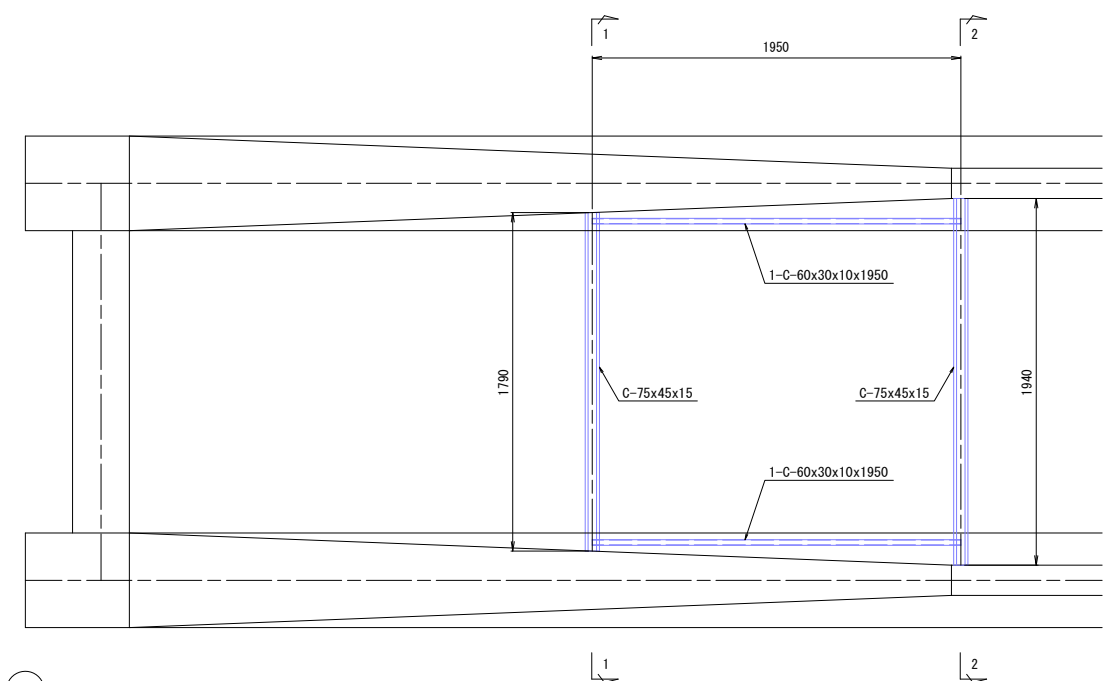
岩丸橋 添架物支持金具撤去・復旧図

S=1:20

撤去

復旧

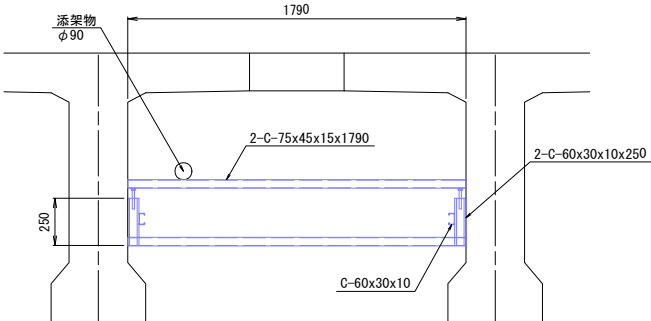
平面図



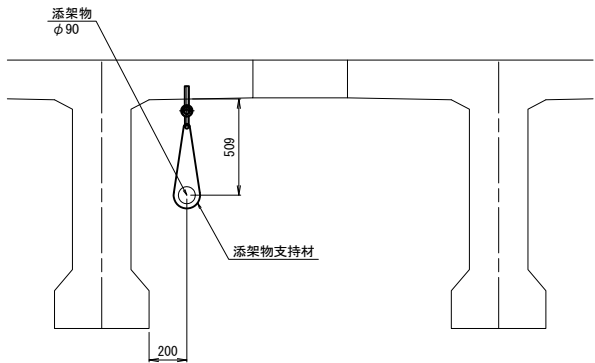
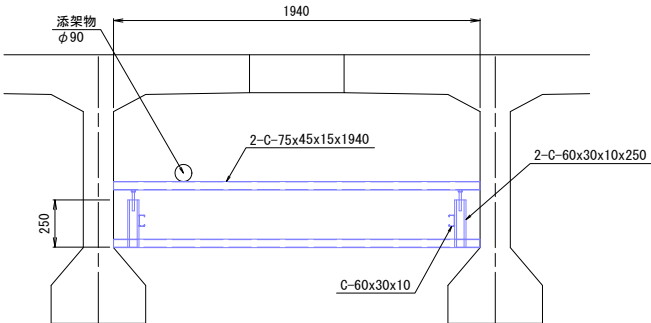
A1
P1 起終点
A2

撤去添架物架台1基当り(全4基)
2 - C-75x45x15x1790
2 - C-75x45x15x1940
4 - C-60x30x10x250
2 - C-60x30x10x1950

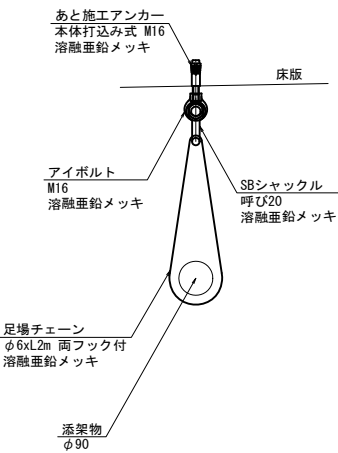
1 - 1



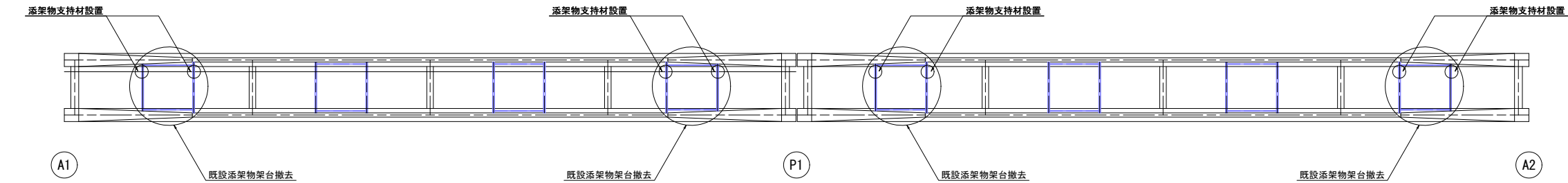
2 - 2



添架物支持材詳細図
n=8



位置図 S=1:100

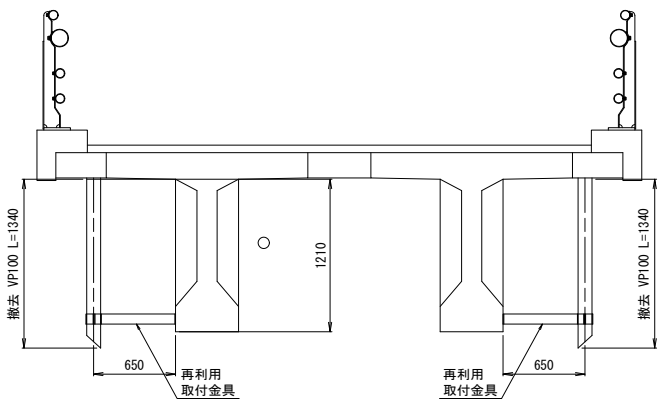


仁 淀 川 町				
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事			
図面名称	添架物支持金具 撤去・復旧図	縮 尺	図 示	
路線河川名	町道岩丸線			
工事箇所	仁淀川町 岩丸			
設計種別	実施設計	図 面 番 号	26	
事務所名	仁淀川町役場		28	
会 社 名				

岩丸橋 排水管撤去・復旧図 S=1:30

撤去

A1橋台・P1橋脚起点側・A2橋台

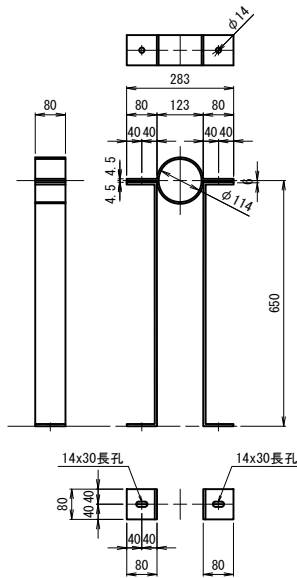


撤去1箇所当り 全3箇所
VP100 L=1340 : 2

再利用1箇所当り 全3箇所
取付金具 : 2

再利用取付金具

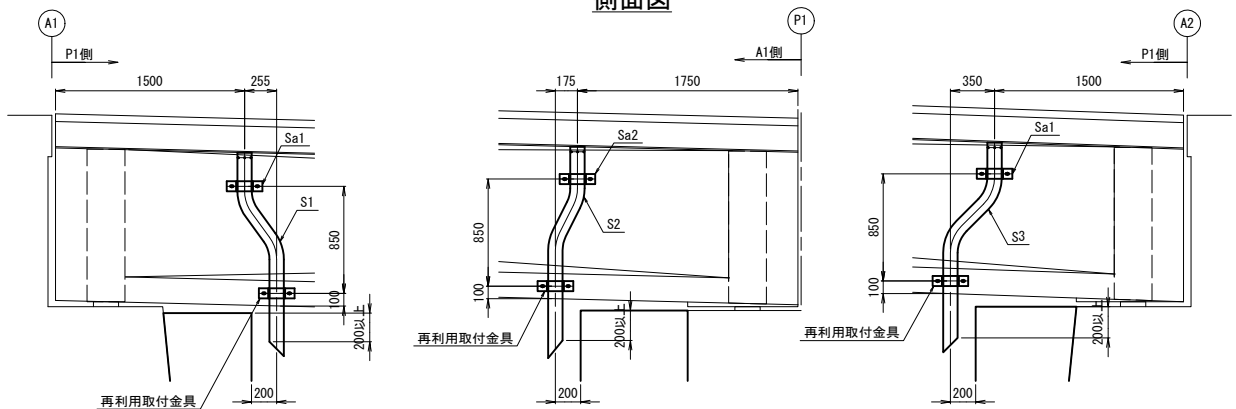
S=1:10



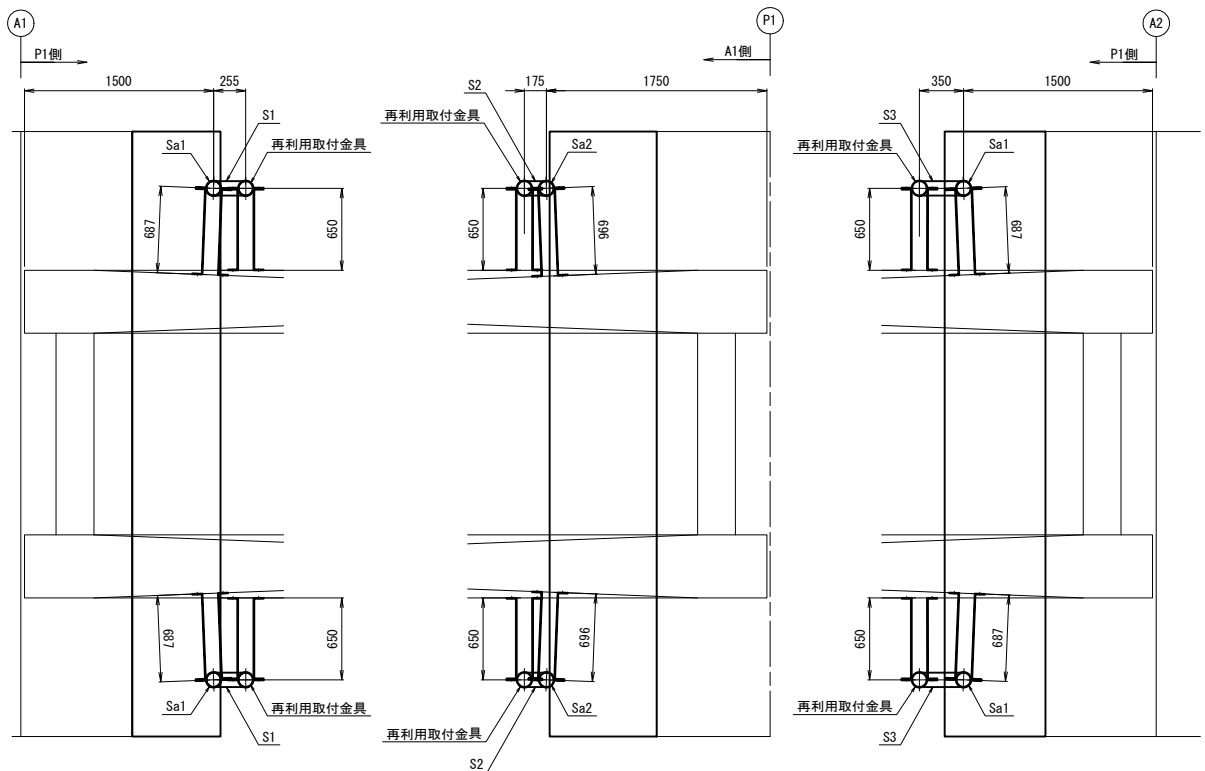
再利用取付金具 1基当り(全6基)
2-PL 80x4.5x346
2-PL 80x6x794
2-B.N. M12x40 (2-W, 1-SW付)

復旧

側面図

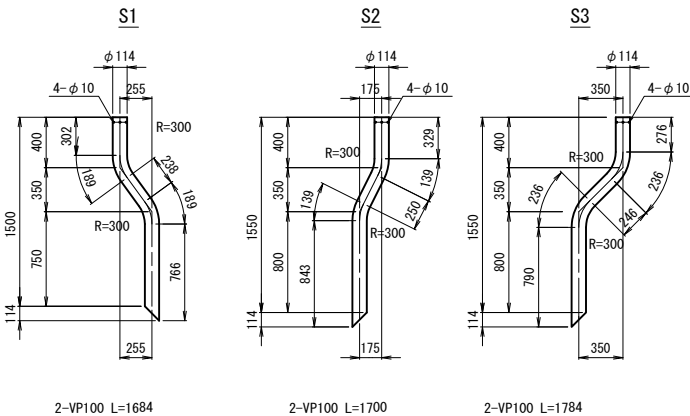


平面図



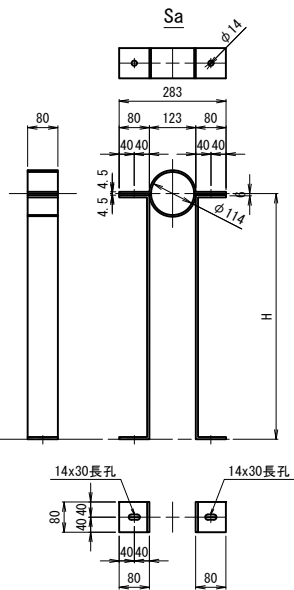
排水管

VP100 曲管



取付金具

S=1:10



取付金具Sa 1基当り(製作数:6)
2-PL 80x4.5x346
2-PL 80x6x L1
2-B.N. M12x40 (2-W, 1-SW付)
2-あと施工アンカー(芯棒打込み式)M12

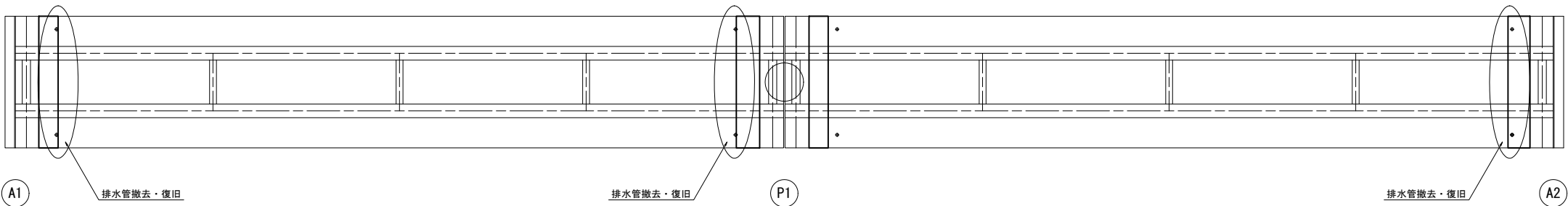
寸法表

	H	L1	製作数
Sa1	687	831	4
Sa2	696	840	2
平均	-	834	2

再利用取付金具 1基当り(全6組)
2-あと施工アンカー(芯棒打込み式)M12

位置図

S=1:100



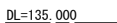
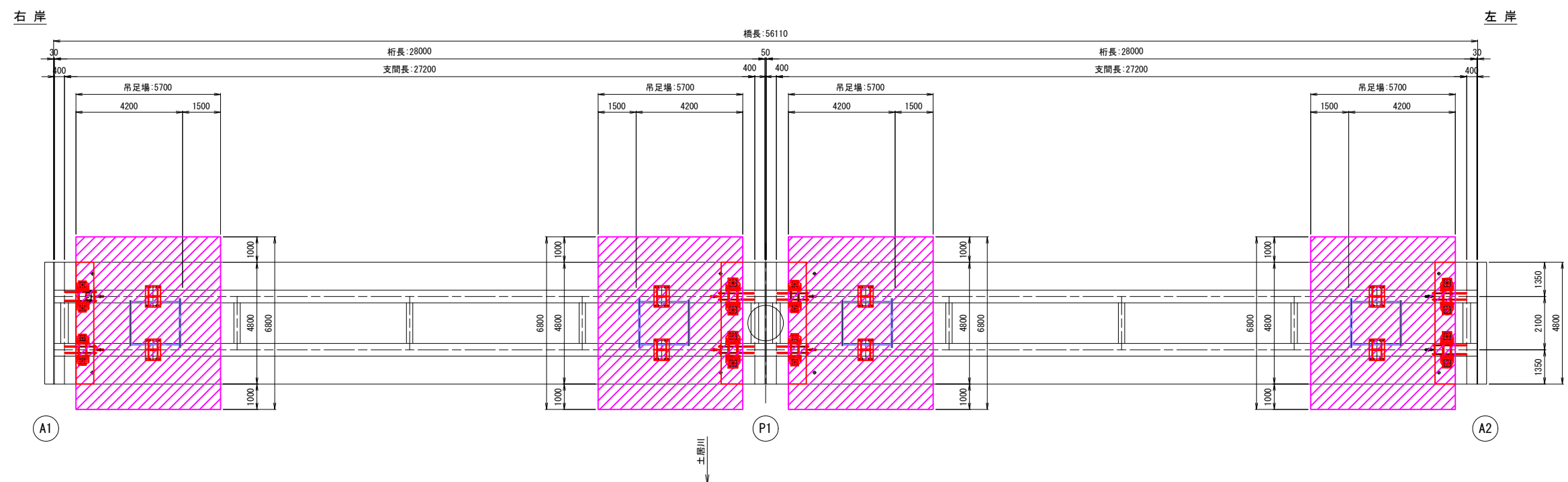
- 注記)
- 特記なき材質は、SS400とする。
 - 取付金具及びボルト類は、溶融亜鉛メッキ仕上げとする。(HDZT49)

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線(岩丸橋)橋梁耐震補強工事		
図面名称	排水管撤去・復旧図	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 面 番 号	27
事務所名	仁淀川町役場		28
会 社 名			

S=1 : 100

断面図

S=1:50

 :吊足場

注記)

1. 現地調査により、各寸法を確認すること。

仁 淀 川 町			
工事種別	令和7年度 防災安全交付金事業 町道岩丸線（岩丸橋）橋梁耐震補強工事		
図面名称	落橋防止システム足場工 参考図	縮 尺	図 示
路線河川名	町道岩丸線		
工事箇所	仁淀川町 岩丸		
設計種別	実施設計	図 番	面 号 28
事務所名	仁淀川町役場		
会 社 名			